
シラバス

授業科目、科目責任者及び単位数 (第 1 学年)

区分		科目	科目責任者		単位	1 学期	2 学期
感性と創造	人と文化	久留米大学の理念と歴史	医学部看護学科	教授 益守 かづき	1	■	
		音楽と癒し	医学部看護学科	教授 古村 美津代	2		○
		文学	文学部	講師 藤本 晃嗣	2		○
		スポーツ科学Ⅰ	人間健康学部	教授 右田 孝志	1	○ (集中講義)	
		スポーツ科学Ⅱ	非常勤講師	石見 香	1	○	○
		倫理学	非常勤講師	丸山 望美	2	■	
		比較文化論	非常勤講師	永吉 守	2		○
		教育学	文学部	講師 小田 茜	2	○	
		心理学	非常勤講師	天満 翔	2	○	
	人と言語	国語表現法	文学部	教授 大庭 卓也	1		■
		英語Ⅰ	外国語教育研究所	教授 島村 恭輔	1	■	■
		オーラルイングリッシュⅠ	外国語教育研究所	教授 キャスリン・アラウ	1	■	■
			非常勤講師	ラッティ・ウィット			
		ドイツ語	非常勤講師	馬場崎 聡美	1	○	
		中国語	外国語教育研究所	教授 李 偉	1	○	
		韓国語	非常勤講師	押川 信久	1	○	
	くらしと社会	社会学	文学部	准教授 平井 太規	2	○	
		生活と経済	非常勤講師	矢野 生子	2		○
		くらしと法	法学部	准教授 藺田 史	2		○
	人と自然	環境科学	医学部看護学科	准教授 松本 悠貴	2	○	
		くらしとサイエンス	医学部自然科学教室 (化学)	教授 東元 祐一郎	2	■	
		人間工学	非常勤講師	松尾 重明	2		○
		情報学	医学教育研究センター	教授 柏木 孝仁	1	■	
		統計・推計学	病院経営室	准教授 宮本 貴宣	1		■
人間と健康	からだの構造とはたらき	からだの構造と機能Ⅰ	医学部看護学科	教授 嵯峨 堅	2	■	
		からだの構造と機能Ⅱ	医学部看護学科	教授 嵯峨 堅	2		■
		からだの代謝	医学部医化学講座	講師 原田 二郎	1		■
	こころの構造とはたらき	こころの生涯発達	非常勤講師	舞弓 京子	1		■
		ボランティア活動	文学部	助教 池田 敏	1	○	
	健康と健康障害	家族社会学	非常勤講師	井上 智史	1		○
		微生物と感染	医学部感染制御学講座	教授 渡邊 浩	1		■
		病理学	医学部病理学講座	教授 三好 寛明	2		■
	看護の実践	看護学概論Ⅰ	医学部看護学科	教授 加悦 美恵	1	■	
		生命・看護倫理	医学部看護学科	准教授 恒松 佳代子	1		■
		生活援助技術Ⅰ	医学部看護学科	准教授 恒松 佳代子	2	■	
		生活援助技術Ⅱ	医学部看護学科	教授 加悦 美恵	1		■
	対象理解と看護活動	地域・在宅看護概論	医学部看護学科	講師 渡邊 理恵	1		■
		公衆衛生看護学概論	医学部看護学科	教授 重松 由佳子	2		■
	臨地実習	生活支援実習	医学部看護学科	教授 加悦 美恵	1		■

■は必修科目

○は選択科目

授業科目、科目責任者及び単位数（第2学年）

区分		科目	科目責任者			単位	1 学期	2 学期
感性と創造	人と言語	英語Ⅱ	非常勤講師 藤原 恵子			1	■	■
		オーラルイングリッシュⅡ	外国語教育研究所	准教授	シャ-ロット ムラカミ	1	■	■
			外国語教育研究所	教授	キャサリン ブラウソ			
人間と健康	からだの構造とはたらき	からだの構造と機能Ⅲ	医学部看護学科	教授	嵯峨 堅	1	■	
	健康と健康障害	社会福祉と社会保障	文学部	教授	片岡 靖子	1	■	
		免疫	医学部免疫学講座	教授	溝口 充志	1	■	
		疫学	医学部看護学科	准教授	松本 悠貴	2		■
		症候学	医学部看護学科	准教授	松本 悠貴	2	■	
		疾病治療論Ⅰ	医学部看護学科	准教授	松本 悠貴	2	■	
		疾病治療論Ⅱ	医学部看護学科	准教授	松本 悠貴	2		■
		臨床薬理	医学部薬理学講座	教授	西 昭徳	2		■
		臨床栄養	栄養部	副部長補佐	山田 泰士	1		■
看護の実践	看護の基本	診療に伴う援助技術	医学部看護学科	講師	三次 貴大	2	■	
		フィジカルアセスメント技術	医学部看護学科	講師	河原田 康貴	1	■	
		人間関係方法論	医学部看護学科	講師	福浦 善友	1	■	
		回復期援助技術	医学部看護学科	講師	孫田 千恵	1		■
		看護過程Ⅰ	医学部看護学科	講師	前野 里子	1		■
	対象理解と看護活動	地域・在宅生活支援論	医学部看護学科	講師	渡邊 理恵	1	■	
		生涯発達看護概論	医学部看護学科	教授	益守 かづき	3	■	
		女性生涯看護概論	医学部看護学科	教授	田中 佳代	1	■	
		ウィメンズヘルス論	医学部看護学科	准教授	加藤 陽子	1		■
		小児生活支援論	医学部看護学科	教授	益守 かづき	1		■
		高齢者生活支援論	医学部看護学科	教授	古村 美津代	1		■
		急性期看護論	医学部看護学科	教授	崎浜 智子	2		■
		慢性期・回復期看護論	医学部看護学科	教授	桐明 あゆみ	2		■
		公衆衛生健康支援論	医学部看護学科	講師	徳澤 麻梨子	2		■
	臨地実習	療養生活支援実習	医学部看護学科	教授	加悦 美恵	2		■
看護の統合	研究	研究Ⅰ	医学部看護学科	准教授	加藤 陽子	1	■	
	看護の発展	家族看護学	医学部看護学科	教授	桐明 あゆみ	1		■
		災害看護学	医学部看護学科	講師	孫田 千恵	1	■	
		国際看護学	医学部看護学科	教授	桐明 あゆみ	1	○	

■は必修科目
○は選択科目

授業科目、科目責任者及び単位数（第3学年）

区分		科目	科目責任者		単位	1 学期	2 学期
人間と健康	こころの構造と はたらき	臨床心理学	非常勤講師	天満 翔	1	■	
	健康と 健康障害	保健医療統計学	医学部看護学科	准教授 桜 勇三郎	2	■	
		保健医療福祉行政論	医学部看護学科	准教授 桜 勇三郎	2	■	
看護の 実践	看護の 基本	健康教育方法論	医学部看護学科	講師 河原田 康貴	2	■	
		看護過程Ⅱ	医学部看護学科	講師 姫野 深雪	1	■	
	対象理解 と 看護活動	地域・在宅療養生活支援論	医学部看護学科	講師 渡邊 理恵	2	■	
		母子健康支援論	医学部看護学科	講師 永田 真理子	2	■	
		終末期・緩和ケア看護論	医学部看護学科	講師 姫野 深雪	1	■	
		高齢者療養生活支援論	医学部看護学科	講師 草場 知子	2	■	
		精神療養生活支援論	医学部看護学科	講師 福浦 善友	2	■	
		小児療養生活支援論	医学部看護学科	講師 藤好 貴子	2	■	
		公衆衛生看護活動論	医学部看護学科	准教授 佐藤 祐佳	3	■	
	臨地実習	地域・在宅療養生活支援実習	医学部看護学科	講師 渡邊 理恵	2		■
		クリティカルケア実習	医学部看護学科	教授 崎浜 智子	3		■
		慢性期・回復期支援実習	医学部看護学科	教授 桐明 あゆみ	4		■
		精神療養生活支援実習	医学部看護学科	講師 福浦 善友	2		■
		母子健康支援実習	医学部看護学科	教授 田中 佳代	2		■
		小児療養生活支援実習	医学部看護学科	教授 益守 かづき	2		■
		地域・高齢者生活支援実習	医学部看護学科	教授 古村 美津代	3		■
看護の 統合	研究	研究Ⅱ	医学部看護学科	教授 益守 かづき	1	■	

■は必修科目

授業科目、科目責任者及び単位数（第4学年）

区分		科目	科目責任者			単位	1 学期	2 学期
看護の 実践	看護の 基本	看護学概論Ⅱ	医学部看護学科	講師	前野 里子	1	■	
	対象理解 と 看護活動	公衆衛生看護技術演習	医学部看護学科	准教授	佐藤 祐佳	2	○	
		公衆衛生看護管理演習	医学部看護学科	教授	重松 由佳子	2	○	
		保健医療福祉政策演習	医学部看護学科	准教授	桜 勇三郎	1	○	
	臨地実習	看護総合実習	医学部看護学科	准教授	加藤 陽子	2	■	
		公衆衛生看護実習	医学部看護学科	教授	重松 由佳子	5	○	○
看護の 統合	研究	研究Ⅲ	医学部看護学科	教授	田中 佳代	2	■	■
	看護の 発展	看護管理	医学部看護学科	教授	崎浜 智子	1	■	
		看護総合演習	医学部看護学科	教授	古村 美津代	1		■
		がん看護学	医学部看護学科	教授	桐明 あゆみ	1	○	
		多職種連携教育	医学部看護学科	教授	古村 美津代	1	■	
		最先端の医療と看護	医学部看護学科	准教授	加藤 陽子	1	○	
		公衆衛生看護管理論	医学部看護学科	教授	重松 由佳子	2	○	

■は必修科目
○は選択科目

科目ナンバリングコードについて

科目ナンバリングコードは科目に学問分野、学習段階、順序等を示す番号を付し、教育課程の体系的性を示しています。本学科では次のとおり各科目をナンバリングしています。

型式	内容	看護学科
ABC アルファベット 3文字	学問分野の区分	NUS (Nursing Science)：看護学
		PHN (Public Health Nursing)：公衆衛生看護学
		ANT (Anthlopology)：人類学・民俗学
		BMS (Basic Medical Science)：基礎医学系
		CLM (Clinical Medicine)：臨床医学系
		CLP (Clinical Psychology)：臨床心理学
		ECN (Economics)：経済学
		ENV (Environment Science)：環境学
		FLE (Foreign Language Education)：外国語教育
		HSS (Health Sports Sience)：健康スポーツ科学
		IFS (Information Science)：情報科学
		LAW (Law)：法学
		LIN (Linguistics)：言語学
		LIT (Literature)：文学
		NAT (Natural Science)：自然科学
		PDG (Pedagology)：教育学
		PHL (Philisophy and Ethics)：哲学・倫理学
		PSY (Psychology)：心理学
		RES (Regional Stuides)：地域学
		SBM (Social Behavioral Medicine)：社会行動医学系
SOC (Sociology)：社会学		
STS (Statistical Science)：統計科学		
SWS (Social Welfare Studies)：社会福祉学		
THE (Graduation Thesis)：卒業研究		
1 数字1桁	学修レベル	1 (入門・導入・啓発・初級) 2 (基本・総論・中級) 3 (発展・応用・上級) 4 (学士課程最終)
2 数字1桁	授業形態	1 (講義) 6 (オンディマンド) 2 (演習) 7 (研究指導・論文) 3 (外国語) 8 (他大学単位互換) 4 (実習・実験・実技) 9 (海外研修・留学) 5 (フィールドワーク・学外) 0 (その他)
3 数字1桁	学問分野小分類	・看護学 (NUS) 1 (人間と健康：からだと生活) 5 (看護の実践：展開) 2 (看護の実践：看護の基本) 6 (看護の実践：臨地実習) 3 (看護の実践：看護技術) 7 (看護の統合：発展) 4 (看護の実践：方法) 8 (看護の統合：研究) ・看護学 (NUS) 以外の教養科目、医学系科目、公衆衛生看護学等は久留米大学学問分野小分類に準ずる。
4 数字1桁	科目番号	系統的な科目の順序性を示す (単独科目は全て 1)。 なお、教養科目などは久留米大学科目番号に準ずる。
DE アルファベット 2文字	開設部門	全て MN (医学部看護学科)
E 英数字1文字	卒業要件類別	1 (1年必修科目) 5 (3年必修科目) 2 (1年選択科目) 6 (3年選択科目) 3 (2年必修科目) 7 (4年必修科目) 4 (2年選択科目) 8 (4年選択科目)

授業科目一覧(シラバス目次)

1 年次科目

久留米大学の理念と歴史	57
音楽と癒し	58
文学	59
スポーツ科学Ⅰ	60
スポーツ科学Ⅱ	61
倫理学	62
比較文化論	63
教育学	64
心理学	65
国語表現法	66
英語Ⅰ	67
オーラルイングリッシュⅠ	68
ドイツ語	70
中国語	71
韓国語	72
社会学	73
生活と経済	74
くらしと法	75
環境科学	76
くらしとサイエンス	77
人間工学	78
情報学	79
統計・推計学	81
からだの構造と機能Ⅰ	82
からだの構造と機能Ⅱ	84
からだの代謝	86
こころの生涯発達	87
ボランティア活動	88
家族社会学	89
微生物と感染	90
病理学	91
看護学概論Ⅰ	92
生命・看護倫理	93
生活援助技術Ⅰ	94
生活援助技術Ⅱ	96
地域・在宅看護概論	97
公衆衛生看護学概論	98
生活支援実習	99

2 年次科目

英語Ⅱ	100
オーラルイングリッシュⅡ	102
からだの構造と機能Ⅲ	104
社会福祉と社会保障	105
免疫	106
疫学	107
症候学	108
疾病治療論Ⅰ	109
疾病治療論Ⅱ	110
臨床薬理	111
臨床栄養	112
診療に伴う援助技術	113
フィジカルアセスメント技術	114

人間関係方法論	115
回復期援助技術	116
看護過程Ⅰ	118
地域・在宅生活支援論	119
生涯発達看護概論	120
女性生涯看護概論	122
ウィメンズヘルス論	123
小児生活支援論	125
高齢者生活支援論	127
急性期看護論	128
慢性期・回復期看護論	130
公衆衛生健康支援論	132
療養生活支援実習	133
研究Ⅰ	135
家族看護学	136
災害看護学	137
国際看護学	139

3 年次科目

臨床心理学	140
保健医療統計学	141
保健医療福祉行政論	142
健康教育方法論	143
看護過程Ⅱ	144
地域・在宅療養生活支援論	146
母子健康支援論	148
終末期・緩和ケア看護論	150
高齢者療養生活支援論	152
精神療養生活支援論	154
小児療養生活支援論	156
公衆衛生看護活動論	158
地域・在宅療養生活支援実習	160
クリティカルケア実習	161
慢性期・回復期支援実習	163
精神療養生活支援実習	164
母子健康支援実習	165
小児療養生活支援実習	166
地域・高齢者生活支援実習	167
研究Ⅱ	168

4 年次科目

看護学概論Ⅱ	169
公衆衛生看護技術演習	170
公衆衛生看護管理演習	171
保健医療福祉政策演習	172
看護統合実習	173
公衆衛生看護実習	174
研究Ⅲ	175
看護管理	176
看護総合演習	177
がん看護学	178
多職種連携教育	179
最先端の医療と看護	180
公衆衛生看護管理論	181

科目名 ナンバリングコード	久留米大学の理念と歴史 RES1511MN1	必修科目	1 年次 1 学期	講義・実習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 益守 かづき				
科目担当者	久留米大学学長 内村 直尚 医学部看護学科 水落 裕美、松本 くらら、松野 史				
教員の実務経験	この科目は専門病院で看護師として実務経験がある教員が担当し、看護師として勤務して得た知識を教えている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP6の地域及び国際的視野で、社会に貢献することができる能力の②国内外で暮らす人々の健康・生活の質の向上に貢献する基礎力を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 久留米大学の歴史を理解する。 2) 久留米大学医学部看護学科の歴史を理解する。 3) 久留米の歴史と生活、経済、文化のつながりを中心に、地域住民の健康について考察し、建学の精神との関連を探究する。 到達目標 1) 久留米大学の建学の精神を説明できる。 2) 久留米大学の歴史について説明できる。 3) 医学部看護学科の歴史について説明できる。 4) 久留米の歴史、久留米の産業や文化について説明できる。 5) 産業や文化より地域住民の健康について説明できる。				
授業概要	授業と現地学習・体験学習を通して、久留米大学が目指す理念についての理解を深める。課題や現地学習・体験学習を通して、人の生活と密着している経済・文化と健康の関連性について考察する。さらに、産業が発展し、国内外で発展進化する方略についての理解を深め、生活を支援する専門職者としての役割を探究することに繋げる。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回	久留米大学の理念と歴史、建学の精神 久留米大学の看護師養成の歴史 久留米と久留米絣とゴム産業について 久留米絣と文化	内村【講義】 益守【講義】 益守【講義】 益守【講義】 ＊ゲストスピーカー 益守・水落・松本・松野【実習】	【復習】 各授業の配布資料、 学生生活案内を基に 復習。	復習で 20 分程度。	
第 5・6 回	現地学習：アサヒシューズ工場（久留米とゴム産業の発展、ゴム惨状と企業再生、シューズと健康等）	益守・水落・松本・松野【実習】	【課題】 ①「久留米絣と健康」 ②「ゴム産業と健康」 について文献検索し、 まとめる。	課題① 2 時間、 課題② 2 時間程度	
第 7・8 回	現地学習：久留米絣工房「藍生庵」（久留米と地衣類、文化の継承と科学的探究、久留米絣人間国宝 松枝玉記の藍への思い）				
テキスト	必要時資料を配布する。 学生生活案内を持参すること。				
参考書	必要時提示する。				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (40%) 課 題 (30%) 現地実習・体験学習後のレポートと態度 (30%)	・到達目標 1) ～ 2) においては、達成度を筆記試験の正答率で評価する。 ・到達目標 3)4)5) においては課題①②を提示し、明文化され、考察できていること。また、現地学習・体験学習への参加は必須とし、現地でのディスカッションや体験への主体的参加状況を評価ポイントとする。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック		課題①②は採点后、「現地学習」前に返却する。現地学習・体験学習後のレポートは採点し、返却する。			

科目名 ナンバリングコード	音楽と癒し NUS1111MN2	選択科目	1 年次 2 学期	講義・演習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 古村 美津代				
科目担当者	非常勤講師 田口 友美（佐賀大学）、池田 憲治（介護老人保健施設フォレスト熊本）				
教員の実務経験	本科目は、音楽の教員・音楽療法士として実務経験がある教員が担当し、入院患者、高齢者、障害者、地域住民などに実践している音楽療法の経験から得た知識・技術を教えている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP1 の豊かな感性と創造力をもち、主体的に行動することができる能力の①人々の文化や価値観、心理・社会面を理解するための基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 音楽の活用に関する、基礎的な知識を説明できる。 2) 音や音楽の知覚・認知、音楽と人間の心の関係から医療福祉分野において実践できる。 到達目標 1) 音・音楽が心身に与える効能について説明できる。 2) 各領域対象者（高齢者・障害児・精神疾患・医療現場等）の音楽の活用方法について説明できる。 3) 将来就く仕事や自分の日常生活の中で、どのように音楽を活用するか考察できる。				
授業概要	・提示された資料を予習した上で講義、演習、発表を取り入れながら授業を進める。 ・授業の理解を確認するため、毎回ミニッツペーパーを課す。 ・講義・演習は、能動的音楽療法と受動的音楽療法を、楽器やデジタル機器等を使用して実施する。 ・演習はグループで協働し進め、発表はセラピスト役、対象者役に分かれて実施する。 ・地域の高齢者または障害者とオンラインで合奏を行い、音楽を共有する体験を行う。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	イントロダクション 音楽と癒し	池田【講義】	テキスト・シラバスの確認	30 分	
第 2 回	私と音楽	田口【演習】	影響を受けた音楽をリストアップしておく	30 分	
第 3 回	音楽療法の体験・実践方法	池田【演習】	シラバスの確認	30 分	
第 4 回	児童・高齢者への音楽療法	池田【演習】	テキスト・シラバスの確認	30 分	
第 5 回	身近な音 (Soundscape)	田口【演習】	テキスト・シラバスの確認	30 分	
第 6 回	身近な物で楽器を作る	田口【演習】	想定する楽器の材料を身近な物で準備する	30 分	
第 7 回	アプリで音楽作り	田口【演習】	テキスト・シラバスの確認	30 分	
第 8 回	替え歌	田口【演習】	テキスト・シラバスの確認	30 分	
第 9 回	障害者（児）への音楽の活用方法	田口【講義】	テキスト・シラバスの確認	30 分	
第 10 回	オンラインを利用した音楽療法の実践	田口【演習】	テキスト・シラバスの確認	30 分	
第 11 回	医療現場への音楽の活用方法・研究	田口【講義】	テキスト・シラバスの確認	30 分	
第 12 回	領域における音楽の活用（計画）	池田【演習】	計画作成	30 分	
第 13 回	領域における音楽の活用（計画）	池田【演習】	計画作成	30 分	
第 14 回	領域における音楽の活用（発表）	池田【演習】	各グループで発表の実施	30 分	
第 15 回	総括 看護と音楽	田口【演習】	最終レポート	60 分	
テキスト	・初学者にも、ベテランにも役立つ音楽療法 効果・やり方・エビデンスを知る 第 4 版 : 高橋多喜子（株）金芳堂 2021 年 ・必要な時資料を配布する				
参考書	なし				
成績評価					
方法（割合）	基準				
受講態度（20%） 演習（40%） レポート（30%） ミニッツペーパー（10%）	講義への受講態度、グループ演習、ミニッツペーパー、レポートで総合的に評価する。 授業態度は、積極的な態度、演習の取り組み状況から評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		課題に対するフィードバックは講義の中で行う。 最終のレポートは返却しない。			

科目名 ナンバリングコード	文学 LIT1107MN2	選択科目	1 年次 2 学期	講義	2 単位
科目責任者	文学部 講師 藤本 晃嗣				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP1 の豊かな感性と創造力をもち、主体的に行動することができる能力の①人々の文化や価値観、心理・社会面を理解するための基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 日本近代文学の作品を通して日本の文化や社会についての知識を習得するとともに、小説を読むための技法を学ぶ中で言語文化に対する理解を深める。 到達目標 1) 近代以降の日本の文学・文化の特徴について説明できる。 2) 日本近代文学の代表的な作品について、その内容と特色について説明できる。 3) 小説作品を自ら解釈し、その解釈の根拠について説得力のある説明ができる。				
授業概要	文学作品についてテキストの内容をもとに解説を行う。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	概論 日本近代文学について	藤本【講義】	これまで身につけた近代文学についての知識を確認する。	30 分	
第 2 回	日本近代文学で扱われる問題について	藤本【講義】	日本近代文学の特徴について調べる。	30 分	
第 3 回	夏目漱石『三四郎』①	藤本【講義】	テキストの該当箇所を読む。	30 分	
第 4 回	夏目漱石『三四郎』②	藤本【講義】	テキストの該当箇所を読む。	30 分	
第 5 回	森鷗外『青年』①	藤本【講義】	テキストの該当箇所を読む。	30 分	
第 6 回	森鷗外『青年』②	藤本【講義】	テキストの該当箇所を読む。	30 分	
第 7 回	田山花袋『田舎教師』①	藤本【講義】	テキストの該当箇所を読む。	30 分	
第 8 回	田山花袋『田舎教師』②	藤本【講義】	テキストの該当箇所を読む。	30 分	
第 9 回	武者小路実篤『友情』①	藤本【講義】	テキストの該当箇所を読む。	30 分	
第 10 回	武者小路実篤『友情』②	藤本【講義】	テキストの該当箇所を読む。	30 分	
第 11 回	徳富蘆花『不如帰』①	藤本【講義】	テキストの該当箇所を読む。	30 分	
第 12 回	徳富蘆花『不如帰』②	藤本【講義】	テキストの該当箇所を読む。	30 分	
第 13 回	有島武郎『或る女』①	藤本【講義】	テキストの該当箇所を読む。	30 分	
第 14 回	有島武郎『或る女』②	藤本【講義】	テキストの該当箇所を読む。	30 分	
第 15 回	まとめ	藤本【講義】	これまでの内容を復習する。	60 分	
テキスト	必要時、資料を配布する。				
参考書	斎藤 美奈子『出世と恋愛 近代文学で読む男と女』（講談社現代新書、2023 年 6 月）				
成績評価					
方法（割合）	基準				
レポート（70%） 受講態度（30%）	到達目標に達しているかどうか、達成度を評価する。 講義中に指示する課題などの取り組み状況に応じて評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		提出された課題を確認した後に授業内でフィードバックを行う。			

科目名 ナンバリングコード	スポーツ科学Ⅰ HSS1116MN2	選択科目	1 年次 集中講義	講義	1 単位
科目責任者	人間健康学部 教授 右田 孝志				
科目担当者	人間健康学部 吉田 典子、奥野 真由				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 現代社会における健康問題を知る。 2) 運動に伴う身体の生理・生化学的応答、運動がこころや身体に及ぼす効果・影響を学ぶ。 3) 運動実践上の留意点を学ぶ。 到達目標 1) 運動に伴う心身の生理的応答と運動が心身に及ぼす効果を理解し、説明できるようになる。 2) 日常生活で運動を安全に実践できるようになる。				
授業概要	3 名の分担で、基本的には講義形式で展開し、適宜質問等を問いかけながら進める。また、各自の授業の振り返りを促すことを目的に、各回または担当回をまとめて小テストもしくはレポートを課す。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	運動とからだ（1）運動と身体組成	右田【講義】	身体の構成要素をまとめること	60 分	
第 2 回	運動とからだ（2）筋力・パワーと運動	右田【講義】	筋力とパワーの違いをまとめること	60 分	
第 3 回	運動とからだ（3）有酸素運動	右田【講義】	運動に対する循環系の応答をまとめること	60 分	
第 4 回	運動とこころ（1）—モチベーションの心理—	奥野【講義】	モチベーションのしくみ	60 分	
第 5 回	運動とこころ（2）—健康スポーツ・競技スポーツと心理—	奥野【講義】	競技現場で行われている心理面のサポート	60 分	
第 6 回	運動への医学的アプローチ（1）身体活動の効果	吉田【講義】	運動トレーニングの効果	60 分	
第 7 回	運動への医学的アプローチ（2）身体活動と疾病予防	吉田【講義】	心臓リハビリテーション	60 分	
第 8 回	運動への医学的アプローチ（3）運動療法	吉田【講義】	運動処方	60 分	
テキスト	必要時、資料を配布する。				
参考書	健康づくりへのアプローチ 生活習慣改善マニュアル第 4 版 石川兵衛 著 文光堂 2010 年				
成績評価					
方法（割合）	基準				
受講態度（30％） 試験（70％）	担当教員毎に試験実施またはレポートの課題を与え 100 点満点で評価し、担当講義数で重み付けをした平均を本授業の評価とする。また、私語をはじめとした授業にふさわしくない態度をとる学生、無断退出等の学生には受講を認めない場合がある。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		課題に対するフィードバックは各回の講義中に行う。 最終のレポートは返却しない。			

科目名 ナンバリングコード	スポーツ科学 II HSS1416MN2	選択科目	1 年次 A クラス 1 学期 B クラス 2 学期	実習	1 単位
科目責任者	非常勤講師 石見 香				
教員の実務経験	この科目は新体操クラブでの実務経験を基盤とした実習を展開している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 健康維持のために必要なトレーニングやレクリエーションスポーツに親しむ。 2) 生涯スポーツを実践することで得られる効果や心身の変化を体感し、その楽しさと重要性を学ぶ。 到達目標 1) 生涯スポーツについて基礎的な技能を身に付け、説明することができる。(知識・理解・技能) 2) 生涯スポーツを通じて場面に応じた発言や行動ができる。(態度・思考) 3) 自己の身体の現状、課題を把握し、今後のライフスタイルで健康に過ごすための自己管理法を述べることができる。(関心・意欲)				
授業概要	本授業では全面的な体づくり及び、レクリエーションスポーツなど実技を中心に行う。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	オリエンテーション	石見【実習】	シラバスを熟読しておく	15 分	
第 2 回	基礎的な体力の向上①（ストレッチ・柔軟）	石見【実習】	エクササイズの復習	30 分	
第 3 回	基礎的な体力の向上②（基礎的なステップ）	石見【実習】	エクササイズの復習	30 分	
第 4 回	手具を使った身体活動①（フープの活用）	石見【実習】	参考映像の予習	30 分	
第 5 回	手具を使った身体活動②（ボールの活用）	石見【実習】	参考映像の予習	30 分	
第 6 回	手具を使った身体活動③（ロープの活用）	石見【実習】	参考映像の予習	30 分	
第 7 回	手具を使った身体活動④（リボンの活用）	石見【実習】	参考映像の予習	30 分	
第 8 回	手具を使った身体活動⑤（音楽に合わせて）	石見【実習】	参考映像の予習	30 分	
第 9 回	手具を使った身体活動⑥（レクリエーション）	石見【実習】	参考映像の予習	30 分	
第 10 回	レクリエーションスポーツによる運動能力の向上（⑩～⑭）	石見【実習】	予習・復習	30 分	
第 11 回		石見【実習】	予習・復習	30 分	
第 12 回		石見【実習】	予習・復習	30 分	
第 13 回		石見【実習】	予習・復習	30 分	
第 14 回		石見【実習】	予習・復習	30 分	
第 15 回	ライフスタイルに関するまとめ	石見【実習】	授業全体のまとめ	60 分	
テキスト	必要時、資料を配布する。				
参考書	表現スポーツのコンディショニング、有吉与志恵、秋山エリカ、ベースボール・マガジン社 2016 年				
成績評価					
方法（割合）	基準				
受講態度（80％） レポート（20％）	授業への積極的に取り組む姿勢を総合的に評価する。 課題内容に対して、的確に具体的に述べていること。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		フィードバックは各回授業中に行う。最終のレポートは返却しない。			

科目名 ナンバリングコード	倫理学 PHL1130MN1	必修科目	1年次 1学期	講義・演習	2単位
科目責任者	非常勤講師 丸山 望実				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP2 の倫理観に基づき、人権を尊重・擁護することができる能力の①生命・人の尊厳を護る基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 「倫理学」と呼ばれる学問は、長い歴史を持っているが、その内容は大きく三つに分けることができる。第一に「善い」といった道徳的な性質についての概念分析を行うメタ倫理学。第二に「善い行い」であるための基準について考察を行う規範倫理学。第三にこれらの研究成果を踏まえ、実際の問題に取り組んでいく応用倫理学。本講義では、以上三つの論点について、あくまで哲学的な観点から、倫理学という学問全体の概説をすることを目標とする。 到達目標 1) 倫理学における専門的な諸概念を理解するとともに、自分なりに説明できるようになる。 2) 自らの関心に従い、倫理的な問題点を発見することができるようになる。 3) 身に着けた諸概念をもとに、自分なりに倫理的な問題について考え、主張することができるようになる。				
授業概要	履修主題に関する予習をしたうえで、講義形式で授業を進める。 講義終了時に課題を与え、次週紹介・コメントをする。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	メタ倫理学（１）メタ倫理学とは何か メタ倫理学（２）メタ倫理学にはどのような立場があるのか メタ倫理学（３）道徳の非实在論 メタ倫理学（４）道徳の实在論①自然主義 メタ倫理学（５）道徳の实在論②非自然主義的な实在論 メタ倫理学（６）第三の立場、静寂主義 規範倫理学（１）功利主義 規範倫理学（２）義務論 規範倫理学（３）徳倫理学 応用倫理学（１）整形の倫理 応用倫理学（２）ドーピングの倫理 応用倫理学（３）サイボーグ化の倫理 応用倫理学（４）スマートドラッグの倫理 応用倫理学（５）遺伝子操作の倫理 応用倫理学（６）モラルエンハンスメントの倫理	丸山【講義】 丸山【講義・演習】 丸山【講義・演習】 丸山【講義・演習】 丸山【講義・演習】 丸山【講義・演習】 丸山【講義・演習】 丸山【講義・演習】 丸山【講義】 丸山【講義・演習】 丸山【講義・			

科目名 ナンバリングコード	比較文化論 ANT1109MN2	選択科目	1 年次 2 学期	講義	2 単位
科目責任者	非常勤講師 永吉 守				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP6 の地域及び国際的視野で、社会に貢献することができる能力の①異なる文化や多様な考えを尊重することの大切さを理解することを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) グローバルな視点を持ち、具体的に行動につなげる思考様式を促す。 2) 世界には様々な文化・社会が存在することを示し、その相違性と共通性の理解から多文化共生を促す。 到達目標 1) 文化と社会の概念が理解できる。 2) 人間の文化として、言語、生業、社会組織、家族と親族、信仰、性などが存在することを説明できる。 3) 文化や社会の単位として、民族集団やエスニシティなどが重要であることを説明できる。 4) 異文化理解の態度として、文化相対主義的な寛容性が重要であることを説明できる。 5) グローバリゼーションについて、文化的文脈として説明できる。 6) 異文化理解に基づく多文化共生について、現代の日本社会の状況から理解し、地球市民として行動できる。				
授業概要	本講義は、グローバルな視野で物事をとらえ、医療に活かすために文化人類学を基礎とした具体的な文化の比較を通して、文化相対主義的視点を養うことをめざす。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	イントロダクション	永吉【講義】	シラバスの確認	10 分	
第 2 回	比較文化の手法（文化人類学的視点と方法）	永吉【講義】	手法を事前調査	20 分	
第 3 回	「社会」の概念・「文化」の概念	永吉【講義】	キーワードを事前調査	20 分	
第 4 回	文化相対主義と自民族中心主義	永吉【講義】	キーワードを事前調査	20 分	
第 5 回	ことば・衣食住・生業の比較文化	永吉【講義】	具体的事例を事前調査	20 分	
第 6 回	「社会」や「文化」の単位	永吉【講義】	キーワードを事前調査	20 分	
第 7 回	家族・親族組織・結婚の比較文化（1）	永吉【講義】	具体例を予め想定	20 分	
第 8 回	家族・親族組織・結婚の比較文化（2）	永吉【講義】	具体例を予め想定	20 分	
第 9 回	信仰や宗教の比較文化ー「死」の事例からー	永吉【講義】	キーワードを事前調査	20 分	
第 10 回	グローバリゼーションと異文化理解（1）	永吉【講義】	キーワードを事前調査	20 分	
第 11 回	グローバリゼーションと異文化理解（2）	永吉【講義】	理論還元を事後確認	20 分	
第 12 回	多文化共生への道（1）ー在日コリアンー	永吉【講義】	理論還元を事後確認	20 分	
第 13 回	多文化共生への道（2）ーユンヌンチューー	永吉【講義】	理論還元を事後確認	20 分	
第 14 回	多文化共生への道（3）ー定住外国人ー	永吉【講義】	理論還元を事後確認	20 分	
第 15 回	医療・看護と比較文化、まとめ	永吉【講義】	15 回全体を事後まとめ	20 分	
テキスト	特に指定のものは用いないが、毎回講義資料を配布。				
参考書	綾部恒雄・桑山敬己『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房、2010 年。ほか適宜指示。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
レポート（100％）	講義内容に基づき、到達目標の達成度をレポート内のオリジナルな具体例と合わせて評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		毎回、質問・感想をフォームに記述し、その応答を次回印刷配布。			

科目名 ナンバリングコード	教育学 PDG1101MN2	選択科目	1 年次 1 学期	講義	2 単位
科目責任者	文学部 講師 小田 茜				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP1 の豊かな感性と創造力をもち、主体的に行動することができる能力の②自らの考えを論理的に表現し共に議論し考えを創造することを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 教育のイメージを広げる（特に、社会教育、民間教育、青年期教育）とともに、教育と社会の関係に注目することで、教育の現状を身近な社会問題とも結びつけながら理解する。 2) 1) について教材に加え DVD 視聴や、個人ワーク、グループワークを通じて主体的・実践的に教育問題に対して向き合うことを目指す。 到達目標 1) 教育の諸問題に関する基本的知識を身に付け、自分で説明できるようになる。 2) 自らの教育観・学習観を見直し、これら 2 つを客観的に捉え直すことができるようになる。				
授業概要	本授業は、教育・学習に対する見方・考え方の幅を広げるとともに、人びとのキャリア形成にいかに関与し影響を与えてきたのかについて、教育をめぐる諸テーマに着目しながら、検討できるようになることを目指します。教育といえば「学校で教師が児童生徒に知識を教える」イメージを持たれがちですが、実際は教育・学習は、学校だけではなく、博物館や図書館、趣味や労働の場など、様々な場に広がっており、また「子ども」に限らず若者・成人、高齢者など様々なライフステージに開かれています。教育・学習のイメージの幅を広げ、今日の教育・学習とキャリア形成の関係を理解できるようになることを目指します。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	オリエンテーション 「教育」のイメージを広げる① 「教育」のイメージを広げる② 社会教育を知る①（公民館、図書館、博物館） 社会教育を知る②（生涯学習概念より） 部活動の意義と課題を考える①（生徒・保護者の観点） 部活動の意義と課題を考える②（教員の観点） 青年期の現在を考える①（大学進学理由を振り返る） 青年期の現在を考える②（青年の「生きづらさ」と教育） 子ども・青年の支援を考える①（不登校、貧困） 子ども・青年の支援を考える②（ドキュメント視聴） ジェンダーと教育を考える① ジェンダーと教育を考える② 青年のキャリア形成と教育の関係を考える まとめ	小田【講義】 小田【講義】 小田【講義】 小田【講義】 小田【講義】 小田【講義】 小田【講義】 小田【講義】 小田【講義】 小田【講義】 小田【講義】 小田【講義】 小田【講義】 小田【講義】 小田【講義】	予習：関心の持った教育に関する新聞記事やニュースを整理する。 復習：授業で示したポイントの整理をする。	各回、予習／復習で最低 2 時間程度の主体的な学びが必要となる。	
テキスト	適宜配布します。				
参考書	適宜配布します。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
受講態度及びミニレポート（30%） 最終レポート（70%）	・到達目標②が達成できているかについて、グループワークへの参加度や、ミニツッパーパー等の記載等から評価します。 また、到達目標①が達成できているかどうかについては、授業期間中に提出を求めるミニレポート内容から評価します。 ・学期末に課す最終レポートで、到達目標①②の理解度・定着度を総合的に評価します。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		その都度、自己評価と他者評価を行う。			

科目名 ナンバリングコード	心理学 PSY1100MN2	選択科目	1 年次 1 学期	講義	2 単位
科目責任者	非常勤講師 天満 翔				
教員の実務経験	この科目は臨床心理士及び公認心理師として病院等での実務経験を基盤とした講義を展開する。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP1 の豊かな感性と創造力をもち、主体的に行動することができる能力の①人々の文化や価値観、心理・社会面を理解するための基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 看護師にとって不可欠な人間の行動やこころの動きに関する知識を身に付ける。 2) 現代社会における身近なトピックのなかでも、とくに他者との関わりに焦点を当てて、エビデンスに基づいた心理学の研究成果を習得する。 到達目標 1) 日常生活における人間のこころの動きについて説明できる。 2) これまでの自分の生活を振り返る作業を通して、反省的実践について述べるができる。				
授業概要	心理学の歴史と過去の研究を総論的に紹介し、発達、情動、性格、ストレス、知覚、学習、記憶、社会といった心理学の各領域について解説する。講義による授業形態を中心にしながら、受講者同士でのグループディスカッション、ワークも積極的に展開する。講義に必要な資料は適宜 Hondana 上に掲載するため、事前に各自で準備して講義に臨むこと。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	心理学とは 心の進化・心の発達 ライフサイクル 動機づけと情動 性格 知能 ストレスとメンタルヘルス① ストレスとメンタルヘルス② カウンセリングと心理療法① カウンセリングと心理療法② 感覚・知覚 学習・言語 記憶・思考 脳と心・脳損傷と心の動き 社会のなかの人・心と社会	天満【講義】 天満【講義】 天満【講義】 天満【講義】 天満【講義】 天満【講義】 天満【講義】 天満【講義】 天満【講義】 天満【講義】 天満【講義】 天満【講義】 天満【講義】 天満【講義】 天満【講義】	・ 次回の講義内容について テキストの該当箇所を予め通読しておくこと ・ 講義中に示した重要語（専門用語）についてテキストならびにインターネットを活用して十分に理解を深める	各 20 分	
テキスト	長谷川寿一、東條正城、大島尚ほか『はじめて出会う心理学―第 3 版―』有斐閣アルマ 2020				
参考書	講義の中で提示する。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
課題（60%） レポート（20%） 受講態度（20%）	講義内容をもとにした定期試験から到達目標の達成度を評価する。 講義内で提示するレポートをもとに到達目標の達成度を評価する。 講義やワークへの積極的な参加姿勢を評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		講義の中で解説する。			

科目名 ナンバリングコード	国語表現法 LIN1123MN1	必修科目	1 年次 2 学期	講義	1 単位
科目責任者	文学部 教授 大庭 卓也				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP1 の豊かな感性と創造力をもち、主体的に行動することができる能力の②自らの考えを論理的に表現し共に議論し考えを創造することを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 教育学の方法技術には、教える技術（教授学）と学ぶ技術（学習論）があるが、本講義では学ぶ技術に焦点づけ、能力向上を図る。 到達目標 1) “明晰な” 文章を書き、それを相手に “誤りなく” 伝えるための作文技術を身につける。 2) 上記を習得することで、コミュニケーションを不可欠とするチーム医療や、患者に誠意をもって “誤りなく” 伝えるインフォームド・コンセントなど、看護の仕事遂行できるようになる。				
授業概要	日本語表現のあり方について様々な視点から説明および議論をする。また出来るだけ多く作文をする機会を設ける。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	国語表現の周辺	大庭【講義】			
第 2 回	自分の文章力を知る（1）	大庭【講義】	前回講義の復習	30 分	
第 3 回	自分の文章力を知る（2）	大庭【講義】	前回講義の復習	30 分	
第 4 回	日常の文章の書き方（1）	大庭【講義】	前回講義の復習	30 分	
第 5 回	日常の文章の書き方（2）	大庭【講義】	前回講義の復習	30 分	
第 6 回	日常の文章の書き方（3）	大庭【講義】	前回講義の復習	30 分	
第 7 回	説明文の書き方（1）	大庭【講義】	前回講義の復習	30 分	
第 8 回	説明文の書き方（2）	大庭【講義】	前回講義の復習	30 分	
第 9 回	説明文の書き方（3）	大庭【講義】	前回講義の復習	30 分	
第 10 回	レポート（実験レポート・看護体験レポートなど）の書き方（1）	大庭【講義】	前回講義の復習	30 分	
第 11 回	レポートの書き方（2）	大庭【講義】	前回講義の復習	30 分	
第 12 回	レポートの書き方（3）	大庭【講義】	前回講義の復習	30 分	
第 13 回	レポートの書き方（4）	大庭【講義】	前回講義の復習	30 分	
第 14 回	レポートの書き方（5）	大庭【講義】	前回講義の復習	30 分	
第 15 回	まとめ	大庭【講義】	前回講義の復習	30 分	
テキスト	必要時、資料を配付する。				
参考書	木下是雄著 「理科系の作文技術」 中公新書				
成績評価					
方法（割合）	基準				
レポート（70%） 受講態度（30%）	・文章が熟慮して構成されているか ・文章に文法や字句の誤りがないか 積極的な意見・質問を総合的に評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		小レポートを課した場合は、一読のうえ返却する場合もある。			

科目名 ナンバリングコード	英語Ⅰ FLE1351MN1	必修科目	1 年次 A クラス 1 学期 B クラス 2 学期	演習	1 単位
科目責任者	外国語教育研究所 教授 島村 恭輔				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP6 の地域及び国際的視野で、社会に貢献することができる能力の②国内外で暮らす人々の健康・生活の質の向上に貢献する基礎力を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標（社会の動向を踏まえた実践的英語能力を習得する。） 1) 英語演習を通して総合的な英語力を向上させる。 2) 英字新聞や英語放送等のメディア英語を学ぶ。 到達目標 1) 英字新聞を読んで基本的な内容を理解し説明できる。 2) 英語放送を視聴して基本的な内容の要点を説明できる。 3) 自分の考えや意見を基本的な英語で記述できる。				
授業概要	毎回の授業で、ニュース記事の理解に必要な語彙の確認小テスト実施する。1つの英語ニュース記事を取り上げ、その内容を教科書や教員が準備した内容理解ワークシートの質問に沿って読解していく過程を経て、少しずつメディアで使われる英語の文体に慣れて理解できるようになる。さらに、国際情勢や異文化への理解も深められるようにする。そのためには、しっかり英語記事を読み込んで授業に臨む必要があり、各自の予習が非常に重要となる。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	イントロダクション（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 2 回	Unit 1（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 3 回	Unit 2（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 4 回	Unit 3（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 5 回	Unit 4（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 6 回	Unit 5（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 7 回	Unit 6（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 8 回	Unit 7（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 9 回	Unit 8（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 10 回	Unit 9（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 11 回	Unit 10（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 12 回	Unit 11（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 13 回	Unit 12（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 14 回	Unit 13（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの予習・復習	1時間	
第 15 回	まとめ（A クラス・B クラス共）	島村【演習】	テキストの総復習	1時間	
テキスト	A クラス：15 Selected Units of English through the News Media 高橋、伊藤、Powell 著 朝日出版社（2025 年版） B クラス：CNN10 Student News Vol.13 関戸、小暮、Arnold、Mattson 著 朝日出版社（2025 年版）				
参考書	講義の中で提示する。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
・筆記試験（30%） ・小テスト（25%） ・課題（25%） ・受講態度（20%）	授業で学んだ内容の理解力を筆記試験の得点により評価する。 授業で課す課題の提出やその内容、小テストの得点、また事前の十分な予習に基づいた受講であるかを総合的に評価する。 授業に積極的な姿勢で臨んでいるかを評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		英作文や小テスト等を課す。英作文はクラス用シラバスに明記しているルーブリックに基づき評価をフィードバックする。			

科目名 ナンバリングコード	オーラル・イングリッシュⅠ FLE1361MN1	必修科目	1 年次 B1クラス1学期 A1クラス2学期	講義	1 単位
科目責任者	外国語教育研究所 教授 キャスリーン ブラウン				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP6 の地域及び国際的視野で、社会に貢献することができる能力の②国内外で暮らす人々の健康・生活の質の向上に貢献する基礎力を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) To develop greater confidence and fluency in English communication. 2) To initiate and respond to questions and conversations in English. 到達目標 1) To practice speaking English in small groups in class. 2) To expand learning by doing online activities on a computer or smartphone. 3) To be able to use English in social and academic settings.				
授業概要	Students will work together in English using individual,pair and group work. The language of instruction will be English and the students will communicate with the instructor in English.				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	Introduction to the course Introducing yourself and your school Talking about daily routines Describing objects Talking about people Describing locations Talking about money and prices Talking about the future, vacations Speaking Assessment 1 Talking about the past Telling stories Discussing large numbers, population Talking about jobs Asking about school,other information Speaking Assessment 2	ブラウン【講義】 ブラウン【講義】 ブラウン【講義】 ブラウン【講義】 ブラウン【講義】 ブラウン【講義】 ブラウン【講義】 ブラウン【講義】 ブラウン【講義】 ブラウン【講義】 ブラウン【講義】 ブラウン【講義】 ブラウン【講義】 ブラウン【講義】 ブラウン【講義】	Register online Unit 1 Online work Unit 2 Online work Unit 3 Online work Unit 4 Online work Unit 5 Online work Unit 6 Online work Review Unit 7 Online work Unit 8 Online work Unit 9 Online work Unit 10 Online work Unit 11 Online work Unit 12 Online work	About 30 minutes to one hour for online activities and textbook review	
テキスト	COMMUNICATION SPOTLIGHT 3rd Edition 2019 ISBN 978-1-78547-079-0 Written by Alastair Graham-Marr, Published by ABAX ELT Publishing				
参考書	http://www.englishcentral.com				
成績評価					
方法（割合）		基準			
Two Speaking Tests (40%) Class Participation (30%) Online practice work (30%)		Speaking tests will take place in class in pairs, focusing on dialogues. Participation will be evaluated according to the student’s attitudes to learning. Online practice work will be evaluated on a weekly basis.			
課題（レポート等）に対するフィードバック		Evaluation and feedback ongoing throughout the term.			

科目名 ナンバリングコード	オーラル・イングリッシュⅠ FLE1361MN1	必修科目	1 年次 B2クラス1学期 A2クラス2学期	講義	1 単位
科目責任者	非常勤講師 ラッツ ディヴィッド				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP6 の地域及び国際的視野で、社会に貢献することができる能力の②国内外で暮らす人々の健康・生活の質の向上に貢献する基礎力を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) To develop greater confidence and fluency in English communication. 2) To initiate and respond to questions and conversations in English. 到達目標 1) To practice speaking English in small groups in class. 2) To expand learning by doing online activities on a computer or smartphone. 3) To be able to use English in social and academic settings.				
授業概要	Students will work together in English using individual,pair and group work. The language of instruction will be English and the students will communicate with the instructor in English.				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	Introduction to the course Introducing yourself and your school Talking about daily routines Describing objects Talking about people Describing locations Talking about money and prices Talking about the future, vacations Speaking Assessment 1 Talking about the past Telling stories Discussing large numbers, population Talking about jobs Asking about school,other information Speaking Assessment 2	LATZ DAVID【講義】 LATZ DAVID【講義】 LATZ DAVID【講義】 LATZ DAVID【講義】 LATZ DAVID【講義】 LATZ DAVID【講義】 LATZ DAVID【講義】 LATZ DAVID【講義】 LATZ DAVID【講義】 LATZ DAVID【講義】 LATZ DAVID【講義】 LATZ DAVID【講義】 LATZ DAVID【講義】 LATZ DAVID【講義】 LATZ DAVID【講義】	Register online Unit 1 Online work Unit 2 Online work Unit 3 Online work Unit 4 Online work Unit 5 Online work Unit 6 Online work Review Unit 7 Online work Unit 8 Online work Unit 9 Online work Unit 10 Online work Unit 11 Online work Unit 12 Online work	About 30 minutes to one hour for online activities and textbook review	
テキスト	COMMUNICATION SPOTLIGHT 3rd Edition 2019 ISBN 978-1-78547-079-0 Written by Alastair Graham-Marr, Published by ABAX ELT Publishing				
参考書	http://www.englishcentral.com				
成績評価					
方法（割合）		基準			
Two Speaking Tests (40%) Class Participation (30%) Online practice work (30%)		Speaking tests will take place in class in pairs, focusing on dialogues. Participation will be evaluated according to the student’s attitudes to learning. Online practice work will be evaluated on a weekly basis.			
課題（レポート等）に対するフィードバック		Evaluation and feedback ongoing throughout the term.			

科目名 ナンバリングコード	ドイツ語 FLE1311MN2	選択科目	1 年次 1 学期	講義	1 単位
科目責任者	非常勤講師 馬場崎 聡美				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP6 の地域及び国際的視野で、社会に貢献することができる能力の②国内外で暮らす人々の健康・生活の質の向上に貢献する基礎力を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 基礎的なドイツ語の文法や表現を習得しつつ、ドイツ語圏の社会や文化、歴史に関する理解を深める。この学びを通し、文化的背景が異なる人達とのコミュニケーション能力の向上を目指す。 到達目標 日常での出来事や自分の関心について表現すること、音読能力、辞書を頼りに書かれたものを理解する力を身に付けることを目標とする。				
授業概要	文法ではドイツ語の文がどのような構造で成り立っているかを学習する。長文読解の作業ではペアワークで共同作業を行う。文化学習では教員が与えたテーマについて授業中にスマートフォンを使い簡単な調べ物をする。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	導入、アルファベット、発音、挨拶 (1)	馬場崎【講義】	資料の復習	30 分	
第 2 回	人称代名詞 (1)、動詞の現在人称変化	馬場崎【講義】	資料の復習	1 時間	
第 3 回	数詞 (1)、sein と haben の人称変化	馬場崎【講義】	資料の復習	1 時間	
第 4 回	挨拶 (2)、読解、文化学習「東西ドイツ」	馬場崎【講義】	資料の復習	1 時間	
第 5 回	数詞 (2)、名詞の性と冠詞	馬場崎【講義】	資料の復習	1 時間	
第 6 回	冠詞と名詞の格変化	馬場崎【講義】	資料の復習	1 時間	
第 7 回	名詞の複数形	馬場崎【講義】	資料の復習	1 時間	
第 8 回	不定冠詞類、文化学習「ドイツの閉店法」	馬場崎【講義】	資料の復習	1 時間	
第 9 回	不規則動詞、弱変化名詞、doch の用法	馬場崎【講義】	資料の復習	1 時間	
第 10 回	命令形、時刻の表現	馬場崎【講義】	資料の復習	1 時間	
第 11 回	定冠詞類	馬場崎【講義】	資料の復習	1 時間	
第 12 回	人称代名詞 (2)、文化学習「ドイツの学校」	馬場崎【講義】	資料の復習	1 時間	
第 13 回	前置詞と格支配 (1)	馬場崎【講義】	資料の復習	1 時間	
第 14 回	前置詞と格支配 (2)、文化学習「リサイクル制度」	馬場崎【講義】	資料の復習	1 時間	
第 15 回	総復習	馬場崎【講義】	資料の復習	1 時間	
テキスト	・Gesine Goessner/ 大村幸太 / 野端聡美 / 杉山香織『Straße Neu』Ver.3.0（朝日出版、2018 年） ・『アクセス独和辞典』（三修社）、その他				
参考書	なし				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（60％） 小テスト（40％）	小テストは授業初日と最終日を除き全部で 13 回実施する。1 回につき 3 問程度で主に授業で学んだ文法や発音を中心とする。授業中に解いた小テストは終了前に回収する。筆記試験の範囲は後ほど指定する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		授業中にフィードバックする。			

科目名 ナンバリングコード	中国語 FLE1331MN2	選択科目	1 年次 1 学期	講義	1 単位
科目責任者	外国語教育研究所 教授 李 偉				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP6 の地域及び国際的視野で、社会に貢献することができる能力の②国内外で暮らす人々の健康・生活の質の向上に貢献する基礎力を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 中国語学習を通して、中日言語の異同に気づき、言語と文化及び言語と人間の考え方の関連性を考える。 2) 協同学習法を導入し、学生間の学び合い、助け合う協同精神を培う。 到達目標 1) 中国語の発音、医療実用の簡単な会話を身につける。 2) コラムの学習を通じて中国医療事情、中国文化への理解を深めることができる。 3) 社会スキルとしての基本的な協同能力を身につける。				
授業概要	授業中、4 人グループを編成してグループ中でのペアワークとグループワーク活動を頻繁に行う。また 1 課ごとにペアの会話発表、学期末の発表会を実施する。更に授業の理解を深めるため、講義終了時に教科書の練習問題のほか e-Learning システム（Hondana）の小テストを受けてもらう。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	グループ分け、中国語概説、第 1 課 自己紹介	李偉【講義】	中国語概説の予習	20 分	
第 2 回	第 1 課 自己紹介	李偉【講義】	発音、自己紹介の復習	30 分	
第 3 回	第 2 課 どうなさいましたか	李偉【講義】	発音、単語の予習	30 分	
第 4 回	第 2 課 どうなさいましたか	李偉【講義】	症状の言い方の復習	30 分	
第 5 回	第 3 課 この薬はどう飲みますか	李偉【講義】	発音、単語の予習	30 分	
第 6 回	第 3 課 この薬はどう飲みますか	李偉【講義】	薬の飲み方の復習	30 分	
第 7 回	第 4 課 病室はどこですか	李偉【講義】	発音、単語の予習	30 分	
第 8 回	第 4 課 病室はどこですか	李偉【講義】	存在表現の復習	30 分	
第 9 回	第 5 課 具合はいかがですか	李偉【講義】	単語、文法の予習	30 分	
第 10 回	第 5 課 具合はいかがですか	李偉【講義】	会話の復習	30 分	
第 11 回	第 6 課 心配いりません	李偉【講義】	単語、文法の予習	30 分	
第 12 回	第 6 課 心配いりません	李偉【講義】	会話の復習	30 分	
第 13 回	第 7 課 退院おめでとう	李偉【講義】	単語、文法の予習	30 分	
第 14 回	第 7 課 退院おめでとう	李偉【講義】	会話の復習	30 分	
第 15 回	まとめ、復習、口頭発表	李偉【講義】	発表予習、全体復習	60 分	
テキスト	『協同学習で学ぶ 医療系中国語会話』 李偉・管虹 著 白帝社 2019 年				
参考書	なし				
成績評価					
方法（割合）	基準				
受講態度（30%） 小テスト（40%） 課題・発表（30%）	受講態度を 30% で評価する。 Hondana システムの小テスト自動採点、40% で評価する。 課題文 10%、第 15 回授業口頭発表 20% 合わせて 30% で評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		レポートはメールで提出し、採点後にメールで返却する。			

科目名 ナンバリングコード	韓国語 FLE1341MN2	選択科目	1 年次 1 学期	講義	1 単位
科目責任者	非常勤講師 押川 信久				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP6 の地域及び国際的視野で、社会に貢献することができる能力の②国内外で暮らす人々の健康・生活の質の向上に貢献する基礎力を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 韓国語の文字である「ハングル」を習得し、簡単な挨拶表現、自己紹介、買い物などの日常生活に関する初級レベルのコミュニケーション能力を培うことを目標としている。 2) 韓国の日常文化などを学びながら、異文化に対する理解を通じて、多様性を持つ人材の育成を目指している。 到達目標 1) ハングル文字を習得する。 2) 簡単な自己紹介ができる。 3) 日常生活で使われる身近な挨拶表現ができる。 4) 韓国の日常生活文化への理解をして、説明できる。				
授業概要	履修主題に関する予習・復習をした上で講義とグループ学習及び発表などを取り入れながら授業を進める。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	講義案内、第 1 課、母音字 1 第 2 課 子音字 1 第 3 課、子音字 2 字母の復習 1 第 4 課 パッチム 第 5 課 母音字 2 第 6 課 母音字 3 字母の復習 2 第 7 課 自己紹介 第 7 課 自己紹介 第 8 課 ショッピング 第 8 課 ショッピング 第 9 課 学校 第 9 課 学校 まとめ	押川【講義】 押川【講義】 押川【講義】 押川【講義】 押川【講義】 押川【講義】 押川【講義】 押川【講義】 押川【講義】 押川【講義】 押川【講義】 押川【講義】 押川【講義】 押川【講義】 押川【講義】	事前にシラバスの確認 当該課の予習・復習 当該課の予習・復習 当該課の予習・復習 当該課の予習・復習 当該課の予習・復習 当該課の予習・復習 当該課の予習・復習 当該課の予習・復習 当該課の予習・復習 当該課の予習・復習 当該課の予習・復習 当該課の予習・復習 当該課の予習・復習 当該課の予習・復習	各 1 時間程度	
テキスト	李熙卿・白仁子 著、『マルブンソンで学ぶ韓国語初級』、白帝社、2016 年				
参考書	・熊谷明泰 編集、『パスポート朝鮮語小辞典（朝和＋和朝）』、白水社、2005 年 ・小学館 / 韓国金星出版社 共同編集、『朝鮮語辞典』、小学館、1993 年				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（50％） 小テスト（40％） 授業態度（10％）	・筆記試験を実施し、到達目標の達成度を正答率で評価する。 ・小テストは、5 回以上を予定しており、各課における到達目標を正答率で評価する。 ・授業へ積極的に取り組む姿勢（質問、回答など）をポイント化し、評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		小テストは採点后、返却する。			

科目名 ナンバリングコード	社会学 SOC1100MN2	選択科目	1 年次 1 学期	講義	2 単位
科目責任者	文学部 准教授 平井 太規				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP1 の豊かな感性と創造力をもち、主体的に行動することができる能力の③社会現象について解決に向け探求する主体的な態度を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 急激に変動する世界の中での日本社会の現状を読み解く方法論を教授するとともに、各種の社会問題と解決のための理解と探求を促し、社会に貢献できる人材を育成する。 到達目標 1) 広い視点から、人間、人間関係、社会を把握し、社会的活動に積極的に参加できるようにする。 2) データから社会を読み解き、他者と積極的に討議できるようにする。 3) 社会問題について、自ら考え、自分なりの解を出す。				
授業概要	講義中に配布資料の穴埋めを行う等の形式で学習を進めていく。第 1 回から第 7 回では基本的な理論、概念を紹介する。第 8 から第 14 回では現代のアクチュアルなトピックを取り上げ社会学の観点から考察する。第 15 回はまとめの回とする。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	オリエンテーション：社会学への招待	平井【講義】	配付資料の熟読	1 時間	
第 2 回	社会学の方法論	平井【講義】	配付資料の熟読	1 時間	
第 3 回	社会集団と組織	平井【講義】	配付資料の熟読	1 時間	
第 4 回	地位と役割	平井【講義】	配付資料の熟読	1 時間	
第 5 回	社会的包摂と社会的排除	平井【講義】	配付資料の熟読	1 時間	
第 6 回	社会的連帯	平井【講義】	配付資料の熟読	1 時間	
第 7 回	家族から社会へ	平井【講義】	配付資料の塾族	1 時間	
第 8 回	異性交際の社会学	平井【講義】	配付資料の熟読	1 時間	
第 9 回	労働の社会学	平井【講義】	配付資料の熟読	1 時間	
第 10 回	健康の社会学	平井【講義】	配付資料の熟読	1 時間	
第 11 回	大学進学 of 社会学	平井【講義】	配付資料の熟読	1 時間	
第 12 回	結婚の社会学	平井【講義】	配付資料の熟読	1 時間	
第 13 回	家事・育児の社会学	平井【講義】	配付資料の熟読	1 時間	
第 14 回	余暇時間の社会学	平井【講義】	配付資料の熟読	1 時間	
第 15 回	まとめ	平井【講義】	配布資料の熟読	2 時間	
テキスト	特定のテキストは使用せず、随時、資料を配布する。				
参考書	必要に応じて講義内もしくは配布資料にて紹介する。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
最終レポート（60%）	到達目標の達成度をレポートの内容で評価する。				
中間レポート（20%）	課題に対する深い考察をレポートの内容で評価する。				
受講態度（20%）	積極的な意見・質問を総合的に評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		中間レポート結果は、講義の中で言及する。			

科目名 ナンバリングコード	生活と経済 ECN1100MN2	選択科目	1 年次 2 学期	講義	2 単位
科目責任者	非常勤講師 矢野 生子（長崎県立大学）				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP1 の豊かな感性と創造力をもち、主体的に行動することができる能力の③社会現象について解決に向け探求する主体的な態度を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 国内外の経済の諸問題のあり方とわれわれの日常生活とは密接に関係していることを理解する。 2) 現在起こっている様々な経済問題、環境問題などについて自ら考察し、理解する。 到達目標 1) 報道されている経済問題について興味を持ち、何が起きているのかについて述べるができる。 2) 国内外の経済問題と日常生活は密接に関係していることを理解し、理論的な見解を述べるができる。 3) 最低限知っておくべき経済的な常識や制度を理解し、今後の生活に役立てることができる。				
授業概要	授業は教科書・資料・パワーポイント・動画などを使用することで、現実の様々な社会問題について興味を持たせるようにしている。時事問題についても積極的に取り入れ、日常生活において必要となる知識や社会システムについて理解し、日常生活はもとより、今後の生活に役立たせている。 講義終了時に、講義内容に関する質問やコメントを受け付け、必要に応じて次回の講義において解説をおこなっている。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	経済学とは何か	矢野【講義】	新聞を読む（毎回読む）	20 分	
第 2 回	生活に必要な経済的基礎知識について	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	20 分	
第 3 回	市場原理の有効性と限界	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	20 分	
第 4 回	年金問題Ⅰ	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	20 分	
第 5 回	年金問題Ⅱ	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	20 分	
第 6 回	日本の経済政策についてⅠ	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	20 分	
第 7 回	日本の経済政策についてⅡ	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	20 分	
第 8 回	ふるさと納税について	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	20 分	
第 9 回	国際経済と日本経済の諸問題について	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	20 分	
第 10 回	SDGs について	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	20 分	
第 11 回	自由貿易と環境問題について	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	20 分	
第 12 回	援助問題	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	20 分	
第 13 回	援助問題Ⅱ	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	20 分	
第 14 回	貧困の悪循環について	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	20 分	
第 15 回	これまでの総まとめ	矢野【講義】	教科書や配布資料を読み講義後にノートにまとめる	30 分	
テキスト	大矢野栄次著；「経済政策の考え方」，創成社，2019 年 （必要に応じて資料を配布する。）				
参考書	特になし（新聞に毎日 1 回、目を通すようにしてください。）				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（70%） 出席態度（30%）	授業内容を理解し、その問題に対する自分の見解をきちんと述べていること。その理解度と考察力を評価する。 授業に対する姿勢と出席カードの裏面に書くコメント（意見・質問）などをポイント化し、評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	特になし（レポートは原則、課しません。）				

科目名 ナンバリングコード	くらしと法 LAW1101MN2	選択科目	1 年次 2 学期	講義	2 単位
科目責任者	法学部 准教授 藺田 史				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP2 の倫理観に基づき、人権を尊重・擁護することができる能力の②規範を守り、人々の権利を尊重した行動ができることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 教養としての法学の基礎を学び、社会生活上のルールの基盤となる考え方を身につける。 2) 社会生活の中で、法がどのような役割を果たしているかについて理解する。 到達目標 1) 国家の統治ルールを定めた日本国憲法の基本的な考え方を理解し、それを説明することができる。(憲法) 2) 市民生活を営む上で、人と人との関係を規律しているルールについて理解し、それを説明することができる。(民法) 3) 刑法の仕組みを理解し、安楽死の問題について考える。(刑法)				
授業概要	法制度の目的や趣旨を理解した上で、具体的にどのような制度になっているかを学ぶ。 以上のような基本的な知識に基づいて裁判例を読み、社会の中での法の役割について考察する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	刑法 (1) 刑罰の目的・罪刑法定主義	藺田【講義】	教科書の該当頁の熟読	40 ～ 50 分	
第 2 回	刑法 (2) 犯罪の成立要件	藺田【講義】	同上	同上	
第 3 回	刑法 (3) 裁判例の検討（安楽死の事例）	藺田【講義】	刑法 (1)(2) の総復習	60 分以上	
第 4 回	民法 (1) 契約法の基礎	藺田【講義】	教科書の該当頁の熟読	40 ～ 50 分	
第 5 回	民法 (2) 不法行為法の基礎	藺田【講義】	同上	同上	
第 6 回	民法 (3) 「意思能力」と「行為能力」	藺田【講義】	同上	同上	
第 7 回	民法 (4) 債権債務関係	藺田【講義】	同上	同上	
第 8 回	民法 (5) 親子関係、婚姻関係	藺田【講義】	同上	同上	
第 9 回	民法 (6) 裁判例の検討	藺田【講義】	民法の総復習	60 分以上	
第 10 回	憲法 (1) 統治機構論	藺田【講義】	教科書の該当頁の熟読	40 ～ 50 分	
第 11 回	憲法 (2) 裁判例の検討	藺田【講義】	統治機構論の復習	60 分以上	
第 12 回	憲法 (3) 基本的人権①	藺田【講義】	教科書の該当頁の熟読	40 ～ 50 分	
第 13 回	憲法 (4) 基本的人権②	藺田【講義】	同上	同上	
第 14 回	憲法 (5) 裁判例の検討	藺田【講義】	基本的人権の復習	60 分以上	
第 15 回	まとめ	藺田【講義】	学修内容全体を復習	60 ～ 90 分	
テキスト	松井茂記ほか著『はじめての法律学 [第 6 版]』（有斐閣アルマ・2020 年）				
参考書	小型六法があるとより学修がしやすいと思います（いずれの出版社のものでも結構です）。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
小テスト（75％） レポート（25％）	講義後に行い、憲法・民法・刑法の基本的な知識を問います。講義内容を理解できたかを確認します。 ミニレポートを課す予定です。評価基準は、「基本的な前提知識を踏まえた上で、自分自身の考え方を論理的に記述できているか」です。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		講義中に前回の小テストやレポート課題についての解説を行います。			

科目名 ナンバリングコード	環境科学 ENV1111MN2	選択科目	1 年次 1 学期	講義	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 松本 悠貴				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP1 の豊かな感性と創造力をもち、主体的に行動することができる能力の③社会現象について解決に向け探求する主体的な態度を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) SDGs と地球規模で検討していくべき課題について、自主的に調査・学習し、考える。 2) ディスカッションで他者の意見を聞いた上で自分の考えをまとめ、わかりやすく伝える。 到達目標 1) SDGs で掲げられている 17 の目標と、それらに関する世界の現状について述べることができる。 2) 今後の取り組むべき課題について、自らの考えをプレゼンテーションすることができる。				
授業概要	複数のグループに分かれて自主的に調査・学習し、ディスカッションを行う。 ディスカッションを行った結果についてスライドを作成し、プレゼンテーションする。 (※第 6、7 回および第 13、14 回の講義は 2 コマ連続で発表会とする)				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	オリエンテーション SDGs：自然科学的課題について 〃 〃 〃 発表会 〃 フィードバック、オリエンテーション SDGs：人文科学的課題について 〃 〃 〃 発表会 〃 フィードバック	松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】	(予習) 新聞やインターネットの記事等を参考に、SDGsに関連した国内外のニュースや自治体等の取り組みについて調べておく。 (復習) 調査やディスカッション、発表会の内容について良かった点や改善点を振り返る。	予習・復習 それぞれ 30 分程度	
テキスト	無し。必要に応じてプリントを配布。				
参考書	新版・地図とデータで見る SDGs の世界のハンドブック（イヴェット・ヴェレ、ポール・アルヌー、蔵持不三也訳、原書房、2022 年）				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（50%） 発表会（40%） 受講態度（10%）	到達目標の達成度を正答率で評価する。 発表の内容、プレゼンテーション力、質疑応答、フィードバック等について評価する。 調査、ディスカッション、発表等に取り組む姿勢について評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		レポート提出は求めない。			

科目名 ナンバリングコード	くらしとサイエンス NAT1111MN1	必修科目	1 年次 1 学期	講義	2 単位
科目責任者	医学部自然科学教室（化学） 教授 東元 祐一郎				
科目担当者	医学部自然科学教室（物理学） 國友 正信 医学部自然科学教室（生物学） 大沼 雅明				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 【物理】看護の場面で出会う物理現象や医療の中で用いられる機器の物理的な基礎原理を理解する。 【化学】健康と医療に関係する様々な化学物質、薬品、医用材料の性質について理解する。 【生物】「生命」とは何か、すなわち「生きている」とはどのようなことであるか。生命体に共通する特徴について理解する。 到達目標 各講義の中で示された重要事項について述べるができる。				
授業概要	生命を分子レベルで捉え、自然科学（物理・化学・生物）の法則に基づいて生命が営まれていることを理解し、各々の生命現象について学ぶ。各講義終了時に講義内容に関する演習課題を課す。模範解答は後日電子シラバス上に掲載する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	【化学 1】水溶液の性質 【化学 2】基礎有機化学 【化学 3】糖質の化学 【化学 4】脂質の化学 【化学 5】タンパク質の化学 【物理 1】物理量と単位 【物理 2】力のつり合い、てこの原理 【物理 3】圧力 【物理 4】音と光 【物理 5】放射線 【生物 1】生命体のつくりとはたらき 【生物 2】細胞の増殖とからだのなりたち 【生物 3】遺伝情報とその伝達・発現のしくみ 【生物 4】生体維持のエネルギー 【生物 5】生殖と発生	東元【講義】 東元【講義】 東元【講義】 東元【講義】 東元【講義】 國友【講義】 國友【講義】 國友【講義】 國友【講義】 國友【講義】 大沼【講義】 大沼【講義】 大沼【講義】 大沼【講義】 大沼【講義】	講義スライド、資料などを見直し復習を十分にしておくこと	各 30 分程度	
テキスト	随時プリントを配布				
参考書	【物理】豊岡了編：系統看護学講座 第 7 版 基礎分野 1 物理学、医学書院、2015 年 【化学】奈良雅之編：系統看護学講座 第 7 版 基礎分野 化学、医学書院、2018 年 【生物】高橋雅一編：系統看護学講座 第 10 版 基礎分野 生物学、医学書院 2019 年				
成績評価					
方法（割合）	基準				
定期試験(80%) 受講態度(20%)	各分野（物理、化学、生物）別に試験を実施する。全分野とも 60 点以上を合格とし、60 点未満の分野については再試験を実施する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		課題揭示の際に説明する。			

科目名 ナンバリングコード	人間工学 NUS1112MN2	選択科目	1 年次 2 学期	講義	2 単位
科目責任者	非常勤講師 松尾 重明（久留米工業大学）				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 ヒトが行動する際には、機械が動くことと同じく重力やモーメントなど力学的要素が働いている。 看護動作においてもこれを無視することはできない。 1) 力学的な考察をできるようにする。 2) 看護作業の効率化及び負荷低減の技術を身につける。 到達目標 1) 看護現場において、看護側および看護される側の負担軽減をする方法について説明することができる。 2) 基本動作における動作や看護援助動作を解析および考察を行えるようにする。 3) 看護作業の効率化および負荷低減の知識を身につける。				
授業概要	基本的には穴うめ資料を用意して進行し、時には学生同士で話し合う機会ももたせている。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	概要説明	松尾【講義】	シラバスの確認・概要説明	15 分	
第 2 回	人間工学とは	松尾【講義】	人間工学の取り扱い内容の説明	1 時間	
第 3 回	ヒューマンエラーと事故	松尾【講義】	ヒューマンエラーの実際とその対策	1 時間	
第 4 回	単位について	松尾【講義】	現場に必要な単位の理解	1 時間	
第 5 回	看護動作における力学（1）	松尾【講義】	看護現場で起こる事故を力学的に解析	1 時間	
第 6 回	看護動作における力学（2）	松尾【講義】	看護現場でケガをしない為の力学的解析	1 時間	
第 7 回	看護業務と生体への負荷Ⅰ	松尾【講義】	看護現場で受ける生体への負荷	1 時間	
第 8 回	看護業務と生体への負荷Ⅱ	松尾【講義】	看護現場におけるボディメカニクス	1 時間	
第 9 回	現代の研究紹介（1）	松尾【講義】	電気刺激を用いた筋力トレーニング	1 時間	
第 10 回	現代の研究紹介（2）	松尾【講義】	電気刺激の効果	1 時間	
第 11 回	現代の研究紹介（3）	松尾【講義】	電気刺激と装具を用いた機器	1 時間	
第 12 回	これからの看護（1）	松尾【講義】	看護現場のインテリジェンス化	1 時間	
第 13 回	これからの看護（2）	松尾【講義】	看護現場のロボット化	1 時間	
第 14 回	将来の看護現場	松尾【講義】	将来の看護現場に必要な知識	1 時間	
第 15 回	国家資格過去問題紹介	松尾【講義】	国家資格過去問題紹介	1 時間	
テキスト	自作プリント 毎回配布する。				
参考書	なし				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（80%） 受講態度（10%） レポート（10%）	到達目標の達成度を正答率で評価する。 授業へ積極的に参加する姿勢から評価する。 課題において、的確に調査および考察していること。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		レポート課題の場合、採点后返却する。			

科目名 ナンバリングコード	情報学 IFS1111MN1	必修科目	1 年次 1 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学教育研究センター 教授 柏木 孝仁				
科目担当者	医学教育研究センター 小松 誠和、片山 礼司 バイオ統計センター 安川 圭司、大山 哲司				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の基礎的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 看護学を学ぶ上で必須となる情報を活用し、社会の変化に応じたデータや AI を実践的に活用する。 到達目標 1) 数理・データサイエンス・AI を活用するために必須の情報を活用できる。 2) 数理・データサイエンス・AI に関わる倫理的課題に対応し関連法規を説明できる。 3) データや AI の医療や社会での活用を説明しさらに新しい価値を創造できる。 4) 医療データや患者情報を守るためのセキュリティ対策とリスクを説明できる。 5) データ処理のアルゴリズムを説明しロジックに基づくプログラミング的思考を実践できる。				
授業概要	授業はコンピュータとデジタルデータを用いた実習・実践形式を主体とし、授業内容や到達目的に応じて、協同学習、反転学習、グループワークなどの学修者を主体とするアクティブラーニングを適宜取り入れながら行う。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回	情報学ガイダンス (対面・座学) 1) 情報学 (情報科学・人工知能) を学ぶ意義。 2) 社会や医療におけるデジタルデータの活用の変化と実際の活用例。 3) 社会や医療におけるデジタルインフラ (通信技術、暗号化技術、GPS) の変化。 4) デジタル社会 (データ駆動型社会) に潜む課題とリスク。	柏木【講義】	復習を中心にして、適宜準備学習を充分に行うこと。必要な準備学習や復習については、Hondana に掲載する。	予習 20 分、復習は課題に応じて適時必要な時間が変わる。	
第 2 回	第 2 回：デジタルデータとの関り (対面・反転学習) 1) デジタルデータに関わる関連法規 (個人情報、守秘義務、GDPR) 2) デジタルデータに関わる倫理的課題 (電子カルテ、個人情報、AI、SNS、盗用、改ざん) 3) デジタルデータに関わるセキュリティ (機密性、匿名、暗号化、漏洩)	柏木【講義・演習】			
第 3 回	第 3 回：データリテラシー (対面・座学) 1) データを読む (データの種類、特徴、性質) 2) データを説明する (グラフ化の種類、比較、可視化) 3) データを扱う (データ構造とデータベースの基本)	柏木【講義】			
第 4 回	第 4 回：データの利用とソフトウェアの活用 (1) (実習・演習) 1) テキストデータとその扱い 2) WORD の利用	小松【実習・演習】			
第 5 回	第 5 回：データの利用とソフトウェアの活用 (2) (実習・演習) 1) データの集計法 (基礎) 1 2) Excel の利用1	小松【実習・演習】			
第 6 回	第 6 回：データの利用とソフトウェアの活用 (3) (実習・演習) 1) データの集計法 (基礎) 2 2) Excel の利用2	小松【実習・演習】			
第 7 回	第 7 回：データの利用とソフトウェアの活用 (4) (実習・演習) 1) 画像データ (JPG、BMP など) とその扱い 2) Photoshop の利用1、PowerPoint の利用1	柏木・小松【実習・演習】			
第 8 回	第 8 回：データの利用とソフトウェアの活用 (5) (実習・演習) 1) 画像データ (ベクトルデータ) とその扱い 2) PowerPoint の利用2 3) データを用いたプレゼン	柏木・小松【実習・演習】			

第 9 回	第 9 回：データの表現（グループ学習） 1) ソフトウェアの活用（WORD、Excel、PowerPoint など） 2) プレゼンを通じたデータ集計とデータ表現（データの可視化）	柏木・小松【実習・演習】	復習を中心にして、適宜準備学習を充分に行うこと。必要な準備学習や復習については、Hondana に掲載する。	予習 20 分、復習は課題に応じて適時必要な時間が変わる。
第 10 回	第 10 0回：医療と仮想現実（VR）（対面・実習） 1) 仮想現実（VR）、拡張現実（AR）、複合現実（MR）などの仮想化技術 2) 医療や教育に活用される仮想現実	片山【実習・演習】		
第 11 回	第 11 回：医療と AI（1）（対面・座学） 1) AI 技術（概要）（特化型 AI、汎用型 AI、生成型 AI） 2) 社会で実際に活用されている AI 技術（認証、言語処理、自動運転など） 3) 医療で実際に活用されている AI 技術（画像診断、医療面接など）	安川・大山【講義】		
第 12 回	第 12 回：医療と AI（2）（対面・座学） 1) AI 技術（発展）（ビックデータ、機械学習、強化学習、深層生成モデル） 2) AI と自然言語処理（NLP） 3) AI 活用における課題やリスク（負の事例、人間中心の判断、責任論、ESLI）	安川・大山【講義】		
第 13 回	第 13 回：AI の活用（グループ学習） 1) AI との対話（ChatGPT） 2) AI と社会との関り（実際の対話からのディスカッション） 3) AI と医療との関り（実際の対話からのディスカッション）	柏木【実習・演習】		
第 14 回	第 14 回：プログラミング基礎（1）（協同学習・演習） 1) アルゴリズムと自然言語処理 2) Python プログラミング（基礎）1	柏木【実習・演習】		
第 15 回	第 15 回：プログラミング基礎（2）（協同学習・演習） 1) アルゴリズムと深層学習 2) Python プログラミング（基礎）2	柏木【講義・演習】		
テキスト	必要な資料は適時提示する。必要に応じて Hondana にも提示する。			
参考書	特になし。			
成績評価				
方法（割合）	基準			
課題（70%） ピア評価（20%） プレゼン（10%）	演習課題（ソフトウェアの機能操作を含む）について到達度に応じた点数化を行い評価する。グループ学習では、学習者同士のピア評価を行う。プレゼンでは学生による投票・採点を得点化する。			
課題（レポート等）に対するフィードバック		課題の内容によって異なるため、課題提示の際に説明し Hondana を通じて適時フィードバックする。		

科目名 ナンバリングコード	統計・推計学 STS1112MN1	必修科目	1 年次 2 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	病院経営室 准教授 宮本 貴宣				
教員の実務経験	久留米大学バイオ統計センター、久留米大学病院 病院経営室に教員として 10 年以上勤務。久留米大学病院の医療データの統計解析・ビッグデータ解析の経験を活かし、実践的講義を実施。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の②看護の現象に関心を持ち解決に向けて取り組むことを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 科学的根拠に基づく看護学を実践する上で不可欠な統計・推計学の基礎知識を学習する。 2) コンピュータを使った統計解析能力、大規模データのハンドリング能力を身に着ける。 到達目標 1) 科学的視点でデータを分析することができる。 2) コンピュータを使って統計解析ができる。 3) 大規模データ（数万件レベル～）を集計・加工できる。				
授業概要	講義においては座学を基本とする。演習では PC を用いて課題に取り組む。授業の理解を確認するためにミニテストを実施する。講義、演習ともに資料を配布する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	母集団とサンプル、確率分布、データの表現	宮本【講義】	配布資料の予習・復習	1 時間	
第 2 回	仮説検定の考え方	宮本【講義】	配布資料の予習・復習	1 時間	
第 3 回	母平均の検定と推定	宮本【講義】	配布資料の予習・復習	1 時間	
第 4 回	2つの母平均の差の検定	宮本【講義】	配布資料の予習・復習	1 時間	
第 5 回	分散分析、ミニテスト 1	宮本【講義】	ミニテスト（第 1 回～）	1 時間	
第 6 回	母比率の検定と推定	宮本【講義】	配布資料の予習・復習	1 時間	
第 7 回	2つの母比率の差の検定	宮本【講義】	配布資料の予習・復習	1 時間	
第 8 回	分割表の独立性の検定、適合度の検定	宮本【講義】	配布資料の予習・復習	1 時間	
第 9 回	ノンパラメトリック検定、相関、回帰	宮本【講義】	配布資料の予習・復習	1 時間	
第 10 回	研究デザイン、交絡、ミニテスト 2	宮本【講義】	ミニテスト（第 5 回～）	1 時間	
第 11 回	JMP, Python：基礎	宮本【演習】	レポート作成	1 時間	
第 12 回	JMP, Python：平均値の比較、推定	宮本【演習】	レポート作成	1 時間	
第 13 回	JMP, Python：比率の比較・推定、分割表の独立性の検定	宮本【演習】	レポート作成	1 時間	
第 14 回	JMP, Python：相関係数、回帰分析	宮本【演習】	レポート作成	1 時間	
第 15 回	Python：大規模データの集計・加工	宮本【演習】	レポート作成	1 時間	
テキスト	なし（資料配布）				
参考書	柳川 堯 他 「看護・リハビリ・福祉のための統計学」 近代科学社 出版年 2011年8月4月				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（70%） レポート（30%）	到達目標の達成度を正答率で評価する。 演習の課題を正答率で評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		ミニテスト・レポートを評価・採点し返却する。			

科目名 ナンバリングコード	からだの構造と機能Ⅰ（ホメオスタシス／筋・骨格系／ 脳・神経系／循環器系／血液） BMS1111MN1	必修科目	1 年次 1 学期	講義	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 嵯峨 堅				
科目担当者	医学部解剖学講座 中村 悠 医学部生理学講座 村井 恵良、中島 明子、中島 則行 先端イメージング研究センター 太田 啓介 医学部医療検査学科 武谷 三恵				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 適切な看護活動を行うためには、患者の生活や療養の状況、患者や家族の訴え・問題点を的確にとらえることが大切である。また、チーム医療の一員として「病気や怪我をしたヒトではどのような問題が起こり、それに対してどのような治療や看護がなされるか」を理解して行動することが求められる。 そのための基礎として、本科目では正常な人体の構造と機能について学ぶ。さらに知識を実践・活用するため、「個体・臓器・細胞の各レベルで学ぶ構造と機能」を個別の知識として暗記するのではなく、身体で起こる現象に各部が互いにどのように関連しているのかを理解し、知識を統合する力を身につける事を目的とする。 特に「からだの構造と機能Ⅰ」では、ヒトの日常生活動作に関わる身体の仕組みと、各臓器に酸素やエネルギー源等を供給する循環系について学ぶ。 到達目標 1) 正常な身体はどのような形態・構造を有し、どのように働いているか、説明できる。 2) 各臓器が適切に働くために、どのような仕組み（形態・構造・機能）が備わっているか、説明できる。				
授業概要	通常講義（教科書・資料・スライド・模型などを利用する。）復習を兼ねての課題を課すこともある。 ※本講義では、解剖学の講師が主に形態・構造を、生理学の講師が主に機能を担当する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 （予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	（構造系）組織・細胞学総論：生命の最小単位「細胞」とからだの構築	太田【講義】	本科目で学ぶことは、自身自身の体がいかに巧妙な仕組みで成り立っているかを知ることには他ならない。「自分を知る」という観点を加えると、からだの構造と機能が楽しく学べるでしょう。	各 1 時間	
第 2 回	（構造系）組織・細胞学総論：組織とは	太田【講義】			
第 3 回	（構造系）総論：この科目を学ぶ意義、からだの構造学の歴史からだ各部の基本Ⅰ	嵯峨【講義】			
第 4 回	（機能系）からだの機能総論：生きているとは？	村井【講義】			
第 5 回	（構造系）総論：からだ各部の基本Ⅱ	嵯峨【講義】			
第 6 回	（機能系）血液の機能Ⅰ：血漿の組成と各成分の働き	村井【講義】			
第 7 回	（構造系）骨格系の構造Ⅰ：骨の基本構造	嵯峨【講義】			
第 8 回	（機能系）血液の機能Ⅱ：血漿の成分と各成分の働き	村井【講義】			
第 9 回	（構造系）骨格系の構造Ⅱ：各骨の位置と名称	嵯峨【講義】			
第 10 回	（機能系）神経系の機能Ⅰ：末梢からの感覚入力仕組み	中島【講義】			
第 11 回	（構造系）筋系の構造Ⅰ：筋の構造とおもな名称	嵯峨【講義】			
第 12 回	（構造系）筋系の構造Ⅱ：各筋の位置と作用	嵯峨【講義】			
第 13 回	（構造系）循環器系の構造Ⅰ：全身に血液を送り出すポンプ（心臓）の構造	嵯峨【講義】			
第 14 回	（構造系）循環器系の構造Ⅱ：心臓から全身に血液を運搬する血管（動脈）の構造	嵯峨【講義】			
第 15 回	（機能系）神経系の機能Ⅱ：中枢からの出力仕組み	中島【講義】			
第 16 回	（構造系）循環器系の構造Ⅲ：全身から心臓へ血液を運搬する血管（静脈）の構造	嵯峨【講義】			
第 17 回	（機能系）神経系の機能Ⅲ：脳の機能分担	中島【講義】			
第 18 回	（構造系）循環器系の構造Ⅳ：リンパ球やリンパ液を運ぶ管の構造	嵯峨【講義】			
第 19 回	（機能系）神経系の機能Ⅳ：神経回路の役割	中島【講義】			
第 20 回	（機能系）骨格筋の機能：筋の収縮	武谷【講義】			
第 21 回	（構造系）神経系の構造Ⅳ：感覚器／視る・聴く	嵯峨【講義】			
第 22 回	（構造系）神経系の構造Ⅰ：神経系概説／中枢と末梢・運動と知覚・体性と臓性	中村【講義】			

第 23 回	(機能系) 循環器系の機能Ⅰ：心臓の興奮とその伝播／心電図	武谷【講義】	上記のことを	各 1 時間
第 24 回	(構造系) 神経系の構造Ⅱ：神経組織の細胞構築	中村【講義】	念頭に、各講	
第 25 回	(機能系) 体温を維持する仕組み	村井【講義】	義の各章相当	
第 26 回	(機能系) 循環器系の機能Ⅱ：心電図／心臓の収縮	武谷【講義】	部位の教科	
第 27 回	(構造系) 神経系の構造Ⅲ：運動のコントロール／末梢神経系・自律神経系	中村【講義】	書を利用し、	
第 28 回	(機能系) 循環器系の機能Ⅲ：血液の循環の調節	武谷【講義】	各自ノートに	
第 29 回	(構造系) 神経系の構造Ⅴ：感覚器／嗅ぐ・味わう・触れる	嵯峨【講義】	まとめるなど	
第 30 回	(機能系) 循環器系の機能Ⅳ：循環器系の病態生理	武谷【講義】	予習・復習を	
第 31 回	(構造系) 神経系の構造Ⅵ：感覚器、脳神経まとめ	嵯峨【講義】	心がけてくだ さい。	
テキスト	坂井 建雄著者代表「系統看護学講座 専門基礎① 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」医学書院 2022			
参考書	桑木 共之, 黒澤 美枝子, 高橋 研一, 細谷 安彦 編訳 「トートラ人体解剖生理学 からだの構造と機能 第 5 版」原書 15 版 丸善 2019			
成績評価				
方法 (割合)	基準			
定期試験 (100%)	到達目標の達成度を定期試験の正答率で評価する。(筆記試験：100%)			
課題 (レポート等) に対するフィードバック		レポートは評価後、返却する。		

科目名 ナンバリングコード	からだの構造と機能Ⅱ（呼吸器系／消化器系／ 泌尿器系／内分泌系） BMS1112MN1	必修科目	1 年次 2 学期	講義	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 嵯峨 堅				
科目担当者	医学部解剖学講座 嶋 雄一 医学部生理学講座 村井 恵良 医学部医療検査学科 武谷 三恵				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を 実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 適切な看護活動を行うためには、患者の生活や療養の状況、患者や家族の訴え・問題点を的確にとらえることが大 切である。また、チーム医療の一員として「病気や怪我をしたヒトではどのような問題が起こり、それに対してどのよ うな治療や看護がなされるか」を理解して行動することが求められる。 そのための基礎として、本科目では正常な人体の構造と機能について学ぶ。さらに知識を実践・活用するため、「個体・ 臓器・細胞の各レベルで学ぶ構造と機能」を個別の知識として暗記するのではなく、身体で起こる現象に各部が互い にどのように関連しているのかを理解し、知識を統合する力を身につける事を目的とする。特に「からだの構造と機能 Ⅱ」では、ヒトの個体維持・種族維持を可能にする身体の仕組みについて学び、日常では意識せずに行われている生 活行動により生命の維持がなされていることを理解する。 到達目標 1) 正常な身体はどのような形態・構造を有し、どのように働いているか、説明できる。 2) 各臓器が適切に働くために、どのような仕組み（形態・構造・機能）が備わっているか、説明できる。				
授業概要	通常講義（教科書・資料・スライド・模型などを利用する。）復習を兼ねての課題を課すこともある。 ※本講義では、解剖学の講師が主に形態・構造を、生理学の講師が主に機能を担当する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 （予習・ 復習等）	必要時間	
第 1 回	（機能系）呼吸器系の機能Ⅰ:呼吸とは何か	村井【講義】	本科目で学ぶ ことは、自分 自身の体がい かに巧妙な仕 組みで成り 立っているか を知ること に他ならない。 「自分を知る」 という観点を 加えると、か らだの構造と 機能が楽しく 学べるでしょ う。	各 1 時間	
第 2 回	（構造系）呼吸器系の構造Ⅰ:呼吸のための器官の構造 上気道	嵯峨【講義】			
第 3 回	（構造系）呼吸器系の構造Ⅱ:呼吸のための器官の構造 下気道	嵯峨【講義】			
第 4 回	（機能系）呼吸器系の機能Ⅱ:換気（呼吸運動）の仕組み	村井【講義】			
第 5 回	（機能系）呼吸器系の機能Ⅲ:呼吸数と深さを変える仕組み	村井【講義】			
第 6 回	（機能系）泌尿器系の機能Ⅰ:腎臓の働きと尿の生成	村井【講義】			
第 7 回	（構造系）泌尿器系の構造Ⅰ:排泄のための器官 尿を作る構造	嵯峨【講義】			
第 8 回	（構造系）泌尿器系の構造Ⅱ:排泄のための器官 尿を運ぶ	嵯峨【講義】			
第 9 回	（機能系）泌尿器系の機能Ⅱ:尿を排泄する仕組み	村井【講義】			
第 10 回	（機能系）消化器系の機能Ⅰ:食物の摂取	武谷【講義】			
第 11 回	（機能系）消化器系の機能Ⅱ:食物の消化	武谷【講義】			
第 12 回	（構造系）消化器系の構造Ⅰ:食物を取り入れる構造	嵯峨【講義】			
第 13 回	（機能系）消化器系の機能Ⅲ:栄養素の吸収	武谷【講義】			
第 14 回	（機能系）消化器系の機能Ⅳ:消化管の運動と排便	武谷【講義】			
第 15 回	（構造系）生殖器系の構造Ⅰ:種族維持のための構築・男	嶋【講義】			
第 16 回	（構造系）消化器系の構造Ⅱ:食物の咀嚼と嚥下の構造	嵯峨【講義】			
第 17 回	（構造系）生殖器系の構造Ⅱ:種族維持のための構築・女	嶋【講義】			
第 18 回	（構造系）生殖器系の構造Ⅲ:個体の形成:受精から個体へ	嶋【講義】			
第 19 回	（構造系）消化器系の構造Ⅲ:消化・吸収の場の構造	嵯峨【講義】			
第 20 回	（構造系）消化器系の構造Ⅳ:栄養の吸収と運搬の構造	嵯峨【講義】			
第 21 回	（機能系）内分泌系の機能Ⅰ:ホルモンによる身体機能の調節	村井【講義】			
第 22 回	（機能系）内分泌系の機能Ⅱ:血糖値を維持する仕組みなど	村井【講義】			
第 23 回	（構造系）内分泌系の構造Ⅰ:ホルモンをつくる器官の構造	嵯峨【講義】			
第 24 回	（機能系）内分泌系の機能Ⅲ:性ホルモンの作用	村井【講義】			
第 25 回	（構造系）内分泌系の構造Ⅱ:視床下部下垂体甲状腺の構造	嵯峨【講義】			
第 26 回	（構造系）内分泌系の構造Ⅲ:膵臓副腎生殖器その他の構造	嵯峨【講義】			
第 27 回	（機能系）体液の組成を維持する仕組み	村井【講義】			
第 28 回	（機能系）体液 pH を維持する仕組み	村井【講義】			

第 29 回 第 30 回	(機能系) 体液pH調整の異常 (構造系) 呼吸器, 泌尿生殖器, 消化器, 内分泌系のまとめ	村井【講義】 嵯峨【講義】		各 1 時間
テキスト	坂井建雄著者代表「系統看護学講座 専門基礎① 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」医学書院 2022			
参考書	桑木 共之, 黒澤 美枝子, 高橋 研一, 細谷 安彦 編訳 「トートラ人体解剖生理学 からだの構造と機能 第5版」原書15版 丸善 2019			
成績評価				
方法 (割合)	基準			
定期試験 (100%)	到達目標の達成度を定期試験の正答率で評価する。(筆記試験:100%)			
課題 (レポート等) に対するフィードバック		レポートは評価後、返却する。		

科目名 ナンバリングコード	からだの代謝 BMS1113MN1	必修科目	1 年次 2 学期	講義	1 単位
科目責任者	医学部医化学講座 講師 原田 二郎				
科目担当者	医学部医化学講座 塚口 舞				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 本講義の分野である生化学を学ぶことによって、今後他の科目や実務で出会うことになる各疾病には正常に機能していない反応がどこかにあり、その為に行う治療や投薬、食事がどのように反応を幫助するのか考えるようになること。 到達目標 三大栄養素、糖質・脂質・タンパク質を中心とした代謝系を理解し、説明できる。また、それらの相互相関、そして関係する疾患についても説明できる。				
授業概要	講義には、教科書・資料などを使用する。また、授業の理解を確認するために、講義終了時、講義内容に関するレポートまたは小テストを行い提出する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	生化学を学ぶための基礎知識 代謝の基礎と酵素・補酵素 糖質の構造と機能 糖質代謝 脂質の構造と機能 脂質代謝 タンパク質の構造と機能 タンパク質代謝 ポリフィリン代謝と異物代謝 遺伝子と核酸 遺伝子の複製・修復・組換え 転写 翻訳と翻訳後修飾 シグナル伝達 がん	塚口【講義】 塚口【講義】 塚口【講義】 塚口【講義】 塚口【講義】 塚口【講義】 塚口【講義】 塚口【講義】 塚口【講義】 原田【講義】 原田【講義】 原田【講義】 原田【講義】 原田【講義】 原田【講義】	予習：テキストを読み、太字で書かれた語句がどのようなものを調べておく。 復習：テキストや配布資料を見返し、重要なポイントを中心に理解しておく。	復習 / 予習 各 10 分	
テキスト	著：畠山 鎮次 《系統看護学講座 専門基礎分野》人体の構造と機能 [2] 生化学 2024 年 第 14 版 第 6 刷 医学書院				
参考書	野口 正人 他 編集 「シンプル生化学 改訂第7版」 南江堂 2024年 第7版 第2刷				
成績評価					
方法（割合）	基準				
定期試験（100%）	到達目標の達成度を正答率で評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		状況に応じて、レポートもしくは小テストを行い、採点後返却または解説する。			

科目名 ナンバリングコード	こころの生涯発達 NUS1124MN1	必修科目	1 年次 2 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	非常勤講師 舞弓 京子				
科目担当者	医学部看護学科 福浦 善友、松島 亜希子				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当し、精神科病棟で看護師として勤務して得た知識・技術を教えている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を实践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 生涯にわたるこころの発達を発達理論を用いて理解し、アセスメントする重要性を認識する。 2) 対象理解のため、こころの健康と障害をについてアセスメントする能力・態度を身につける。 3) 精神領域における対象の捉え方や制度について理解する。 到達目標 1) ライフサイクル各期のこころの発達課題・発達危機・人格的活力について説明できる。 2) 精神の健康の概念について説明できる。 3) 精神障害について、医学モデル・精神分析モデル・危機モデルを用いて説明できる 4) 諸外国・日本における精神医療の歴史について説明できる。 5) 精神・心身の健康障害と人間の反応について説明できる。 6) 回復（リカバリ）に必要な要因を述べるができる。 7) 現代社会におけるこころの問題の現状について調査し、対策について考察できる。				
授業概要	各発達期に生じる社会問題について、学生自身で文献を調べ、グループ発表する。 精神障害・家族の問題について映像やディスカッションにより考える。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11・12 回 第 13 回 第 14・15 回	ライフサイクルと発達理論 周産期の問題 幼児期のこころの発達① 幼児期のこころの発達② 学童期・思春期のこころの発達 青年期・成人前期のこころの発達 成人前期・中期のこころの発達 成熟期・老年期のこころの発達 精神保健医療福祉の歴史の変遷 こころの機能（医学モデル・精神分析モデル） こころの健康と障害、回復（リカバリー） 危機介入 社会問題を読み解く	舞弓【講義】 舞弓【講義】 舞弓【講義】 舞弓【講義】 松島【講義】 舞弓【講義】 松島【講義】 舞弓【講義】 福浦【講義】 舞弓【講義】 松島【講義】 松島【講義】 舞弓・福浦・松島【演習】	予習：学習する発達の範囲のテキストを読む。 復習：授業の内容、資料をノートにまとめる。 次回、授業の開始時に質問をする。 各発達期で生じやすい精神的な社会問題のレポートを課す。レポートを提出後、グループワークを行い、抄録と発表の準備を行う。	各回 30 分 2～3 時間	
テキスト	1) 服部祥子著：生涯人間発達論第 3 版 医学書院 2020				
参考書	1) 永田雅子編著：妊娠・出産・子育てをめぐるこころのケア 別冊発達 32 ミネルヴァ書房 2016 2) 青木省三著：思春期の心の臨床 金剛出版 2003 3) 日本語版作成兵庫こころのケアセンター：サイコロジカル・ファーストエイド実施の手引き第 2 版				
成績評価					
方法（割合）	基準				
小テスト(70%) レポート(30%)	到達目標の達成度を正答率で評価する。 精神的な社会問題について、文献検索を行い、対策について考察している。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		第 14・15 回でレポート課題を発表し、質疑応答する。			

科目名 ナンバリングコード	ボランティア活動 SWS1240MN2	選択科目	1 年次 1 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	文学部 助教 池田 敏				
教員の実務経験	学校においてソーシャルワーカーとして 14 年勤務した経験を活かし、地域の課題解決に向けた公私の社会資源に関する実践的な講義をしている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP6 の地域及び国際的視野で、社会に貢献することができる能力の③地域の現象を自分事としてとらえ社会貢献しようとする態度を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 本講義では、ボランティアに関する理論や歴史・実際についての基礎的な知識を身につけ、保健医療福祉に携わる専門職として、ボランティア観の醸成や活動の展開方法について学ぶ。また、ボランティアに関する組織や運営の実際についての理解を促す。 到達目標 1) ボランティアの理念・基本原則を説明できる。 2) ボランティア活動参加の意義を説明できる。 3) ボランティア活動と関連する組織および活動を説明できる。 4) ボランティア活動に必要な価値、知識、技術について説明できる。				
授業概要	教員によるボランティアに関する理論等の説明、事例の紹介と合わせて、受講生は課された課題について、取り組み、意見交換を行いながら進めていく。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習(予習・復習等)	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	オリエンテーション・ボランティアとは ボランティア活動とその意義 ボランティア活動の理念・歴史・基本原則 ボランティア活動の理解① ボランティア活動の推進に関わる専門職の役割 ボランティア活動の推進に関わる事業・組織・制度 ボランティア活動の理解② ボランティア活動の実際と展開 ボランティア活動の計画 フィールドワーク① フィールドワーク② ボランティア活動計画の自己評価・他者評価 ボランティア活動計画の発表① ボランティア活動計画の発表② 試験	池田【講義・演習】 池田【講義・演習】 池田【講義・演習】 池田【講義・演習】 池田【講義・演習】 池田【講義・演習】 池田【講義・演習】 池田【講義・演習】 池田【講義・演習】 池田【演習】 池田【演習】 池田【演習】 池田【演習】 池田【演習】 池田【講義】	第 1～9 回 各回の講義・演習内容についてまとめてファイリングを行うこと。各回、前回までの流れを確認し、受講すること。 第 10～11 回 フィールドワークを行う場所や方法を計画しておくこと。 第 12～14 回 他者の意見についてまとめておくこと。	各回 20 分以上	
テキスト	特になし。必要時資料配布。				
参考書	特になし。講義中に適宜紹介する。				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
試験 (50%) レポートの評価 (40%) 受講態度 (10%)	到達目標の達成度を試験とレポート課題で評価する。 授業へ積極的に参加する姿勢、意見などの受講態度を総合的に評価する。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック		ポイントとなるところを抜き出し、講義で適宜解説を行う。			

科目名 ナンバリングコード	家族社会学 SOC1126MN2	選択科目	1 年次 2 学期	講義	1 単位
科目責任者	非常勤講師 井上 智史（九州大学）				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP1 の豊かな感性と創造力をもち、主体的に行動することができる能力の①人々の文化や価値観、心理・社会面を理解するための基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 本授業では、家族分析の基礎概念、家族社会学における代表的な学説を学ぶとともに、現代社会における家族問題、家族変動に関する具体的な問題について考察する。家族をめぐる諸現象を社会学の視点から理解することを通じて、社会的な存在としての人間についての理解を深める。 到達目標 1) 家族社会学の代表的な学説、家族分析の基本概念を説明できる。 2) 現代社会の家族問題について、その社会的背景を考察することができる。 3) 家族という観点から人間を社会的存在として捉える必要性について説明できる。				
授業概要	授業担当教員による解説を主とした形態であり、適宜、受講者との対話やグループワークなどを通じて関連知識を深める。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	ガイダンス	井上【講義】	初回についてはシラ パスを読んでくる。第 2 回以降は、毎回配布 される資料を読み返 し、授業内容を復習し、 試験に備える。	60 分	
第 2 回	家族分析の基礎概念	井上【講義】		60 分	
第 3 回	現代社会の家族問題①：少子化	井上【講義】		60 分	
第 4 回	現代社会の家族問題②：ワークライフバランス	井上【講義】		60 分	
第 5 回	家族の極小化・個人化①：家族機能の縮小	井上【講義】		60 分	
第 6 回	家族の極小化・個人化②：母子ダイアド、ケア関係	井上【講義】		60 分	
第 7 回	家族の極小化・個人化③：最小結婚	井上【講義】		60 分	
第 8 回	前半のまとめ	井上【講義】		60 分	
第 9 回	家族の多様化①：事実婚・夫婦別姓	井上【講義】		60 分	
第 10 回	家族の多様化②：ステップファミリー、非血縁家族	井上【講義】		60 分	
第 11・12 回	性的マイノリティと家族:映画「ハッシュ！」を例に（2 回連続）	井上【講義】		60 分	
第 13 回	家族の多様化③：生殖技術と家族	井上【講義】		60 分	
第 14 回	家族の多様化④：同性婚・登録パートナー制度	井上【講義】		60 分	
第 15 回	全体のまとめ	井上【講義】		60 分	
テキスト	なし。毎回、講義用資料（パワーポイント）を配布する。必要に応じて映像資料を視聴する。				
参考書	岩間暁子・大和礼子・田間泰子，2022，『問いからはじめる家族社会学 改訂版』有斐閣。 永田夏来・松木洋人編，2017，『入門 家族社会学』新泉社。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（80％） 受講態度（20％）	到達目標の達成度を正答率および論述内容で評価する。 各回の授業で提出するリアクションペーパーをもとに授業へ積極的に参加する姿勢を評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック					

科目名 ナンバリングコード	微生物と感染 BMS1415MN1	必修科目	1 年次 2 学期	講義	1 単位
科目責任者	医学部感染制御学講座 教授 渡邊 浩				
科目担当者	医学部感染医学講座基礎感染医学部門 小椋 義俊、山本 武司、奥野 未来 医学部感染医学講座真核微生物学部門 井上 雅広 医学部感染制御学講座 原 好勇 医学部医学教育研究センター 柏木 孝仁				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 感染症に関する基礎的理解を深め、感染症患者への対処法を習得する。 到達目標 1) 感染症の疾患名とその病原体について説明できる。 2) 各種病原体の感染経路、伝播様式、予防・治療法、消毒法、検査法について説明できる。 3) 感染防御法を実践できる。 4) 病原体の侵入に対する生体の防御機構について説明できる。				
授業概要	教科書を中心に授業を進める。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要 時間	
第 1 回	微生物の病原性	渡邊【講義】	p 4～ 12を読む	30 分	
第 2 回	海外旅行関連の感染症と感染経路および予防	渡邊【講義】	p 62～ 73を読む	30 分	
第 3 回	院内感染の感染経路、伝播様式の理解および感染防御法	渡邊【講義】	p270～276を読む	30 分	
第 4 回	ウイルス感染症 1 (呼吸器ウイルス感染症)	原【講義】	p258～266を読む	30 分	
第 5 回	ウイルス感染症 2 (発疹性ウイルス感染症)	柏木【講義】	p291～292を読む	30 分	
第 6 回	ウイルス感染症 3 (肝炎、下痢症、出血熱)	原【講義】	p145～148を読む	30 分	
第 7 回	ウイルス感染症 4 (性感染症、動物・昆虫媒介性)	柏木【講義】	p296～301を読む	30 分	
第 8 回	ウイルス感染症 5 (治療と予防)	原【講義】	p162～169を読む	30 分	
第 9 回	感染症の検査と診断	柏木【講義】	p174～191を読む	30 分	
第 10 回	細菌の性質	小椋【講義】	p 4～ 33を読む	60 分	
第 11 回	感染防御機構と化学療法	小椋【講義】	p 62～172を読む	60 分	
第 12 回	細菌感染症の現状と対策	小椋【講義】	p174～191を読む	60 分	
第 13 回	臨床で遭遇する細菌感染症Ⅰ	山本【講義】	p196～228を読む	60 分	
第 14 回	臨床で遭遇する細菌感染症Ⅱ	奥野【講義】	p230～255を読む	60 分	
第 15 回	蠕虫および原虫疾患	井上【講義】	P316～337を読む	60 分	
テキスト	系統看護学講座 微生物学 第 14 版 著者：南嶋洋一 他 (医学書院) 2024 年発行				
参考書	なし				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (100%)	筆記試験は一定の正答率をクリアしているかを基準とする。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック	レポートの提出は求めない。				

科目名 ナンバリングコード	病理学 BMS2114MN1	必修科目	1 年次 2 学期	講義	2 単位
科目責任者	医学部病理学講座 教授 三好 寛明				
科目担当者	医学部病理学講座 秋葉 純、近藤 礼一郎、中山 正道、山田 恭平、塩賀 太郎、谷川 雅彦 大学病院病理診断科・病理部 草野 弘宣、古田 拓也				
教員の実務経験	大学病院における病理診断、病理解剖、研究・論文執筆・学会発表の実務経験をもとに医学部医学科・看護学科・医療検査学科、大学院博士・修士課程、学外看護学校に対する病理学についての講義、実習指導を主に行っている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を实践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 病理学は病気の原因・本質を解明する学問である。病気による組織の形態的变化を理解するとともに、最新の細胞生物学、免疫学的な知識の融合を図り、病気の原因・本質を理解する。 到達目標 1) 基本的な疾患の分類とその中に含まれる疾患の概念・定義を理論的に確実に説明できる。 2) 疾患あるいは病的現象に関して、適切な医学用語を使用し説明できる。 3) 主要な疾患の成因や、疾患によってもたらされる臓器の形態的・機能的変化を正常状態と比較し説明できる。 4) 疾患の大きなカテゴリーと臓器の組み合わせによって、個別の疾患を系統的に理解するための基礎的能力について説明できる。 5) 病理検査の内容について説明できる。				
授業概要	Powerpoint 等を使い 講義を行い、配布資料は Hondana に PDF にてアップロードし、提供する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	序論・病因と疾病の分類、奇形・遺伝性疾患	近藤【講義】	予習：	30 分	
第 2 回	代謝障害 (1)	古田【講義】	毎回、該当する内容に関し	30 分	
第 3 回	代謝障害 (2)	古田【講義】	てテキストを熟読し、分から	30 分	
第 4 回	進行性病変	近藤【講義】	ない用語などは事前に自分	30 分	
第 5 回	循環障害 (1)	三好【講義】	で調べておくこと。	30 分	
第 6 回	循環障害 (2)	三好【講義】		30 分	
第 7 回	炎症 (1)	山田【講義】	復習：	30 分	
第 8 回	炎症 (2)	山田【講義】	講義での説明や配布資料を	30 分	
第 9 回	免疫	中山【講義】	見直し、文献などを用いな	30 分	
第 10 回	腫瘍 (1)	秋葉【講義】	がら理解を深める。	30 分	
第 11 回	感染症 (1)	塩賀【講義】		30 分	
第 12 回	感染症 (2)	塩賀【講義】		30 分	
第 13 回	腫瘍 (2)	秋葉【講義】		30 分	
第 14 回	老化と全身性疾患	谷川【講義】		30 分	
第 15 回	病理学的検査と病理診断	草野【講義】		30 分	
テキスト	主教本：岩田隆子、恒吉正澄、小田義直 編集：「わかりやすい病理学」改訂第 7 版 南江堂 2021 年				
参考書	副教本：竹田津文俊 著：「病態生理 基礎のキソ」第 2 版 学研メディカル秀潤社 2013 年 詳しく調べる：標準病理学（医学書院）、エッセンシャル病理学、解明病理学（医歯薬出版）→医学図書館にある 基礎事項を復習、整理する：看護学生用問題集→自分のレベルにあつて、解説が詳しいものを探す 英単語教本：岡田一義 編：「医学英語ハンドブック」改訂第 2 版 東京医学社				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（100%）	到達目標の達成度を定期試験の正答率で評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		課題やレポート提出の際の返却・フィードバックは、講義中に適宜行う。			

科目名 ナンバリングコード	看護学概論Ⅰ NUS1121MN1	必修科目	1 年次 1 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 加悦 美恵				
科目担当者	医学部看護学科 恒松 佳代子、山田 泰子、谷口 慎一				
教員の実務経験	この科目は臨床現場における看護活動の実務経験を活かして講義・演習を展開している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の③人々を生活者として全人的に捉える姿勢を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 看護学の主要概念である人間、健康、環境、看護と、主要概念間の関連について学ぶ。 2) 生活者である人間に対して看護はどのような役割を果たすかを学ぶ。 3) 自ら関心をもって新しい知識を獲得しながら看護についての考えを深める。 到達目標 1) 看護の対象である人間の特性について全人的にとらえ説明できる。 2) 人間にとっての健康、健康と環境の関連、環境が人間に与える影響について説明できる。 3) 看護の機能と役割について説明できる。 4) 看護の歴史の変遷と現代の看護職の状況について説明できる。 5) F. ナイチンゲール、V. ヘンダーソンに代表される看護理論について説明できる。 6) 保健医療福祉分野で活動するさまざまな職種の役割について説明できる。 7) 多様な看護活動の場と地域における医療連携について説明できる。 8) 事例検討にて対象を全人的にとらえ、必要な看護について自己学習をふまえ討論できる。 9) 看護についての自分の考えを述べるができる。				
授業概要	看護の学習のはじまりの科目である。看護とは何か、自分なりの考えをもてるよう、テーマに沿ったレポートを作成して臨み、グループメンバーに報告・共有する協同学習を行う。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要 時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	ガイダンス、看護とは何か、看護学の主要概念 看護の歴史の変遷と発展、ナイチンゲールの功績 看護の対象の理解－人間とは：身体・心理・社会的側面、発達段階 看護の対象の理解－人間とは：人々の生活、基本的欲求、QOL 人間の健康と環境：健康の定義、健康観、指標、健康と環境の関連 看護とは：ナイチンゲールの看護、看護における環境のとらえ方 V. ヘンダーソンの基本的ニーズと基本的看護 看護とは：看護の定義、看護ケアとは、看護理論、看護の役割と機能 看護活動の方法：看護の実践過程、看護職の現状、法制度 看護活動の場：組織体制、保健医療福祉の職種・役割・連携、継続看護 事例に対する看護①：対象の理解－第3～7回の内容 事例に対する看護②：必要な看護－第6～9回の内容 事例に対する看護③：成果報告、看護の実施・評価 看護活動の領域：国際看護、災害看護 医療安全、看護管理、看護の倫理、まとめ	加悦【講義】 加悦【講義】 加悦【講義・演習】 加悦【講義・演習】 加悦【講義・演習】 加悦【講義・演習】 加悦【講義・演習】 加悦【講義】 加悦【講義】 恒松【講義】 加悦【演習】 加悦【演習】 加悦【演習】 山田【講義】 加悦【講義】	シラバス確認 テキストを読む 課題①人間とは テキストを読む 課題②健康環境 課題③看護理論 課題④看護理論 テキストを読む テキストを読む テキストを読む 課題⑤対象理解 課題⑥計画立案 課題⑦発表準備 テキストを読む テキストを読む	課題は 60～90 分を要 する。 テキス トは30 分程度 必要	
テキスト	茂野香おる他：系統看護学講座専門分野基礎看護学1看護学概論，医学書院，2023 F・ナイチンゲール著、湯槇ます他訳：看護覚え書、現代社、2011 V・ヘンダーソン著、湯槇ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会、2016				
参考書	その都度、紹介する。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（60％） レポート（20％） 受講態度（20％）	到達目標 1)～7) の達成度を正答率で評価する。 到達目標 9) 看護についての自分の考えを、学習内容を活用して述べているかをルーブリック評価表に基づき評価する。 到達目標 8) 課題の提出状況、事例検討成果報告状況をポイント化する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		課題①～⑦は、グループのファイルに綴じて提出されたものを、フィードバックする。 最終評価レポートとともに提出後は返却されない。			

科目名 ナンバリングコード	生命・看護倫理 NUS1122MN1	必修科目	1 年次 2 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 恒松 佳代子				
科目担当者	医学部看護学科 田中 佳代				
教員の実務経験	本科目の担当する教員は、医療現場で倫理的葛藤の解決や患者の意思決定に関わった経験があり、それらの実務経験を授業に活かしている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP2 の倫理観に基づき、人権を尊重・擁護することができる能力の①生命・人の尊厳を護る基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 看護職が人間の尊厳と権利を尊重する上で必要な基礎的な知識を身につけることができる。 2) 医療場面における倫理的な判断や行動の根拠や理由を説明できる基礎的能力を習得する。 3) 倫理的葛藤の解決に向けた倫理的な意思決定過程を辿ることができる。 到達目標 1) 生命倫理、医療倫理、看護倫理の歴史的変遷を概説できる。 2) 看護倫理のアプローチについて説明できる。 3) 看護職の倫理的責任と法的責任について説明できる。 4) 患者の権利擁護における看護職の役割と具体的な行動について説明できる。 5) 医療現場における多様な倫理的問題と看護職の役割について説明できる。 6) サリドマイド薬害被害や B 型肝炎の感染拡大の原因と医療者に求められる行動を説明できる。 7) 倫理的葛藤のある事例を通して、葛藤を解決する意思決定ができ、その根拠や理由を説明できる。				
授業概要	「倫理学」で学んだ知識を基盤として、生命倫理・看護倫理に関連する概念を理解する。医療現場における倫理的問題に関心を持ち、看護師がどのように行動すべきかを考えるための知識を習得する。授業前日に配信された授業資料を各自で印刷またはタブレットなどの端末で見れる準備をして参加する。授業は、倫理的な問題が潜在する映画やドラマの視聴、実際の患者の体験談を通して、倫理的問題に気づくための倫理的感性を養う。授業の終盤で、看護実践の中で遭遇する倫理的葛藤の事例について、グループで検討し葛藤解決に向けた意思決定を行う。事例検討のグループ発表を通して、多様な判断や価値観を理解し、自己の判断や行動を再考する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要 時間	
第 1 回	医療と倫理：生命に関わる倫理、生命倫理の歴史的背景	恒松【講義】	関連の法律や規程	各 30 分	
第 2 回	看護倫理のアプローチ：徳倫理、原則の倫理、ケア倫理	恒松【講義】	アプローチの種類		
第 3 回	患者の権利に対する看護職の責任：倫理綱領、関連する法律	恒松【講義】	法的・倫理的責任		
第 4 回	看護倫理に関連する概念：パターナリズム、インフォームド・コンセント、共同意思決定	恒松【講義】	用語の復習		
第 5 回	映画を通して倫理を考える：医療資源の配分	恒松【講義】	医療制度、医療保健		
第 6 回	看護倫理に関連する概念：アドボカシー、コンパッション、共感	恒松【講義】	用語の復習		
第 7 回	医療現場の倫理的問題：性と生殖に関わる問題	田中【講義】	関連の倫理的問題		
第 8 回	医療現場の倫理的問題：隔離・拘束に関わる問題	恒松【講義】	関連の倫理的問題		
第 9 回	医療現場の倫理的問題：人生の最終段階の医療に関わる問題	恒松【講義】	関連の倫理的問題		
第 10 回	医療現場の倫理的問題：遺伝子医療に関わる問題	恒松【講義】	関連の倫理的問題		
第 11 回	医療現場の倫理的問題：B 型肝炎当事者に学ぶ 医療者の倫理的姿勢	特別講義講師【講義】	感染拡大の原因		
第 12 回	医療現場の倫理的問題：サリドマイド薬害被害と実相	特別講義講師【講義】	薬害被害の内容		
第 13 回	倫理的意思決定のアプローチ：Jonsen らの 4 分割法、4 ステップ法	恒松【講義】	アプローチの方法		
第 14 回	倫理的意思決定のアプローチ：事例検討（グループワーク）	恒松【演習】	発表資料の読解		
第 15 回	倫理的意思決定のアプローチ：事例検討のグループ発表、講評	恒松【演習】	意思決定の評価		
テキスト	小西恵美子編：看護倫理（改訂第 3 版）よい看護・よい看護師への道しるべ、南江堂、2023				
参考書	なし				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（80%）	到達目標の達成度を正答割合で評価する。				
グループ課題（10%）	第 14 回のグループワークの内容をルーブリック評価表に基づいて点数化する。				
小テスト（10%）	授業終了後の小テストの正答率を点数化する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	・授業の感想や質問には、電子シラバスの掲示板を通じて回答する。 ・授業後の小テストの回答は、電子シラバスの掲示板を通じて行う。 ・第 14 回で提出したグループ課題は、第 15 回のグループ発表後に講評する。				

科目名 ナンバリングコード	生活援助技術Ⅰ NUS1231MN1	必修科目	1 年次 Aクラス・Bクラス 1学期	講義・演習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 恒松 佳代子				
科目担当者	医学部看護学科 加悦 美恵、前野 里子、三次 貴大、山田 泰子、谷口 慎一				
教員の実務経験	この科目を担当する教員は、臨床看護の経験があり、実務経験から得た知識や授業を活かしている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②に必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 看護実践に共通する基本的な知識と技術を修得する。 2) 人の健康を支援する生活援助について思考し実践できる能力を養う。 3) 看護者としての基本的姿勢を身につける。 到達目標 1) 看護技術が備える安全・安楽・自立の基本的条件を説明できる。 2) 健康な生活を支援するために必要な基本的な知識と方法について説明できる。 3) 看護技術の根拠を踏まえた援助を実践できる。 4) 人間関係を構築するための基本的なコミュニケーション技法を実践できる。 5) 対象となる人の安全を確保する方法について説明できる。 6) 対象となる人の安楽を促す方法について説明できる。 7) 対象となる人の健康状態を知るためのバイタルサインの観察と測定を実施できる。 8) 対象となる人の気持ちに配慮した援助を実践できる。 9) 自分が実施した援助技術を振り返り、実施した援助の意味を説明できる。				
授業概要	本科目では、看護師が人々の健康的な生活を支援するために必要な知識と技術を学ぶ。また、看護師としての基本的な姿勢と態度を学ぶ。本授業では、講義を通して援助の基本的知識や技術方法を学習し、それらをもとに演習で看護師役、患者役、観察者を体験しながら援助を実践する。援助技術は、演習前に動画視聴やチェックリストを用いて実践のイメージ化を図った上で演習に臨む。演習は、チェックリストを用いて協同学習や教員・学生間の技術チェックを取り入れて進める。演習後はチェックリストや演習記録を通して技術実践の評価を行う。なお、全ての演習は、看護師としての身だしなみを整えて演習に参加することを求める。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回 第 16 回 第 17 回 第 18 回 第 19 回 第 20 回 第 21 回 第 22 回 第 23 回	看護と生活援助、看護技術とその根拠、安全・安楽・自立 感染防止：感染成立の要因、感染源の対策、標準予防策 感染防止：衛生的手洗い、演習オリエンテーション 感染防止：清潔と汚染の区別、個人防護具着脱、感染生廃棄物の取り扱い 感染防止：洗浄・消毒・滅菌、無菌操作 コミュニケーション：構成要素、成立過程、信頼関係構築 コミュニケーション：技法の基本、看護者の態度 バイタルサイン観察・測定：意識状態、観察、記録、報告 バイタルサイン観察・測定：体温・脈拍・呼吸のアセスメント バイタルサイン観察・測定：血圧のアセスメント バイタルサイン観察・測定：体温・脈拍・呼吸・血圧（触診法） バイタルサイン観察・測定：血圧測定（聴診法） 環境調整：療養生活環境、調整方法、病床環境、ボディメカニクス 環境調整：ベッドの構造、リネン類のたたみ方と敷き方 環境調整：ベッドメイキング（下シーツ） 衣生活の援助：衣服の役割、療養生活における衣服の選択 活動・休息：活動と休息のバランスを整える、体位変換 安楽確保：体位保持、寝具調整、電法 活動・休息：体位変換 活動・休息：運動機能低下への援助、自立の支援 バイタルサイン観察・測定：実技評価 活動・休息：車椅子およびストレッチャーへの移乗・移送 療養環境を整える：臥床患者のシーツ交換	恒松【講義】 恒松【講義】 山田・全員【演習】 恒松・全員【演習】 山田【講義】 恒松【講義】 恒松・山田【演習】 恒松【講義】 恒松【講義】 恒松【講義】 恒松・全員【演習】 恒松・全員【演習】 恒松【講義】 恒松【演習】 恒松【演習】 山田【講義】 恒松【講義】 恒松【講義】 恒松・全員【演習】 山田【講義】 恒松・全員【演習】 山田・全員【演習】 恒松・全員【演習】	< 講義 > ■予習 授業内容の教科書ページを読んでおく。 ■復習 講義資料や教科書のページを確認して、分からないことは調べ理解を深める。 < 演習 > ■予習（事前学習） 援助技術は、講義資料や教科書の確認、指示された動画を視聴する。 ■復習（事後学習） ・演習の振り返り 授業内で指示された演習記録やチェックリストを用いて、自己の技術実践を評価する。 ・技術練習 実習室で繰り返し練習を行う。	各 30 分 ～1 時間 程度	

テキスト	茂野香おる：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ、医学書院、2023、第19版 任和子：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ、医学書院、2023、第18版		
参考書	看護がみえる VOL1 基礎看護技術、メディックメディア、2018		
成績評価			
方法（割合）	基準		
筆記試験（60%） 実技試験（20%） 個人課題（20%）	・到達目標に対する達成度を正答率で評価する。 ・指定する事例課題に対してルーブリック評価表に基づいて評価する。 ・演習後の記録および授業後の小テストの正答を点数化する。		
課題（レポート等）に対するフィードバック		・授業の質問や感想および小テストの正答については、電子シラバスを通じてコメントまたは回答する。 ・演習後の記録は、教員がコメントを入れて返却または電子シラバスを通じてフィードバックする。 ・実技評価後は、実技の到達水準（ルーブリック評価）に達するまで指導を行う。	

科目名 ナンバリングコード	生活援助技術Ⅱ NUS1232MN1	必修科目	1 年次 Aクラス・Bクラス 2学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 加悦 美恵				
科目担当者	医学部看護学科 恒松 佳代子、前野 里子、三次 貴大、山田 泰子、谷口 慎一				
教員の実務経験	この科目を担当する教員は、臨床看護の経験があり、実務経験から得た知識や技術を授業に活かしている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 日常生活の援助に必要な基本的な知識と技術を習得する。 2) 人の健康を支援する生活援助について対象者のニーズに応じて思考し実践できる能力を養う。 3) 看護者としての基本的姿勢を身につける。 到達目標 1) 食生活や栄養摂取の意義を踏まえ、経口摂取が可能な人の食事援助と口腔ケアを実施できる。 2) 排泄器の構造・機能、排泄の意義を踏まえ、排泄行動に障害がある人の排泄援助を実施できる。 3) 皮膚・粘膜の構造・機能、清潔の意義を踏まえ、清潔保持が困難な人の身体の清潔援助を実施できる。 4) 対象の状態にあわせた生活援助を、自立の視点をもって安全、安楽に実施できる。 5) 対象者に同意を得たうえで、援助を受けなければならない気持ち・羞恥心に配慮して実施できる。 6) 事例患者の健康状態にあわせた生活援助を根拠に基づき計画し、実施、評価できる。 7) 自分が実施した援助技術を振り返り、実施した援助の意味を説明できる。				
授業概要	本科目は、1 学期開講「生活援助技術Ⅰ」に引き続き、看護師として人々の生活を支援するために必要な知識と技術、および基本的な姿勢と態度を学ぶ。 本授業では、講義を通して援助の基本的知識や技術方法を学習し、それらをもとに演習で看護師役－患者役を体験しながら援助を実践する。援助技術は、演習前に実践のイメージ化を図った上で臨む。演習は学生間で協同してすすめ、より良い援助方法を探る。演習後は演習記録を通して技術実践の評価を行う。なお、全ての演習は看護師としての身だしなみを整えて参加することを求める。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	ガイダンス、清潔の意義とアセスメント、援助方法 清潔の援助：清潔保持困難な人への援助方法 清潔の援助：臥床患者の寝衣交換 清潔の援助：臥床患者の全身清拭 清潔の援助：足浴の援助 清潔の援助：頭皮・頭髮の清潔、整容、洗髪の方法 清潔の援助：臥床および洗髪台での洗髪の援助 食生活と栄養摂取の援助：意義とアセスメント、方法 食生活と栄養摂取の援助：食事の援助、留意点 食生活と栄養摂取の援助：口腔内清潔の援助・留意点 排泄の援助：排泄の意義とアセスメント、方法 排泄の援助：尿器・便器を用いた床上排泄の援助 排泄の援助：陰部の洗浄、オムツ交換 総合演習：事例患者の生活援助の計画立案 総合演習：事例患者の生活援助の実施・評価・発表	加悦【講義】 加悦【講義】 全員【演習】 全員【演習】 全員【演習】 全員【演習】 全員【演習】 加悦【講義】 全員【演習】 全員【演習】 山田【講義】 全員【演習】 全員【演習】 全員【演習】 全員【演習】	<講義> ・予習：テキストを読んでおく。 ・復習：確認し分からないことは調べ理解を深める。 <演習> ・事前学習：援助技術の動画を視聴し、資料等も確認する ・事後学習：演習記録等で自己の技術実践を評価する。実習室で繰り返し練習を行う。 <事例の援助計画・評価> 提示された事例の患者に対する援助方法を、理由とともに計画する。実施後は評価し記録する。	各 30 ～ 60 分程度	
テキスト	茂野香おる：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ、医学書院、2023、第 19 版 任和子：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ、医学書院、2023、第 18 版 ※生活援助技術Ⅰと共通テキストである。				
参考書	看護がみえる VOL1 基礎看護技術、メディックメディア、2018				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（60％） 実技試験（30％） 個人課題（10％）	・到達目標に対する達成度を正答率で評価する。 ・指定する実技課題に対してルーブリック評価表に基づいて評価する。 ・演習後の記録および授業後の小テストの正答を点数化する。				
課題（レポート等）に対する フィードバック	・授業の質問や感想および小テストの正答については、電子シラバスを通じてコメントまたは回答する。 ・演習後の記録は、教員がコメントを入れて返却または電子シラバスを通じてフィードバックする。				

科目名 ナンバリングコード	地域・在宅看護概論 NUS1125MN1	必修科目	1 年次 2 学期	講義	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 渡邊 理恵				
科目担当者	医学部看護学科 山下 寛子、森永 朗子				
教員の実務経験	総合病院にて5年勤務、訪問看護ステーションにて（高齢者・小児）17年勤務。病院での急性期の治療に伴う看護の経験と地域・在宅看護の経験を関連付けながら、講義を展開している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 地域で生活する人々とその家族を理解し、様々な場における看護職の役割について理解する。 2) 地域で生活するあらゆる健康段階の人々を支援する在宅看護の目的や課題について理解する。 到達目標 1) 現代の社会的背景と関連付けて、地域で生活する人々の暮らしを支える在宅看護の必要性和目的について説明できる。 2) 地域における在宅看護の役割と機能、在宅看護活動の特徴について説明できる。 3) 在宅看護を展開するための基本理念及び在宅看護特有の倫理問題に関心をもって述べるができる				
授業概要	在宅療養者の「暮らし」「生活」を支えることの意義について考察を深め、少子高齢社会が求める地域・在宅における看護職の役割について、協同学習を通して自分なりの看護観を明確にできることを目指す。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回	地域在宅看護の概念－協同学習－ 地域・在宅看護における「生活」「暮らし」とは 地域の特性に応じた生活と健康の関連性	渡邊【講義】 GW・発表 DVD 視聴「訪問看護の実際」	【予習】提示された講義内容のテキストの範囲を読んで質問したい内容を明確にして講義に臨む。 【復習】テキスト・講義資料と自分のノートを振り返り理解を深める。さらに疑問などがあれば、教員に質問して明確にする。	各回 30 分 ～ 60 分	
第 2 回	地域・在宅看護の背景 社会的背景と国民の価値の変容 地域包括ケアのさらなる推進	山下【講義】			
第 3 回	地域・在宅看護の基盤 在宅看護の特徴・対象者・看護とサービス提供機関	森永【講義】			
第 4 回	療養者を介護する家族にとっての在宅看護の意義 (訪問看護の利用経験のあるご家族がゲストスピーカーとして体験を語る)	渡邊【講義】			
第 5 回	「病院看護」と「地域・在宅看護」のそれぞれが目指す看護の役割 (訪問看護師がゲストスピーカーとして体験を語る)	渡邊【講義】			
第 6 回	地域療養を支える在宅看護の役割・機能 自立・自律支援 病態の予測と予防 在宅看護を展開するための基本理念 セルケア理論・保健行動理論・アドボカシー	森永【講義】			
第 7 回	日本の地域・在宅看護の変遷と今後の課題 海外の在宅ケアの特徴と共通性	山下【講義】			
第 8 回	在宅看護特有の倫理問題 －グループディスカッション－	渡邊【講義】			
テキスト	・臺 有桂 他 編 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①② (2024 年版)				
参考書	・日本在宅ケア学会 在宅ケア学第 1 巻～第 6 巻 株式会社ワールドプランニング 2015 年				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (60%) 課題レポート (30%) 受講態度 (10%)	筆記試験：到達目標1) 2) 3) の達成度を正答率で評価する。 レポート：到達目標1) 2) 3) の知識を元に「地域の在宅看護職の役割について」の講義内容を引用して具体的に記述されているか、自分の考えが明確に記述されているか、指示された字体・字数などレポートの形式で記述されているか3項目各10点で評価する。 意欲・関心：到達目標1) ～3) について各講義内容の中から自分が特に関心を持った内容を引用し具体的に感想・質問及び自分の考えが記述されているか毎回0～2点で評価する。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック		2 年次の地域・在宅生活支援論の講義初回で返却し科目間の連続性を認識する。			

科目名 ナンバリングコード	公衆衛生看護学概論 PHN1111MN1	必修科目	1 年次 2 学期	講義	2 単位		
科目責任者	医学部看護学科 教授 重松 由佳子						
科目担当者	医学部看護学科 佐藤 祐佳、徳澤 麻梨子 非常勤講師 矢島 由紀（ゆきデンタルクリニック院長） 非常勤講師 土井 巧（朝倉市役所 保健師）						
教員の実務経験	行政保健師として保健活動・関係者との協働・保健事業の計画立案に従事した教員が担当し、公衆衛生看護の実践活動を踏まえて公衆衛生看護の基本的な知識技術を教授する。						
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の③人々を生活者として全人的に捉える姿勢を備えることを目指している。						
教育目標 到達目標	教育目標 地域で生活する人々の健康と生活をまもり、QOL の向上を目指す公衆衛生看護について学ぶ。地域で生活している人々、健康、環境、看護の関連を理解したうえで、地域を基盤に行われる看護活動の基本的な考え方や発展の歴史、活動の基になる法体系や制度を学び、コミュニティを対象とした看護の役割と機能について理解を深める。 到達目標 1) 公衆衛生看護の理念、対象、場の特性と変遷について説明できる。 2) 地域で生活する人々の健康に影響を与えている環境と保健活動について説明できる。 3) 公衆衛生看護活動の展開方法について説明できる。 4) 公衆衛生看護活動に関する法令・関係職種について説明できる。 5) 公衆衛生看護活動に活用される基本的な理論・モデルを説明できる。 6) 産業保健活動、学校保健活動の対象・活動の特性について説明できる。 7) 地域保健活動における看護職の役割・機能について説明できる。						
授業概要	講義と事例のワークシートを用いた演習で構成する。演習は、各自のワーク後、学習内容を学生自らの言葉で他者に説明し理解を深めるグループワークを行う。						
授業計画							
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間			
第 1 回 第 2 回 第 3 回	公衆衛生の定義、健康の定義 公衆衛生の歴史 公衆衛生の理念	重松【講義】 重松【講義】 重松【講義】	健康 日本の歴史と公衆衛生 ヘルスプロモーション・プライマリヘルスケア	各講義前にテキストを読むこと（20-30分）、疑問点を明らかにして臨む。終了後は、15-20分用語の復習をして知識を確実にしておく。			
第 4 回 第 5 回	公衆衛生行政の仕組み 公衆衛生の活動・対象	重松【講義】 重松【講義】	保健所、市町村、地区組織 コミュニティアズパートナーモデル・ポピュレーションアプローチ・ハイリスクアプローチ				
第 6 回	公衆衛生看護の基盤となる概念	重松【講義】	アドボカシー・エンパワメント・社会的公正・協働				
第 7 回	公衆衛生看護の歴史・倫理	重松【講義】	日本の歴史と看護・倫理綱領				
第 8 回	公衆衛生看護活動の実際	土井【講義】	家庭訪問・保健指導技術				
第 9 回	学校保健活動（学校保健の目的・機能）	徳澤【講義】	学校保健の役割と動向				
第 10 回	公衆衛生看護の機能と技術の特徴	重松【講義】	対象と場の特性				
第 11 回	個人・家族の保健指導技術	重松【講義】	生活支援・アウトリーチ				
第 12 回	地域・集団を対象とする公衆衛生看護活動の展開	重松【講義】	地域組織活動・システム化				
第 13 回	口腔歯科保健の意義	矢島【講義】	口腔歯科保健				
第 14 回	産業保健活動（産業保健・産業看護の定義）	佐藤【講義】	産業看護活動				
第 15 回	公衆衛生看護活動とは	重松【講義】	公衆衛生看護の特徴				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度② 医学書院 2024 標準保健師講座① 公衆衛生看護学概論 医学書院 2024						
参考書	なし						
成績評価							
方法（割合）	基準						
筆記試験（70%） レポート（30%）	到達目標 1) 3) 4) 5) 6) について到達目標を筆記試験の正答率で評価する。 到達目標 2) 7) について、ワークシートとレポートの内容で評価する。						
課題（レポート等）に対するフィードバック		課題（レポート等）は評価コメントを講義時間内に返却する。					

科目名 ナンバリングコード	生活支援実習 NUS1423MN1	必修科目	1 年次 2 学期	実習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 加悦 美恵				
科目担当者	医学部看護学科 恒松 佳代子、前野 里子、三次 貴大、山田 泰子、谷口 慎一、その他実習指導者				
教員の実務経験	すべての担当教員が保健医療施設での臨床看護の実務経験を活用して実習指導を行っている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の③人々を生活者として全人的に捉える姿勢を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 保健医療福祉の対象となる人々の生活を支援する視点を身につける。 2) 地域の多様な場における看護活動への参加をとおして、看護職者の役割について学ぶ。 3) 看護実習生に求められる基本的姿勢を身につける。 到達目標 1) 健康問題をかかえて生活する患者・利用者の健康状態や生活状況、思いについて説明できる。 2) 保健医療福祉活動に関わる職種とその役割・機能について説明できる。 3) 多様な場面を見学し看護活動に参加できる。 4) 看護職者の責任について考えたことを述べる。 5) 看護学生として自己管理し責任ある行動をとることができる。 6) 実習の体験から自己の学習課題を明らかにする。				
授業概要	看護学生にとっては初めての臨地実習である。一人 2 か所の保健医療福祉施設で、患者・利用者、看護職者と積極的に関わり学ぶ。実習の準備を十分行うことで、落ち着いて実習に参加できるため、オリエンテーションや事前学習への取り組みが重要である。				
授業計画					
実習期間・場所		実習内容	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
実習期間： 2025年9月1日（月）～ 9月12日（金）のうち 1週間（45時間） 実習場所： 学内施設； 久留米大学病院 久留米大学医療センター 学外施設； 病院等 7 施設 診療所 15 施設		学内施設と学外施設でそれぞれ 2 日間ずつ実習し、最終日に実習のまとめを行う。 1) 施設のオリエンテーションを受け施設内を見学する。 2) 毎日、実習の目標を立てて臨み、終了時には実施の評価を行って記録する。 3) 看護師とともに行動し、環境整備や看護援助、診療場面を見学する。看護師が行う援助に一部参加する。 4) 患者・利用者とのコミュニケーションに参加する。 5) 見学や体験を通して関わった対象者の生活状況をヘンダーソンの基本的欲求の視点で観る。 6) 実習での気づきや疑問点についてテーマを設定しカンファレンスを行う。 7) 毎日の実習内容を振り返り、学びを整理する。 8) 自身の体調、身だしなみを整え、感染防止、個人情報保護に努め、報告・連絡、相談などを徹底する。 9) 実習のまとめでは、2 施設での実習の体験を他者と共有し、看護についての理解を深める。	事前学習； 1) 保健医療福祉活動に関わる職種とその役割について 2) 実習施設の特徴に応じた調べ学修 3) 関連科目の復習 他 事前オリエンテーション： 2 回のオリエンテーションに必ず出席する。 実習中： 毎日、実習計画を立てて臨む。実習後は、見学・体験した内容と学んだことについて指定の用紙に記録する。	60分 90分 90分 毎日90分	
テキスト	なし				
参考書	茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [1] 看護学概論、医学書院、2023 V・ヘンダーソン著、湯楨ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会、2016 茂野香おる：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ、医学書院、2023、第 19 版 任和子：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ、医学書院、2023、第 18 版 （すべて購入済）				
成績評価					
方法（割合）		基準			
到達目標の達成度（100%）		実習場面および実習記録の記載内容からルーブリック評価表を用いて評価する。			
課題（レポート等）に対するフィードバック		実習記録物のうち、実習記録Ⅰ（毎日の実習記録）は日々フィードバックする。実習記録は最終提出後は原則返却しない（一定期間保管後処分）。			

科目名 ナンバリングコード		英語Ⅱ FLE1352MN3	必修科目	2 年次 A クラス 1 学期 B クラス 2 学期	講義	1 単位
科目責任者		非常勤講師 藤原 恵子				
教員の実務経験		なし				
ディプロマポリシーとの関連		本科目は、ディプロマポリシー DP6 の地域及び国際的視野で、社会に貢献することができる能力の②国内外で暮らす人々の健康・生活の質の向上に貢献する基礎力を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標		教育目標 1) 国際社会の医療現場で必要とされる英語の専門用語を習得するとともに、海外からの患者にも対応した、英語能力（リスニング、ライティング）を養成する。 2) 看護や医療に関連する英語長文の読解を通して、看護実践や研究に必要な基礎知識を身につけ、英文読解力（リーディング）を向上させる。 到達目標 1) 看護・医療に関連する教科書等を必要な時に読みこなし説明できる。【知識・理解】 2) 看護で必要とされる基本的な定型会話フレーズや看護・医療英語を述べるができる。【知識・理解】 3) 基本的な定型フレーズを実際に聞いたり、書いたりすることができる。【態度・習慣】				
授業概要		本授業では、約 60 名の学生のクラスに対して、「看護英語」の 4 技能教科書（リスニング・ライティング・リーディング・スピーキング）と看護英語練習帳（定型フレーズ）を使用し、リスニング・ライティング・リーディングの解答を学生が答え看護英語・医療関連用語を習得する。看護英会話をペアで練習する（スピーキング）そして毎回2つのペアが発表。また、医療関連の長文を読み英文読解力を向上させ（リーディング）、英語での看護コミュニケーションに慣れる。最終授業では、医療関連英語のカルタ取りを行う。				
授業計画						
授業回数		授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）		必要時間
A ク ラ ス	第 1 回	Introduction to this course, Unit 1：医療関係の職業	藤原【講義】	予習： 授業で取り上げる Unit の予習（リスニング・長文読解医療・看護英語）をする。 復習： 小テストを受ける 教科書と「看護英語の練習帳」の Unit を復習し、医療英語と看護英語を覚える。		予習 毎回 30 分 復習 毎日 30 分
	第 2 回	Unit 2：病院での同僚、身体（外側）	藤原【講義】			
	第 3 回	Unit 3：健康診断、身体（骨、筋肉）	藤原【講義】			
	第 4 回	Unit 4：電話、身体（内臓）	藤原【講義】			
	第 5 回	Unit 5：救急、病院の科の名称	藤原【講義】			
	第 6 回	Unit 6：診察、病院関連	藤原【講義】			
	第 7 回	Unit 7：病院の受付、症状（痛みなど）	藤原【講義】			
	第 8 回	Unit 8：待合室、病気（1）	藤原【講義】			
	第 9 回	Unit 9：友人、病気（2）	藤原【講義】			
	第 10 回	Unit10：病室、病気（3）	藤原【講義】			
	第 11 回	Unit11：旅行前、病気（4）	藤原【講義】			
	第 12 回	Unit12：病院、治療・手術	藤原【講義】			
	第 13 回	Unit13：病院で迷った人、薬剤関連	藤原【講義】			
	第 14 回	Unit14：入院、医療関係の道具	藤原【講義】			
	第 15 回	まとめ	藤原【講義】			
B ク ラ ス	第 1 回	Introduction to this course, Unit 1：来院	藤原【講義】	予習： 授業で取り上げる Unit の予習（リスニング・長文読解・医療・看護英語）をする。 復習： 小テストを受ける 教科書と「看護英語の練習帳」の Unit を復習し、医療英語と看護英語を覚える。		予習 毎回 30 分 復習 毎日 30 分
	第 2 回	Unit 2：初診受付	藤原【講義】			
	第 3 回	Unit 3：生活習慣を聞く	藤原【講義】			
	第 4 回	Unit 4：問診（1）	藤原【講義】			
	第 5 回	Unit 5：脈拍、血圧、体重の測定	藤原【講義】			
	第 6 回	Unit 6：採血、採尿	藤原【講義】			
	第 7 回	Unit 7：診断（1）	藤原【講義】			
	第 8 回	Unit 8：問診（2）	藤原【講義】			
	第 9 回	Unit 9：症状をより詳しく聞く	藤原【講義】			
	第 10 回	Unit10：診断（2）	藤原【講義】			
	第 11 回	Unit11：薬の説明	藤原【講義】			
	第 12 回	Unit12：問診（3）	藤原【講義】			
	第 13 回	Unit13：MRI を受ける	藤原【講義】			
	第 14 回	Unit14：手術を勧める	藤原【講義】			
	第 15 回	まとめ	藤原【講義】			
※但し、受講生の活動状況によって、進度調整するなど、若干の変更をする場合もある。						

テキスト	A クラス：笹島 茂 他 著 “Take Care” 三修社 2018 年 井上真紀 著 看護英語の練習帳 萌文書林 2018 年 B クラス：樋口晶彦 他 著 “First Aid” 金星堂 2019 年 井上真紀 著 看護英語の練習帳 萌文書林 2018 年	
参考書	英和辞典、電子辞書、オンライン辞書：Weblio 辞書	
成績評価		
方法（割合）	基準	
筆記試験の成績（50％）	1. 学期中に学んだ英会話表現や医療英語と看護英語を知っていて聞くことや書くことができ、医療・看護関連英語長文を読みこなせる。	
受講態度（30％）	2. 指示どおりの予習復習、発表や適切な回答、ペア活動に取り組み、授業に積極的に受講する態度。	
小テスト成績（20％）	3. 授業外での Web において復習具合を小テストで医療・看護英語文をチェック。	
課題（レポート等）に対するフィードバック		小テストは、Hondana で実施し、フィードバックします。

科目名 ナンバリングコード	オーラル・イングリッシュⅡ FLE1362MN3	必修科目	2年次 B1ｸﾗｽ1学期 A1ｸﾗｽ2学期	講義	1 単位
科目責任者	外国語教育研究所 准教授 シャーロット ムラカミ				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP6 の地域及び国際的視野で、社会に貢献することができる能力の②国内外で暮らす人々の健康・生活の質の向上に貢献する基礎力を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	This oral communication course will prepare nurses to communicate with English speaking patients (e.g. foreign residents, tourists, and medical tourists). 教育目標 The goal of the course is for students to become more confident about using English with patients in a medical setting. 到達目標 1) Students will learn vocabulary and phrases to communicate with patients and family members.				
授業概要	Students will actively practice the target language through listening, shadowing, and doing role-plays.				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）		
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	Course Overview/ Online registration Asking for personal details Asking about pain/ Types of pain Types of pain / Pain scale Speaking Assessment 1 Giving vital sign readings Taking vital signs / Making requests Taking vital signs / Explaining inhaler usage Assessing ADLs / Showing empathy Speaking Assessment 2 Assessing patient elimination Asking about bodily functions Giving advice about diet/exercise Speaking Assessment 3 Course Review/ Feedback	村上【講義】 村上【講義】 村上【講義】 村上【講義】 村上【講義】 村上【講義】 村上【講義】 村上【講義】 村上【講義】 村上【講義】 村上【講義】 村上【講義】 村上【講義】 村上【講義】 村上【講義】	・Google Classroom registration, syllabus, and the need for English in Japan will be explained on the first day. ・All homework is online. ・Speaking assessments are online. ・Students' attitudes to learning and other students will affect grades. ・身体障害または学習障害のある学生は、村上に連絡してください。		
テキスト	English for Nursing 2 (2012), ISBN 978-1-4082-6994-7, Authors: Ros Wright & Maria Spada Symonds. Publisher: Pearson				
参考書	必要あるアプリ : Flip, Google Classroom, Google ドキュメント, Google ドライブ				
成績評価					
方法（割合）		基準			
Participation (15%) Speaking Assessments (50%) Homework (35%)					
課題（レポート等）に対するフィードバック		Google Classroom では、コースにおけるフィードバックと総合成績を確認することができます。			

科目名 ナンバリングコード	オーラル・イングリッシュⅡ FLE1362MN3	必修科目	2年次 B2ｸﾗｽ1学期 A2ｸﾗｽ2学期	講義	1 単位
科目責任者	外国語教育研究所 教授 キャスリーン ブラウン				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP6 の地域及び国際的視野で、社会に貢献することができる能力の②国内外で暮らす人々の健康・生活の質の向上に貢献する基礎力を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	This oral communication course will prepare nurses to communicate with English speaking patients (e.g. foreign residents, tourists, and medical tourists). 教育目標 The goal of the course is for students to become more confident about using English with patients in a medical setting. 到達目標 Students will learn vocabulary and phrases to communicate with patients and family members.				
授業概要	Students will actively practice the target language through listening, shadowing, and doing role-plays.				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）		
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	Course Overview/ Online registration Asking for personal details Asking about pain/ Types of pain Types of pain / Pain scale Speaking Assessment 1 Giving vital sign readings Taking vital signs / Making requests Taking vital signs / Explaining inhaler usage Assessing ADLs / Showing empathy Speaking Assessment 2 Assessing patient elimination Asking about bodily functions Giving advice about diet/exercise Speaking Assessment 3 Course Review/ Feedback	ブラウン【講義】 ブラウン【講義】 ブラウン【講義】 ブラウン【講義】 ブラウン【講義】 ブラウン【講義】 ブラウン【講義】 ブラウン【講義】 ブラウン【講義】 ブラウン【講義】 ブラウン【講義】 ブラウン【講義】 ブラウン【講義】 ブラウン【講義】 ブラウン【講義】	・Google Classroom registration, syllabus, and the need for English in Japan will be explained on the first day. ・All homework is online. ・Speaking assessments are online. ・Students’ attitudes to learning and other students will affect grades. ・身体障害または学習障害のある学生は、シャーロット ムラカミ先生に連絡してください。		
テキスト	English for Nursing 2 (2012), ISBN 978-1-4082-6994-7, Authors: Ros Wright & Maria Spada Symonds. Publisher: Pearson				
参考書	必要あるアプリ : Flip, Google Classroom, Google ドキュメント, Google ドライブ				
成績評価					
方法（割合）		基準			
Participation (15%) Speaking Assessments (50%) Homework (35%)					
課題（レポート等）に対するフィードバック		Google Classroom では、コースにおけるフィードバックと総合成績を確認することができます。			

科目名 ナンバリングコード	からだの構造と機能Ⅲ BMS2416MN3	必修科目	2 年次 1 学期	実習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 嵯峨 堅				
科目担当者	医学部解剖学講座 田平 陽子、井上 誠一				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 系統解剖学実習（医学科 2 年生実施）の見学を中心に、人体全体や臓器および組織を観察し、人体の成り立ちを学ぶ実習を実施することにより、これまでに学んだ知識を統合し、総合的に説明できる。 2) 御献体を通じて、死および生命の倫理や尊厳に対する考えを身につける。 到達目標 1) 人体の構造と機能を総合的に理解し、説明できる。 2) 死および生命の尊厳を深く理解し、看護の倫理へと結びつけることができる。				
授業概要	医学部医学科 2 年生で実施されている系統解剖学実習を見学し、人体構造を観察し、所見をとり、レポートを作成する。予習、復習を兼ねて課題を課すこともある。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習(予習・復習等)	必要時間	
第 1 回	系統解剖学実習 ガイダンス： 系統解剖学実習とは、献体とは、 見学諸注意、レポートについて	嵯峨【実習】	実習見学前に1年生で学んだことを復習し、ガイダンスで説明する見学範囲の予習をしっかりと行うこと。また、御献体の意義や献体される篤志家の方々およびご遺族のお気持ちをしっかりと理解した上で、実習に臨んで欲しい。さらに、実習や慰霊祭に際しては、久留米大学の学生として、又、実習を行っている学生として献体された方やご遺族に対して失礼のないように服装や髪型等をきちんと整えた上で、言葉遣いにも留意して欲しい。	各 4 ～ 5 時間	
第 2 回	見学Ⅰ 体幹背面の観察（皮膚から浅背筋層）	嵯峨・田平・井上【実習】			
第 3 回	見学Ⅰ 体幹背面の観察（深背筋層）	嵯峨・田平・井上【実習】			
第 4 回	見学Ⅱ 頸胸腹部深層の観察	嵯峨・田平・井上【実習】			
第 5 回	見学Ⅱ 胸腹部内臓全体像の観察	嵯峨・田平・井上【実習】			
第 6 回	見学Ⅲ 胸腹部内臓 各臓器の観察 1	嵯峨・田平・井上【実習】			
第 7 回	見学Ⅲ 胸腹部内臓 各臓器の観察 2	嵯峨・田平・井上【実習】			
	*解剖体慰霊祭：5月27日午後大学にて全員参加				
第 8 回	見学Ⅳ 各臓器の観察 3	嵯峨・田平・井上【実習】			
第 9 回	見学Ⅳ 各臓器の観察 4	嵯峨・田平・井上【実習】			
第 10 回	見学Ⅴ 上下肢の観察	嵯峨・田平・井上【実習】			
第 11 回	見学Ⅴ 骨盤内の観察	嵯峨・田平・井上【実習】			
第 12 回	見学Ⅵ 納棺	嵯峨・田平・井上【実習】			
第 13 回	見学Ⅵ 骨学実習	嵯峨【実習】			
第 14 回	見学Ⅶ 脳、脊髄（中枢神経系）の観察	嵯峨【実習】			
第 15 回	見学Ⅶ 眼球、内頭蓋底の観察	嵯峨【実習】			
テキスト	(からだの構造と機能Ⅰ、Ⅱで使用したテキスト) 坂井建雄著者代表「系統看護学講座 専門基礎① 人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学」医学書院 2022				
参考書	(からだの構造と機能Ⅰ、Ⅱの参考書と同様) 桑木 共之、黒澤 美枝子、高橋 研一、細谷 安彦 編訳「トートラ人体解剖生理学 からだの構造と機能 第5版」原書 15 版 丸善 2019				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (50%) レポート (40%) 実習態度 (10%)	筆記は、実習を中心とした知識の取得、整理がなされていることを評価する。 レポートは、形成的評価とする。 実習態度は、マナーや身繕いの状態、実習への積極的な取り組みを評価する。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック		レポートは、評価後返却する。			

科目名 ナンバリングコード	社会福祉と社会保障 SWS2110MN3	必修科目	2 年次 1 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	文学部 教授 片岡 靖子				
教員の実務経験	医療機関、在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所のソーシャルワーカーおよび介護支援専門員として社会福祉法及び社会保障制度を活用してきた実務経験をもとに、臨床現場での具体的事例を踏まえながら講義を展開する。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP2 の倫理観に基づき、人権を尊重・擁護することができる能力の①生命・人の尊厳を護る基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 今日の国民生活において生存権の実現を目指す社会福祉・社会保障は、欠かすことのできない社会制度である。この制度の理念・体系・歴史を理解し、社会福祉・社会保障の枠組みを明らかにする。また、近年の動向として介護保険制度や障害者総合支援法、年金・医療制度などの現状と課題、政策動向を総合的に検討する。 到達目標 1) 社会保障制度の理念・体系・歴史を理解し、説明することができる。 2) 各制度の現状を理解し、課題や政策動向について述べるができる。 3) 生活を支える社会保障制度の全体像を理解し、臨床現場での活用について説明できる。				
授業概要	事前学習課題の提示による反転学習を実施し、講義終了後の小テストを用いて、討議をとおして教育内容の理解促進を図る CC テスト法 (concept clarification test) により、知識と理解の定着を図る。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回	社会保障制度	片岡【講義】	第 1 章 A の予習・復習	30 分	
第 2 回	社会福祉の法制度	片岡【講義】	第 1 章 B の予習・復習	30 分	
第 3 回	現代社会の変化	片岡【講義】	第 2 章 A の予習・復習	30 分	
第 4 回	社会保障・社会福祉の動向	片岡【講義】	第 2 章 B の予習・復習	30 分	
第 5 回	医療保障制度の沿革 / 医療保障制度の構造と体系	片岡【講義】	第 3 章 A と B の予習・復習	30 分	
第 6 回	健康保険と国民保険	片岡【講義】	第 3 章 C の予習・復習	30 分	
第 7 回	高齢者医療制度	片岡【講義】	第 3 章 D の予習・復習	30 分	
第 8 回	保険診療のしくみ / 公費負担医療 / 国民医療費	片岡【講義】	第 3 章 EFG の予習・復習	30 分	
第 9 回	介護保障	片岡【講義】	第 4 章の予習・復習	30 分	
第 10 回	所得保障	片岡【講義】	第 5 章の予習・復習	30 分	
第 11 回	公的扶助	片岡【講義】	第 6 章の予習・復習	30 分	
第 12 回	高齢者福祉 / 障害者福祉	片岡【講義】	第 7 章 A と B の予習・復習	30 分	
第 13 回	児童家庭福祉	片岡【講義】	第 7 章 C の予習・復習	30 分	
第 14 回	社会福祉援助とは	片岡【演習】	第 8 章 A ～ E の予習・復習	30 分	
第 15 回	社会福祉実践と医療・看護の連携 (まとめ)	片岡【演習】	第 8 章 F ～ H の予習・復習	30 分	
テキスト	福田素生編 (2025)『健康支援と社会保障制度 (3) 社会保障・社会福祉』 医学書院				
参考書	『社会福祉六法』関係法規集を所持しているものは、講義に持参する。				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (80%) 受講態度 (20%)	到達目標の達成度を正答率で評価する。 講義への積極的な参加態度・意欲などを評価する。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック		課題レポートへのフィードバックを行う。			

科目名 ナンバリングコード	免疫 BMS1117MN3	必修科目	2 年次 1 学期	講義	1 単位
科目責任者	医学部免疫学講座 教授 溝口 充志				
科目担当者	医学部免疫学講座 溝口 恵美子、岡田 季之 医学教育研究センター 小松 誠和				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 看護を実践する基本的な知識を身につけるために、免疫系のしくみを分子レベルで理解し、免疫と疾患との関連性について理解する。 到達目標 1) 免疫応答を説明できる。 2) 自然免疫と獲得免疫を説明できる。 3) 液性免疫と細胞性免疫を説明できる。 4) 免疫系、感染防御系の健康障害と人間の反応について概説できる。 5) 免疫系に作用する薬の作用、機序、適応、有害事象を説明できる。				
授業概要	講義に協同学習を取り入れながら授業を進める。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	1 章. 自己認識の必要性	溝口充【講義】	講義プリントを復習する。	30 分	
第 2 回	2 章. 抗原とレセプター	小松 【講義】	講義プリントを復習する。	30 分	
第 3 回	3 章. 感染に対するバリアー	小松 【講義】	講義プリントを復習する。	30 分	
第 4 回	4 章. 自然免疫系を構成する細胞群	小松 【講義】	講義プリントを復習する。	30 分	
第 5 回	5 章. 自然免疫の働き	小松 【講義】	講義プリントを復習する。	30 分	
第 6 回	6 章. 獲得免疫に関与する分子	小松 【講義】	講義プリントを復習する。	30 分	
第 7 回	7 章. 細胞と臓器	岡田 【講義】	講義プリントを復習する。	30 分	
第 8 回	8 章. 免疫多様性の形成：リンパ球抗原レセプター	岡田 【講義】	講義プリントを復習する。	30 分	
第 9 回	9 章. リンパ球の分化	岡田 【講義】	講義プリントを復習する。	30 分	
第 10 回	10 章. リンパ球の活性化	岡田 【講義】	講義プリントを復習する。	30 分	
第 11 回	11 章. リンパ球の機能	岡田 【講義】	講義プリントを復習する。	30 分	
第 12 回	12 章. 獲得免疫応答の制御	溝口恵【講義】	講義プリントを復習する。	30 分	
第 13 回	13 章. 健康の維持：自然免疫と獲得免疫による健康管理	岡田 【講義】	講義プリントを復習する。	30 分	
第 14 回	14 章. 過敏反応	岡田 【講義】	講義プリントを復習する。	30 分	
第 15 回	15 章. 免疫不全	岡田 【講義】	講義プリントを復習する。	30 分	
第 16 回	16 章. 自己免疫	岡田 【講義】	講義プリントを復習する。	30 分	
第 17 回	17 章. 移植	岡田 【講義】	講義プリントを復習する。	30 分	
第 18 回	18 章. 免疫薬物治療	岡田 【講義】	講義プリントを復習する。	30 分	
第 19 回	19 章. 腫瘍免疫	小松 【講義】	講義プリントを復習する。	30 分	
第 20 回	20 章. 免疫機能の測定	小松 【講義】	講義プリントを復習する。	30 分	
テキスト	リップンコットシリーズイラストレイテッド免疫学原書2版、矢田純一/高橋秀実監訳、丸善株式会社 令和5年3月20日発行				
参考書	ジェンウェイ免疫生物学原書第9版、笹月健彦・吉開泰信監訳、南江堂 令和元年3月15日発行				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（80％） 受講態度（20％）	到達目標の達成度を正答率で評価する。 授業へ積極的に参加する姿勢などをポイント化して評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		学習管理システム“Hondana”などを介して、状況に応じてフィードバックを行う。			

科目名 ナンバリングコード	疫学 SBM2111MN3	必修科目	2 年次 2 学期	講義	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 松本 悠貴				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の②看護の現象に関心を持ち解決に向けて取り組むことを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 公衆衛生活動を行うために必要な疫学的思考、知識、技能の基本を学ぶ。 2) 臨床場面や保健政策で活用できる疫学手法を学ぶ。 到達目標 1) 看護で求められる疫学的な考え方を述べるができる。 2) 疫学研究の立案、実行、データ集約と解析、結果の解釈や問題点について説明できる。 3) 看護研究で求められる疫学研究手法を適切に活用できる。				
授業概要	講義中に配布資料の穴埋めを行う等の形式で学習を進めていく。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	疫学とは何か 基本的な疫学用語、因果関係 疫学で用いられる指標—頻度の測定 疫学で用いられる指標—頻度の比較 疫学研究を始める前に スクリーニング バイアスと交絡 記述疫学、横断研究、症例対照研究 コホート研究、介入研究、生命表 疫学指標の算出に関する演習 診療関連データベース、疫学研究と倫理 情報収集方法、情報処理、保健統計調査 疫学で用いられる統計学的方法とその解釈 システムティックレビュー 総括	松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】	テキスト1 章 テキスト2 章 G テキスト3 章 A テキスト3 章 B テキスト2 章 A～F テキスト7 章 テキスト6 章 テキスト4 章 1～4 テキスト4 章 5～7、11 章 指標の計算方法の復習 テキスト13 章、14 章 テキスト8 章、9 章、12 章 テキスト10 章 テキスト5 章 全体の総復習	予習・復習 それぞれ 30 分程度	
テキスト	・配布資料 ・はじめて学ぶやさしい疫学・改訂第4 版（日本疫学会監修、南江堂、2024 年）				
参考書	・基本からわかる看護疫学入門・第3 版（大木秀一、医歯薬出版、2021 年）				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（90％） 受講態度（10％）	到達目標の達成度を正答率で評価する。 講義を受講する際の姿勢・態度等について評価する。 筆記試験ならびに受講態度の総合得点 60 点以上を合格とする。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		レポート提出は求めない。			

科目名 ナンバリングコード	症候学 CLM1111MN3	必修科目	2 年次 1 学期	講義	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 松本 悠貴				
科目担当者	医学部看護学科 古村 美津代、崎浜 智子、桐明 あゆみ、姫野 深雪、孫田 千恵				
教員の実務経験	この科目は医療機関での勤務経験を有する医師および看護師が臨床で得た知識・技術を基に講義を行う。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 医療現場において遭遇する主要な症状について、その前兆から発症に至るまでのメカニズムについて系統的に学ぶ。 2) 自覚症状や徴候から観察の視点とメカニズムとの関連を理解し、症候への看護を考える。 到達目標 1) 解剖・生理学、病理学を統合して、症候（自覚症状や徴候）を手がかりに疾患や病態との関連を述べることができる。 2) 症候の成り行きについて観察する視点を述べることができる。 3) 症候に基づく看護援助の必要性和実施時の留意点等について述べるができる。				
授業概要	形式1：講義中に配布資料の穴埋めを行う等の形式で学習を進めていく。 形式2：与えられた課題についてディスカッションをしながら学習を進めていく。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回 第 16 回 第 17 回 第 18 回 第 19 回 第 20 回 第 21 回 第 22 回	ガイダンス 胸痛、動悸、ショック 循環器系の看護観察と看護援助 尿の異常、脱水、浮腫 腎臓系、浮腫の看護観察と看護援助 悪心・嘔吐、吐血、便秘異常 腹水、黄疸 消化器系の看護観察と看護援助 代謝・内分泌異常 呼吸異常、喀痰、チアノーゼ、胸水 呼吸器系の看護観察と看護援助 意識障害、自律神経障害 高次脳機能障害 運動障害、感覚障害 脳・神経系の看護観察と看護援助 貧血、出血傾向 血液系の看護観察と看護援助 発熱、発疹、リンパ節腫脹 感染症の看護観察と看護援助 視力・視野障害、めまい、耳鳴 精神異常、睡眠障害 総括	松本【講義】 松本【講義】 崎浜【講義】 松本【講義】 孫田【講義】 松本【講義】 松本【講義】 孫田【講義】 松本【講義】 松本【講義】 桐明【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】 古村【講義】 松本【講義】 姫野【講義】 松本【講義】 崎浜【講義】 松本【講義】 松本【講義】 松本【講義】	テキスト①の序文を読んでおく。 テキスト① Title B-1, B-2 第 2 回の講義を復習しておく。 テキスト① Title G-1, G-2 第 4 回の講義を復習しておく。 テキスト① Title C-1, C-2 テキスト① Title D-1, D-2 第 6 ～ 7 回の講義を復習しておく。 テキスト① Title E/F-1, E/F-2 テキスト① Title A-1, A-2 第 10 回の講義を復習しておく。 テキスト① Title H/R-1, H/R-2 テキスト① Title H-1, H-2 テキスト① Title H-1, H-2 第 12 ～ 14 回の講義を復習しておく。 テキスト① Title I-1, I-2 第 16 回の講義を復習しておく。 テキスト① Title J/K/P-1, J/K/P-2 第 18 回の講義を復習しておく。 テキスト① Title N/O-1, N/O-2 テキスト① Title Q-1, Q-2 全体の復習をしておく。	予習・復習 それぞれ 30 分程度	
テキスト	①看護のための臨床病態学・改訂 5 版（浅野嘉延・吉山直樹編、南山堂、2023 年） ②配布資料				
参考書	・看護過程に沿った対症看護・第 5 版（高木永子監修、Gakken、2021 年） ・根拠がわかる症状別看護過程・改訂第 4 版（百瀬千尋、井澤晴美編集、南江堂、2023 年） ・診察ができる vol.2 鑑別診断・第 1 版（医療情報科学研究所編集、メディックメディア出版、2024 年）				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（90%） 受講態度（10%）	到達目標の達成度を正答率で評価する。 講義を受講する際の姿勢・態度等について評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		レポート提出は求めない。			

科目名 ナンバリングコード	疾病治療論Ⅰ CLM2112MN3	必修科目	2 年次 1 学期	講義	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 松本 悠貴				
科目担当者	放射線医学講座： 田上 秀一、淡河 恵津世 麻酔学： 木本 義敬 臨床工学センター：内村 鴻一 内科学講座： （消化器内科）森田 俊 （心臓血管内科）本間 丈博 （内分泌代謝内科）蘆田 健二 （血液腫瘍内科）長藤 宏司 外科学講座： （小児外科）加治 健 （心臓血管外科）三根 大輝 （呼吸器外科）横山 新太郎 （胃・大腸外科）仕垣 隆浩				
教員の実務経験	大学病院に勤務する各診療科の専門医が臨床で得た知識・技術を基に講義を行う。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 病める人を治すだけでなく、治し癒す方法論を幅広く学ぶ。 2) 臨床各科の代表的な疾患の診断のポイント、治療および治療上の観観点について学ぶ。 到達目標 1) 治療法の総論として、放射線療法、化学療法、輸液療法の概要を説明できる。 2) 各専門分野の主要疾患とその治療法について述べるができる。 3) 治療において、看護に必要な医学的基礎知識を述べるができる。				
授業概要	講義スライドおよび配布資料にて学習を進めていく。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	放射線医学（放射線科） 放射線医学（放射線科） 化学療法（呼吸器内科） 輸液療法（小児外科） 麻酔法，周術期管理（麻酔科） 医療機器（臨床工学センター） 心臓血管内科疾患（心臓血管内科） 心臓血管外科疾患（心臓血管外科） 呼吸器内科疾患（呼吸器内科） 呼吸器外科疾患（呼吸器外科） 消化器内科疾患（消化器内科） 消化器外科疾患（胃・大腸外科） 内分泌代謝疾患（内分泌代謝内科） 血液疾患（血液腫瘍内科） 疾病治療（総括）	田上【講義】 淡河【講義】 松本【講義】 加治【講義】 木本【講義】 内村【講義】 本間【講義】 三根【講義】 松本【講義】 横山【講義】 森田【講義】 仕垣【講義】 蘆田【講義】 長藤【講義】 松本【講義】	配布資料を中心に学習する。 配布資料を中心に学習する。 配布資料を中心に学習する。 配布資料を中心に学習する。 配布資料を中心に学習する。 配布資料を中心に学習する。 テキスト① Title B-3, B-4 テキスト① Title B-3, B-4 テキスト① Title A-3, A-4 テキスト① Title A-3, A-4 テキスト① Title C/D-3, C/D-4 テキスト① Title C-3, C-4 テキスト① Title E/F-3, E/F-4 テキスト① Title I-3, I-4 全体の復習を行っておく。	予習・復習 それぞれ 30 分程度	
テキスト	①看護のための臨床病態学・改訂 5 版（浅野嘉延・吉山直樹編、南山堂、2023 年） ②配布資料（原則的に HONDANA に掲載）				
参考書	・ナースンググラフィカ・疾病と治療・第 3 版（林正健二、山内豊明編、メディカ出版、2022 年）				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（90%） 受講態度（10%）	到達目標の達成度を正答率で評価する。 講義を受講する際の姿勢・態度等について評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		レポート提出は求めない。			

科目名 ナンバリングコード	疾病治療論Ⅱ CLM2113MN3	必修科目	2 年次 2 学期	講義	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 松本 悠貴				
科目担当者	精神神経学講座： 佐藤 守 内科学講座： (呼吸器・神経・膠原病内科) 井田 弘明 (腎臓内科) 三ツ石 祐太 脳神経外科学講座： 音琴 哲也 泌尿器外科学講座： 井川 掌 産婦人科学講座： 葉 高杉 小児科学講座： 満尾 美穂 眼科学講座： 嵩 翔太郎 整形外科科学講座： 松瀬 博夫 皮膚科学講座： 夏秋 洋平 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座： 黒岩 大海 救急医学講座： 田代 恵太				
教員の実務経験	大学病院に勤務する各診療科の専門医が臨床で得た知識・技術を基に講義を行う。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 病める人を治すだけでなく、治し癒す方法論を幅広く学ぶ。 2) 臨床各科の代表的な疾患の診断のポイント、治療および治療上の観察点について学ぶ。 到達目標 1) 各専門分野の主要疾患とその治療法について述べるができる。 2) 治療において、看護に必要な医学的基礎知識を述べるができる。				
授業概要	講義スライドおよび配布資料にて学習を進めていく。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	膠原病・アレルギー疾患（膠原病内科） 精神神経疾患（精神神経科） 脳神経内科疾患（神経内科） 脳神経外科疾患（脳神経外科） 腎疾患（腎臓内科） 泌尿器科疾患（泌尿器科） 女性生殖器疾患（産婦人科） 小児科疾患①（小児科） 小児科疾患②（小児科） 眼科疾患（眼科） 骨疾患（整形外科） 皮膚科疾患（皮膚科） 頭頸部領域疾患（耳鼻咽喉科） 救急医療（救命救急センター） 疾病治療（総括）	井田【講義】 佐藤【講義】 松本【講義】 音琴【講義】 三ツ石【講義】 井川【講義】 葉【講義】 満尾【講義】 満尾【講義】 嵩【講義】 松瀬【講義】 夏秋【講義】 黒岩【講義】 田代【講義】 松本【講義】	テキスト① Title J-3, J-4 テキスト① Title Q-3, Q-4 テキスト① Title H-3, H-4 テキスト① Title H-3, H-4 テキスト① Title G-3, G-4 テキスト① Title G-3, G-4 テキスト① Title M-3, M-4 テキスト① Title K-3, K-4 テキスト① Title K-3, K-4 テキスト① Title N-3, N-4 テキスト① Title L-3, L-4 テキスト① Title P-3, P-4 テキスト① Title O-3, O-4 テキスト① Title R-3, R-4 全体の復習を行っておく。	予習・復習 それぞれ 30 分程度	
テキスト	①看護のための臨床病態学・改訂 5 版（浅野嘉延・吉山直樹編、南山堂、2023 年） ②配布資料（原則的に Hondana に掲載）				
参考書	・ナースンググラフィカ・疾病と治療・第 3 版（林正健二、山内豊明編、メディカ出版、2022 年）				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（90％） 受講態度（10％）	到達目標の達成度を正答率で評価する。 講義を受講する際の姿勢・態度等について評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		レポートの提出は求めない。			

科目名 ナンバリングコード	臨床薬理 CLM1114MN3	必修科目	2 年次 2 学期	講義	2 単位
科目責任者	医学部薬理学講座 教授 西 昭徳				
科目担当者	医学部薬理学講座 河原 幸江、首藤 隆秀、黒岩 真帆美、中村 祐樹 先進漢方治療センター 田中 聡子 大学病院薬剤部 石川 智子、高橋 誠、天本 雄大				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 薬物治療に必要な臨床薬理学の基礎知識を身につける。 2) 薬物を治療目的で患者に投与する際に必要な知識を身につける。 到達目標 1) 薬理作用の本質、特に受容体を介した薬理作用について述べるができる。 2) 薬物の吸収、分布、代謝、排泄について述べるができる。 3) 薬物の副作用、薬物の反復応用や併用により出現する問題について述べるができる。 4) 基本的な薬物の作用及び作用機序、臨床応用、副作用について述べるができる。 5) 1)～4) を臨床で実践するための方法を述べるができる。 6) 薬学的管理について述べるができる。				
授業概要	授業の理解を確認するため、授業内容に関する確認問題を解いてもらい、更に理解を深めてもらう。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回 第 16 回 第 17 回 第 18 回 第 19 回 第 20 回 第 21 回 第 22 回 第 23 回	薬理学の概念、薬物の種類、薬理作用、薬物受容体 薬物の吸収・分布・代謝・排泄 用量と薬理作用、応用法と薬理作用・薬害 薬物の副作用、反復応用・薬物の併用でみられる作用 自律神経作用薬 1 自律神経作用薬 2・呼吸器作用薬 生体内活性物質・鎮痛薬 全身麻酔薬・局所麻酔薬・筋弛緩薬 向精神薬（抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬） 抗パーキンソン病薬・アルコール・中枢興奮薬 抗てんかん薬・脳代謝賦活薬 循環器作用薬・血液作用薬 消化器作用薬・脂質異常症治療薬 ホルモン及び関連物質 利尿薬 抗生物質 抗腫瘍薬 漢方薬 臨床薬理の実践(薬学的管理の実際:副作用・相互作用チェック等) 臨床薬理の実践（薬学的管理の実際：インシデント事例等） 臨床薬理の実践（がん化学療法臨床薬理） 臨床薬理の実践（がん化学療法の実際） 臨床薬理の実践（抗菌薬・消毒薬の適正使用と管理）	西 【講義】 黒岩 【講義】 黒岩 【講義】 河原 【講義】 中村 【講義】 中村 【講義】 河原 【講義】 河原 【講義】 首藤 【講義】 首藤 【講義】 首藤 【講義】 河原 【講義】 黒岩 【講義】 西 【講義】 西 【講義】 中村 【講義】 首藤 【講義】 田中 【講義】 石川 【講義】 石川 【講義】 高橋 【講義】 高橋 【講義】 天本 【講義】	予習：テキストの該当項目を読んでおくこと。 復習：習った内容を配布資料で確認し、理解を深めておくこと。	各 20 分	
テキスト	柳田俊彦編集 薬の基本とはたらきがわかる薬理学 羊土社 2023 年				
参考書	なし				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（100%）	到達目標の達成度を正答率で評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		レポート提出は求めない。			

科目名 ナンバリングコード	臨床栄養 NUS2413MN3	必修科目	2 年次 2 学期	講義・実習	1 単位
科目責任者	久留米大学病院栄養部 副部長補佐 山田 泰士				
教員の実務経験	この科目は大学病院栄養部にて専門分野における実務経験を 20 年以上有する教員が担当しており、実務経験で得た知識・能力を教えている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 傷病者の病態・病期の特質や栄養状態に基づいた適切な栄養管理を実施するために、各種疾患の病気の原因や症状、病態、予後を理解した上で、栄養学的視点に立った治療法や予防法について学習し、傷病者への栄養支援に必要な栄養評価や栄養補給法についての知識・能力を習得する。 到達目標 1) 傷病者に対する臨床栄養管理の意義と目的について説明できる。 2) 傷病者の病期・病態に基づいた食事計画の立案、調理など基本的な栄養管理を説明できる。 3) 傷病者の病態や栄養状態に応じた食事療法を提案できる。				
授業概要	授業の理解を確認するため、講義終了時に講義内容に関する問題を各自で作成・提出を課す。 提出された問題は、テストに出題する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回	臨床栄養学の基礎知識 消化管の基礎知識と栄養療法 糖尿病、腎臓病の栄養食事療法 入院患者の食事について 入院診療計画書と栄養管理計画書 サルコペニア・フレイルの栄養管理 がん患者の栄養管理 肝疾患の栄養療法とチーム医療	山田【講義】 山田【講義】 山田【講義】 山田【講義】 山田【実習】 山田【講義】 山田【講義】 山田【講義】	看護師の視点から、得られる栄養学的情報や、症状を把握し、栄養マネジメントを理解し、復習しておく。 チーム医療の中での看護師の役割について予習しておく。	各 60 分	
テキスト	必要時、資料配布する。				
参考書	日本人の食事摂取基準 2025 年版 第一出版 2025 日本臨床栄養代謝学会 JSPEN テキストブック 南光堂 2024 臨床栄養学基礎編第 3 版 羊土社 2022 糖尿病治療ガイド 2024 日本糖尿病学会				
成績評価					
方法（割合）		基準			
筆記試験（80%） 提出物及び授業態度（20%）		到達目標の達成度を筆記試験の正答率で評価する。 提出状況と内容および授業態度で評価する。			
課題（レポート等）に対するフィードバック		必要時課題を課す。			

科目名 ナンバリングコード	診療に伴う援助技術 NUS2235MN3	必修科目	2 年次 A クラス・B クラス 1 学期	講義・演習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 三次 貴大				
科目担当者	医学部看護学科 加悦 美恵、恒松 佳代子、前野 里子、山田 泰子、谷口 慎一				
教員の実務経験	看護師としての実務経験を有する教員が担当し、実践活動を踏まえて基本的な知識・技術を教授する。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 診察・検査・治療・処置における看護援助の基本となる知識と技術を修得する。 2) 安全・安楽な援助技術を実施するために、根拠に基づいた具体的方法を検討する態度を養う。 3) 演習した看護援助について、援助の目的が達成できたか評価する思考力を養う。 4) 侵襲度の高い援助技術を行う看護師の役割を理解し、対象者に配慮する姿勢を身につける。 到達目標 1) 援助技術の方法を解剖生理や医療機器の仕組みといった根拠を踏まえて説明できる。 2) 援助技術を根拠に基づき安全・安楽に実施するための具体的方法を記述できる。 3) 演習を通して、援助技術を実施する際の留意点が説明できる。 4) 演習を振り返り、援助技術の目的達成を安全・安楽の視点を踏まえて評価することができる。 5) 薬物療法に関する基本的な援助技術を実施することができる。 6) 診察・検査に関する基本的な援助技術を実施することができる。 7) 排泄機能障害のある患者の症状緩和に必要な援助技術を実施することができる。 8) 摂食嚥下機能障害のある患者の症状緩和に必要な援助技術を実施することができる。 9) 呼吸異常がある患者の症状緩和に必要な援助技術を実施することができる。				
授業概要	主題に関する学習内容の説明を受けて、自己学習を行い講義演習に参加する。演習グループで協同的に学び合い、援助技術の根拠や方法の理解を深めて技術演習に臨む。対象の状況に応じた援助技術や留意点など具体的方法を考えながら実践する。また、実施した内容を評価し、よりよい援助技術の方法を検討する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	ガイダンス 学習の進め方	三次【講義】	シラバス確認	30 分	
第 2 回	創傷管理：ドレッシング・包帯	三次【講義・演習】	無菌操作・創傷管理	60 分	
第 3 回	薬物療法／経口与薬、外用薬	三次【講義・演習】	薬物療法	60 分	
第 4・5 回	薬物療法／注射法、注射器の扱い方	三次【講義・演習】	注射法	60 分	
第 6・7 回	皮下注射、筋肉内注射	前野【演習】	皮下注射、筋肉内注射	60 分	
第 8・9 回	薬物療法／静脈内注射、点滴	三次【演習】	静脈内注射、点滴	60 分	
第 10 回	検査時の看護／検査の種類・静脈血採血	前野【講義】	検査の種類、静脈血採血	60 分	
第 11 回	検査時の看護／生体検査	前野【演習】	検査の種類	60 分	
第 12・13 回	検査時の看護／静脈血採血	三次【演習】	静脈血採血	60 分	
第 14 回	呼吸異常時の看護／吸引、吸入	三次【講義】	呼吸異常時の看護	60 分	
第 15・16 回	呼吸異常時の看護／吸引、吸入	三次【演習】	吸引、吸入	60 分	
第 17 回	排泄機能障害の看護／浣腸・導尿	前野・山田【講義】	排泄機能障害の看護	60 分	
第 18 回	排泄機能障害の看護／浣腸	山田【演習】	浣腸	60 分	
第 19・20 回	排泄機能障害の看護／導尿	前野【演習】	導尿	60 分	
第 21 回	摂食機能障害の看護／経管栄養	前野【講義】	摂食機能障害の看護	60 分	
第 21・22 回	摂食機能障害の看護／経管栄養	前野【講義・演習】	経管栄養	60 分	
第 23 回	まとめ	三次【講義】		60 分	
テキスト	深井喜代子編：新体系看護学全書 基礎看護学②③ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ，メヂカルフレンド社（1 年次購入分）				
参考書	授業内で紹介する。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（60％） 実技課題（30％） レポート（10％）	達成度を正答率で評価する。 実技課題に対する看護援助技術の実践状況と考察について評価する。 単元ごとのレポート（演習シート）の提出状況を評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		課題の予習・復習レポートを添削する。また、質問に適宜返答して返却する。			

科目名 ナンバリングコード	フィジカルアセスメント技術 NUS2234MN3	必修科目	2 年次 1 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 河原田 康貴				
科目担当者	医学部看護学科 池上 明由美、石橋 秋奈、松野 史				
教員の実務経験	この科目は看護師としての実務経験を有する教員が担当し、臨床で得た知識・技術を基に教えている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 対象の健康状態を判断するための、フィジカルアセスメント技術と臨床判断能力を修得することができる。 2) フィジカルアセスメント技術を活用し、対象に必要な看護援助を明確化できる。 到達目標 1) 看護におけるフィジカルアセスメントの目的、必要性、方法について説明できる。 2) フィジカルアセスメントの基本となる身体各部の解剖や生理について説明できる。 3) 身体各部の解剖や生理をもとに、身体を系統的に観察し、判断するためのフィジカルアセスメント技術を実践できる。 4) フィジカルアセスメントから得た情報をもとに、対象の健康状態を統合的に判断し、必要となる看護援助について考察することができる。 5) ポータブルエコーを用いたフィジカルアセスメントや看護技術への応用について知る。				
授業概要	対象に適切な看護援助を行うためには、健康上の問題をいかに明確化できるかということが大きく影響する。本科目では、対象の健康状態を総合的に判断するためのフィジカルアセスメントとその技術について、講義や演習をとおして基本的知識と技術を学ぶ。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3・4 回 第 5・6 回 第 7・8 回 第 9・10 回 第 11・12 回 第 13・14 回 第 15 回	看護におけるフィジカルアセスメント 問診と基本となる共通の技術 外皮系のフィジカルアセスメント 頭頸部のフィジカルアセスメント 循環器系のフィジカルアセスメント 呼吸器系のフィジカルアセスメント 腹部のフィジカルアセスメント 脳・神経系のフィジカルアセスメント 運動器系のフィジカルアセスメント フィジカルアセスメント演習 症状別・徴候別フィジカルアセスメント	河原田【講義】 河原田【講義】 河原田【講義】 河原田【講義】 河原田【講義】 河原田【講義】 河原田【講義】 河原田【講義】 担当者全員【演習】 河原田【講義】	各講義の前には必ずテキストを読み、関連する人体の構造や機能について、既習内容を十分に復習する。 さらに該当するレポート課題を解き、講義に臨む。 講義後は、学修した内容について復習し、技術については演習に向けて繰り返し練習する。	各回 30～60分	
テキスト	医療情報科学研究所編：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント、Medic Media、2022				
参考書	藤崎郁：フィジカルアセスメント完全ガイド、学研メディカル秀潤社、2017 山内豊明：フィジカルアセスメントガイドブックス目と手と耳でここまでわかる、医学書院、2011 阿部幸恵編：症状別 病態生理とフィジカルアセスメント、照林社、2015				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（80%） レポート（10%） 受講態度（10%）	定期試験によって、到達目標の達成度を評価する。 課題レポートの提出状況と内容をポイント化し、評価する。 講義・演習へ積極的に参加する姿勢（意見、質問等）等をポイント化し、評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		レポートの返却・フィードバックは、講義の中で適宜行う。			

科目名 ナンバリングコード	人間関係方法論 NUS1233MN3	必修科目	2 年次 1 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 福浦 善友				
科目担当者	医学部看護学科 松島 亜希子、前野 里子、孫田 千恵 大学病院耳鼻咽喉科 濱川 幸世				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当し、精神科病棟や慢性期病棟での看護師の実務経験を基盤とした授業を展開している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 対象を理解し、信頼関係を構築できるコミュニケーション技術・態度を身につける。 2) 論理的に議論できるカンファレンスを運営、創造するスキルを身につける。 到達目標 1) 対人関係におけるコミュニケーション、治療的コミュニケーションについて説明できる。 2) 人間関係に関する自己の課題を明らかにできる。 3) 対象者を理解するための聴き方、伝え方の技術を習得し、実践できる。 4) 看護の対象と援助的コミュニケーションをとることができる。 5) プロセスレコードで看護場면을再構成し、相互作用を分析・考察できる。 6) 言語的コミュニケーションが困難な人々とのコミュニケーション方法を選択できる。 7) 集団の構造と機能、グループダイナミクスについて説明できる。 8) カンファレンスにおける各役割を理解し、カンファレンスを実施できる。				
授業概要	看護コミュニケーションと、カンファレンスから構成している。事例を用いたシミュレーション、カンファレンスの実践から、体験を通して看護師に必要なコミュニケーションについて学習する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6・7 回 第 8・9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	コミュニケーション 自己分析 人間関係に関する看護理論 信頼関係の構築（看護理論の活用） 患者・看護師関係①プロセスレコード 患者・看護師関係② 事例：入院した患者（シミュレーション） 事例：回復期の患者（シミュレーション） ノンバーバル・コミュニケーション 患者とのコミュニケーション（実技まとめ） チームでの対話とグループダイナミクス 司会・記録・参加者のスキル・トレーニング カンファレンス① カンファレンス② 看護コミュニケーション	福浦【講義・演習】 福浦【講義】 福浦【講義】 福浦【講義】 福浦【講義】 福浦・松島・前野・孫田【演習】 福浦・松島・前野・孫田【演習】 濱川【講義】 福浦・松島【演習】 福浦【講義】 福浦・松島【演習】 福浦・松島【演習】 福浦【講義】	第 1 回～第 11 回 毎回の授業に関してワークブックを整理し、課題に関し考えを記載する。2つの事例について自己学習する。 第 12 回～第 14 回は、カンファレンスの実践後、カンファレンスの運営、結論（内容）について評価する。	各回 30 分	
テキスト	山本勝則、守村洋：精神看護技術第 3 版，メヂカルフレンド社，2023				
参考書	ヒルデガート・E・ペプロウ他著：人間関係の看護論，医学書院，1973 長谷川雅美編著：自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード第 2 版，日総研，2018 川島みどり・杉野元子著：看護カンファレンス第 3 版，医学書院，2019				
成績評価					
方法（割合）	基準				
実技試験（40％） 筆記試験（60％）	実技：患者との対話と、その場面をプロセスレコードで再構成したものを評価する。 対人関係、看護理論、カンファレンスについて問題から出題する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		実技試験・プロセスレコードに関しては、第 15 回でフィードバックする。			

科目名 ナンバリングコード	回復期援助技術 NUS2237MN3	必修科目	2 年次 2 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 孫田 千恵				
科目担当者	医学部看護学科 草場 知子、姫野 深雪、松野 史、池上 明由美、山下 寛子、森永 朗子、専任教員 1 名 大学病院リハビリテーション部 加藤 美津子、木村 太郎、鳥取 博 大学病院看護部 中村 信也				
教員の実務経験	本科目は、急性期・回復期・慢性期病棟で看護師として実務経験のある専任教員と、リハビリテーション部所属の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護部所属の呼吸療法認定士が、実務経験で得た知識・技術を職種の専門性を活かして教授する。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 回復期の概念を理解し、疾病や障害をもった人が社会生活に再適応できるための看護師の役割や、回復期を支えるリハビリテーション看護、社会システム、社会資源について学ぶ。 2) 回復期における対象の健康状態を理解し、QOL の再構築に必要な看護を考え、回復に向けた看護実践を学修する。 到達目標 1) 健康問題の治療過程と障害がもたらす身体的・精神的な影響について述べることができる。 2) 回復期におけるリハビリテーション看護の役割について説明できる。 3) 回復期の看護を展開するための概念（障害受容、セルフケア、ICF、ADL）について説明できる。 4) 回復期を支える看護の方法について理解し、事例を通して必要な看護援助が記述できる。 5) リハビリテーションの基本的な知識を基に、回復期を支える援助技術が実践できる。 6) がんや治療に伴って生じる健康問題と看護援助について説明できる。 7) 回復期に関連する法制度、リハビリテーション看護における倫理的課題について説明できる。 8) 地域連携における看護師の役割および多職種との連携について述べることができる。				
授業概要	健康障害のある人の回復過程や回復期におけるリハビリテーション看護を展開するために必要な概念を学び、代表的な疾患の事例を通して回復期を支える看護について理解を深める。また、講義や演習を通してリハビリテーションの基本的な知識と援助技術を修得する。看護演習では事例を設定し、生活の再構築を目指した看護計画を展開する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回	健康障害の治療過程と回復期における看護 回復期の看護を展開するための概念 回復期を支えるリハビリテーション看護の方法 運動機能障害のある人への回復期看護 理学療法の実際：関節可動域運動、筋力増強訓練	孫田【講義】 孫田【講義】 孫田【講義】 孫田【講義】 加藤・草場・山下・松野・池上・孫田【演習】	テキストの該当箇所を熟読し、それぞれの授業内容をイメージできるように予習する。	各回 30～60分 程度	
第 6 回 第 7 回	脳血管障害患者による運動機能障害への看護 作業療法の実際：補助具・自助具・義肢・装具	孫田【講義】 木村・草場・山下・松野・池上・孫田【演習】			
第 8 回 第 9 回	高次脳機能障害をもつ対象者への看護 言語聴覚療法の実際：直接訓練・関節訓練	孫田【講義】 鳥取・草場・森永・池上・孫田【演習】			
第 10 回 第 11 回	呼吸機能障害のある人への回復期看護 呼吸理学療法の実際：吸気・呼気介助、肋間ストレッチ	中村【講義】 中村・森永・池上・松野・孫田【演習】			
第 12 回 第 13 回	がんや治療に伴う機能喪失・障害に対する看護 回復期を支える看護演習 ①（グループワーク）	姫野・松野【講義】 姫野・松野・池上・孫田【演習】			
第 14 回	回復期を支える看護演習 ②（発表・まとめ）	姫野・松野・池上・孫田【演習】			
第 15 回	回復期に関連する法制度、地域連携における看護師の役割および多職種との連携、倫理的課題	孫田【講義】			

テキスト	原三紀子：系統看護学講座－別巻リハビリテーション看護 第7版、医学書院、2023	
参考書	酒井郁子・金城利雄 編集：リハビリテーション看護、南江堂、2021 奥宮暁子 編集：ナースング・グラフィカ成人看護学⑤リハビリテーション看護、メディカ出版、2022 辻哲也 編集：がんのリハビリテーションマニュアル 周術期から緩和ケアまで、第2版、医学書院、2021	
成績評価		
方法（割合）	基準	
筆記試験（70％）	到達目標 1)2)3)6)7)8) は、筆記試験にて達成度を正答率で評価する。	
レポート（20％）	到達目標 4) は、課題レポートの内容を点数化し評価する。	
受講態度（10％）	到達目標 5) は、演習への取り組み（振り返りシート）の内容を点数化し評価する。	
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題レポートの返却・フィードバックは講義の中で適宜行います。	

科目名 ナンバリングコード	看護過程Ⅰ NUS1136MN3	必修科目	2 年次 2 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 前野 里子				
科目担当者	医学部看護学科 加悦 美恵、恒松 佳代子、三次 貴大、山田 泰子、谷口 慎一				
教員の実務経験	本科目を担当する教員は、大学病院や一般総合病院で看護師として実務経験があり、看護過程を展開するための知識を教授し、紙上事例を用いて演習指導する。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の③人々を生活者として全人的に捉える姿勢を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 健康上の問題や障害をもつ人の看護の必要性をアセスメントし、看護過程を展開するための概念と思考プロセスの基本を学ぶ。 到達目標 1) 看護過程の意義と目的について説明できる。 2) 看護過程の構成要素を説明できる。 3) アセスメントの意義について説明できる。 4) 既習の知識を活用し、情報を整理・アセスメントできる。 5) 看護問題を特定し、優先順位を決定できる。 6) 看護問題に対して看護目標と看護計画を立案できる。 7) 看護過程の評価の視点について説明できる。				
授業概要	学習内容の説明を受けて、個人およびグループで紙上事例に取り組む。グループで意見交換を行い、協同的な学習を通して理解を深める。学習した内容を臨地実習で活用し、学習の進展を図る。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回	看護過程の意義・目的、構成要素、アセスメントの枠組み	前野・全員【講義・演習】	(全体を通して)事前にテキストの該当箇所を読み予習して受講する。	30 分	
第 2 回	看護に必要な情報収集	前野・全員【講義・演習】		60 分	
第 3 回	アセスメント (情報の解釈、推理・推論)	前野・全員【講義・演習】		60 分	
第 4 回	問題の統合 (関連図および全体像)	前野・全員【講義・演習】		60 分	
第 5 回	看護問題の抽出、看護診断、優先順位	前野・全員【講義・演習】	講義・演習内容に関する課題に取り組む。	60 分	
第 6 回	看護計画の立案	前野・全員【講義・演習】		60 分	
第 7 回	看護計画の実施と記録、計画の評価・修正、看護記録の法的規定	前野・全員【講義・演習】		60 分	
第 8 回	看護過程まとめ	前野・全員【講義・演習】	課題は講義内容・配布資料、テキストを活用して取り組む。	60 分	
テキスト	深井喜代子編：新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ、メヂカルフレンド社 (1 年次購入分) 上野栄一・西田直子編集：看護診断の看護過程ガイド、中央法規、2022				
参考書	江川隆子編集：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断、ヌーヴェルヒロカワ、2019				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (50%) レポート (50%)	達成目標の到達度を正答率で評価する。 個人で作成した看護過程展開のレポート提出状況、内容について評価する。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック		レポートは添削後返却する。			

科目名 ナンバリングコード	地域・在宅生活支援論 NUS2141MN3	必修科目	2 年次 1 学期	講義	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 渡邊 理恵				
科目責任者	医学部看護学科 山下 寛子 森永 朗子				
教員の実務経験	総合病院にて 5 年勤務、訪問看護ステーションにて（高齢者・小児）17 年勤務 病院での急性期の治療に伴う看護の経験と地域・在宅看護の経験を関連付けながら、講義を展開している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の③人々を生活者として全人的な捉える姿勢を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 療養者の在宅生活を支える社会制度を知り、地域における看護師の役割を理解する。 2) 療養者の在宅生活を支えるための多職種の連携・協働における看護師の役割を理解する。 到達目標 1) あらゆる年代の在宅療養者（児）の在宅生活を支える法律・制度について説明できる。 2) 在宅療養者（児）を支える多職種のそれぞれの役割について説明できる。 3) 在宅療養者（児）の在宅生活を支える多職種との連携方法について説明できる。				
授業概要	地域で暮らすあらゆる年代・あらゆる健康段階にある人々の生活を支える制度について理解し、さらに制度を活用した支援のあり方及び多職種連携のあり方について協同学習を通して理解を深める。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回	地域・在宅療養を支える訪問看護の役割 -協同学習-	渡邊【講義】	【予習】 提示された講義内容のテキストの範囲を読んで質問したい内容を明確にして講義に臨む。 【復習】 テキストと講義資料と自分のノートを振り返り理解を深める。 さらに疑問などがあれば、次回の講義か直接教員に質問して明確にする。	毎回 復習・予習に 約 30 分	
第 2 回	在宅療養者と家族の支援 -協同学習-	山下【講義】			
第 3 回	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護	渡邊【講義】			
第 4 回	地域療養を支える制度 ① -協同学習- (高齢者・障害者（児）に対する法律・制度)	渡邊【講義】			
第 5 回	地域療養を支える制度 ② -協同学習- (社会資源の活用・医療保険制度・介護保険制度)	森永【講義】			
第 6 回	介護保険制度におけるケアマネジメントと退院移行支援	森永【講義】			
第 7 回	在宅における小児・障害児の現状と社会資源	山下【講義】			
第 8 回	多様な法律制度の枠組みを超えた多職種・多機関連携 -グループディスカッション-	渡邊【講義】			
テキスト	・臺 有桂 他 編 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①②（2024 年版） 購入済み				
参考書	①日本在宅ケア学会 在宅ケア学第 1 巻～第 6 巻 株式会社ワールドプランニング 2015 年 ②ユーキャン 介護保険研究会 介護保険利用マニュアル ユーキャン学び出版 第 6 版 2021 年				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（80％） 受講態度（20％）	筆記試験：到達目標 1） 2） 3） の達成度を正答率で評価する。 意欲・関心：到達目標 1） ～ 3） について各講義内容の中から自分が特に関心を持った内容を引用し具体的に感想・質問及び自分の考えが記述されているか毎回 0 ～ 2 点で評価する。				
課題（レポート等） に対するフィードバック		次回の講義の中で解説する。			

科目名 ナンバリングコード	生涯発達看護概論 NUS2126MN3	必修科目	2 年次 1 学期	講義・演習	3 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 益守 かづき				
科目担当者	医学部看護学科 崎浜 智子、古村 美津代				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験（子ども・成人・高齢者を対象とした病院勤務）を有する教員が担当し、それぞれの実務経験で得た知識と技術を教えている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 看護の対象である人間を発達の視点でとらえ、人間発達の共通性と特異性を理解する。本科目ではいわゆる正常な発達を理解した上で、発達過程で支援・援助を必要とする対象者を知り、小児・成人・老年看護援助を思考するための基礎的知識を学ぶ。 到達目標 1) 人間の発達に関する考え方を説明できる。 1 回目 2) ライフサイクルにおける小児期・成人期・老年期の特徴を説明できる。2 回目 8 回目 15 回目 3) 発達段階別（小児期・成人期・老年期）に発達の身体的精神的社会的特徴を説明できる。 3 回目 9 回目 16 回目 17 回目 18 回目 4) 発達段階別の健康や生活の特徴を説明できる。4 回目 10 回目 11 回目 19 回目 20 回目 5) 発達段階別の健康問題の特徴を説明できる。5 回目 6 回目 19 回目 21 回目 6) 健康状態に合わせた支援の方法を説明できる。7 回目 12 回目 13 回目 14 回目				
授業概要	授業を通して、看護の対象者である人を発達段階別に特徴をとらえ、発達段階別の生活、健康、健康問題と支援の基本的考え方の理解を深める。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 （予習・ 復習等）	必要時間	
第 1 回	“発達” という視点から人間を捉えること	益守【講義】	復習:各授業の配布資料、教科書を基に復習	各30分	
第 2 回	ライフサイクルにおける小児期や生活の特徴	益守【講義】			
第 3 回	子どもの身体的心理社会的発達	益守【講義】			
第 4 回	子どもの健やかな成長発達（セルフケア獲得 / 向上）への支援	益守【講義】			
第 5 回	子どもの発達と健康問題	益守【講義】			
第 6 回	健康問題への子どもの向き合い方（病気や死の認識の変化）	益守【講義】			
第 7 回	健康問題を抱えた子どもの発達への支援：ヘルスプロモーション	益守【講義】			
第 8 回	成人期の特徴と現状	崎浜【講義】			
第 9 回	成人期にある人の健康	崎浜【講義】			
第 10 回	生活習慣と健康① グループワーク（GW） （食事・運動・睡眠・喫煙・飲酒など）	崎浜【演習 GW】			
第 11 回	生活習慣と健康② GW 発表	崎浜【演習 GW】	予習（9～11 回）:演習グループワークのための予習	各30分	
第 12 回	成人期にある人を看護するための基本的な考え方	崎浜【講義】			
第 13 回	健康状態に応じた看護①（健康の保持増進・疾病予防）	崎浜【講義】			
第 14 回	健康状態に応じた看護②（療養生活支援：急性期～終末期まで）	崎浜【講義】			
第 15 回	ライフサイクルと老年期	古村【講義】			
第 16 回	老年期の身体機能・構造の加齢変化①	古村【講義】			
第 17 回	老年期の身体機能・構造の加齢変化②	古村【講義】			
第 18 回	老年期の心理・精神機能の変化	古村【講義】			
第 19 回	高齢者模擬体験 A/Bに分かれてグループワーク（各 1 コマ）	古村【講義】			
第 20 回	老年期の健康と健康障害の特徴	古村【講義】			
第 21 回	老年期の死	古村【講義】			
第 22 回	人間の発達に関するまとめ（1）	益守・崎浜・古村【演習】			
第 23 回	人間の発達に関するまとめ（2）	益守・崎浜・古村【演習】			

テキスト	○舟島なをみ：看護のための人間発達学（第5版）、医学書院、2019（2年次購入） 第1回～ 第7回：中野綾美編集 ナーシング・グラフィカ小児の発達と看護 小児看護学① メディカ出版 2024（2年次購入） 第8回～第14回：林直子 編：成人看護学概論 改訂第4版 南江堂 2022 第15回～第21回：水谷信子ほか編 最新老年看護学 第3版 日本看護協会出版会 2020（2年次購入） 第22回、第23回：全てのテキスト	
参考書	講義の中で提示する。必要時、資料を配布する。	
成績評価		
方法（割合）	基準	
筆記試験（90%） 課 題（10%）	・到達目標 1）～ 6）において、達成度を筆記試験の正答率で評価する。 ・第 22 回 23 回で取り組む課題：発達という支援から乳幼児期から老年期までの過程を具体的に整理する。教科書や参考書・講義資料などを活用しながら、わかりやすく具体的にまとめられているかをポイント化して評価する。	
課題（レポート等）に対するフィードバック		筆記試験前に採点し、返却する。

科目名 ナンバリングコード	女性生涯看護概論 NUS2127MN3	必修科目	2 年次 1 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 田中 佳代				
科目担当者	医学部看護学科 加藤 陽子				
教員の実務経験	総合周産期母子医療センターでの助産師の実務経験を基盤とした授業を展開している。。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 女性の健康をリプロダクティブ・ヘルス / ライツの視点から捉え、生涯を通じた女性の健康支援として看護専門職者が果たす役割を考える力を身につけることができる。 到達目標 1) 生涯を通じた女性の健康からみた、現代女性のライフサイクルの特徴について説明できる。 2) 人間のセクシュアリティについて、身体的、心理的、社会文化的側面から理解を深め、セクシュアリティを尊重した看護について考えることができる。 3) リプロダクティブ・ヘルス / ライツの基本的な概念を説明できる。 4) リプロダクティブ・ヘルス / ライツをめぐる倫理的課題について説明できる。 5) 女性を取り巻く社会や環境との関連から、女性の生涯にわたるライフサイクルでの課題を理解し、支援のあり方を考察できる。				
授業概要	女性の健康をリプロダクティブ・ヘルス / ライツの視点から捉え、支援が行えるには、男性を含めた社会全体の問題として位置づけ、考えていくことが求められる。そのため講義では教科書だけでなく、新聞等のメディアにある最新の情報等も活用し、この分野における社会の状況に対する理解を深めていく。毎回の授業後にリアクションペーパーに意見・疑問点を記述してもらい、次の授業後に問題提起となる重要なものを取り上げて、追加で説明を加え、学生の皆さんとの双方向性のある授業を行っていく。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	女性のライフサイクルと健康	田中【講義】	◇各回の講義内容を、配布資料やテキストでふり返りをしましょう。 ◇講義内容よりセクシュアリティ、ジェンダー、リプロダクティブヘルス / ライツに関連する健康・社会問題について興味・関心を持ち、講義資料だけでなく、報道や書籍等を読み思考を深めて下さい ◇講義前にはテキストの該当箇所に目を通しておきましょう。 ◇第 7 回 討論に向けたレポートの作成	各回 30 分 程度	
第 2 回	ヒューマンセクシュアリティ	田中【講義】			
第 3 回	ジェンダーを考える	田中【講義】			
第 4 回	リプロダクティブ・ヘルス / ライツの概念	田中【講義】			
第 5 回	リプロダクティブ・ヘルス / ライツをめぐる倫理的課題	田中【講義】			
第 6 回	女性の健康と暴力	加藤【講義】			
第 7 回	女性の生涯にわたるライフサイクルでの課題	田中【講義】			
第 8 回	女性の生涯にわたるライフサイクルでの課題と支援－討論	田中【演習・講義】			
テキスト	森恵美：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔1〕母性看護学概論 第 14 版 医学書院 2021 年				
参考書	財団法人 厚生統計協会編:厚生指標増刊 国民衛生の動向 2024/2025 母子衛生研究会編:母子保健の主たる統計 令和 7 年刊行				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（80％） レポート（20％）	到達目標 1) 2) 3) 4) の達成度を正答率で評価する。 到達目標 5) について、既習の講義内容を参考に、女性の生涯にわたるライフサイクルでの課題と支援について考察し、自分の意見を論理的にまとめられているかポイント化し、評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		レポートに対する総括を授業中に行い、個々に採点后に返却する。			

科目名 ナンバリングコード	ウィメンズヘルス論 NUS2147MN3	必修科目	2 年次 2 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 加藤 陽子				
科目担当者	医学部看護学科 田中 佳代、永田 真理子、岡村 光子、竹藤 徳子、松本 くらら				
教員の実務経験	総合周産期母子医療センターでの助産師の実務経験を基盤とした授業をしている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 ウィメンズヘルスの観点から、女性のライフステージにおける健康問題について理解し、女性と周囲の人々に対する看護支援の在り方を検討できる。 到達目標 1) ウィメンズヘルスの基本理念について説明できる。 2) 女性のライフステージにおける心身の変化と健康問題、それを取り巻く人々や社会との関連や影響について説明できる。 3) 性差医療の変遷と女性医療のあり方について説明できる。 4) グループ学習をとおして、日本のウィメンズヘルスの現状を探索し、今後の課題について考え、説明できる。				
授業概要	女性のライフステージにおける健康と健康問題には、女性特有のホルモンや身体的要因だけでなく、女性を取り巻く周囲の人々や社会との関連・影響が大きいことを学ぶことで、どのような看護支援が求められるのか検討していく。最終的に、既習の講義をふまえてウィメンズヘルスの現状をグループで探求し、今後の課題について考え、プレゼンテーションできることで、より理解を深めていく。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	ウィメンズヘルスの基本理念と背景	加藤【講義】	ウィメンズヘルスを取り巻く背景の復習	30 分	
第 2 回	ウィメンズヘルスにおける対象理解と看護	加藤【講義】	講義資料の確認と復習	30 分	
第 3 回	思春期の健康（身体的・心理社会的特徴）	加藤・竹藤【講義】	第 3 回講義に関する作問、解答、解説の作成（レポート）	60 分	
第 4 回	思春期の健康（ヘルスプロモーション）	加藤【講義】	月経時のセルフケア、性感染症予防、避妊方法、HPV ワクチンに関する復習	30 分	
第 5 回	思春期の健康（健康問題と看護）	加藤【講義】	思春期の健康問題に関する復習	30 分	
第 6 回	性成熟期の健康（身体的・心理社会的特徴）	加藤・松本【講義】	第 6 回講義に関する作問、解答、解説の作成（レポート）	60 分	
第 7 回	性成熟期の健康（ヘルスプロモーション）	加藤【講義】	女性特有の疾患、好発年齢におけるヘルスプロモーションの復習	30 分	
第 8 回	性成熟期の健康（健康問題と看護）	加藤【講義】	性成熟期の健康問題に関する復習	30 分	
第 9 回	更年期・老年期の健康（身体的・心理社会的特徴）	加藤・岡村【講義】	更年期・老年期の身体的・心理社会的特徴に関する復習	30 分	
第 10 回	更年期・老年期の健康（ヘルスプロモーション・健康問題と看護）	加藤【講義】	更年期・老年期の健康問題に関する復習	30 分	
第 11・12 回	各ライフステージへのアプローチ [グループワーク、プレゼンテーション]	担当者全員【演習】	各グループのプレゼンテーションの自己評価・他者評価（レポート）	60 分	
第 13 回	異なる文化的背景を持つ女性への看護 性差医療の変遷と女性医療の在り方	加藤【講義】	講義資料の確認と復習	30 分	
第 14・15 回	日本のウィメンズヘルスの現状と課題 [プレゼンテーション]	担当者全員【演習】	各グループのプレゼンテーションの自己評価・他者評価（レポート）	60 分	
テキスト	森恵美：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔1〕母性看護学概論 第 14 版 医学書院 2021 年（女性生涯看護概論の使用テキスト）				
参考書	一般財団法人厚生労働統計協会編：厚生指針増刊 国民衛生の動向 2024/2025 母子衛生研究会編：母子保健の主たる統計 令和 7 年刊行				

成績評価	
方法（割合）	基準
筆記試験（70％） レポート（20％） ・第3.6.11.14回が対象 受講態度（10％） ・第11.12.14.15回が対象	到達目標1)3)は知識・理解・思考の達成度を筆記試験の正答率で評価する。 到達目標2)の達成度は筆記試験、レポート及び受講態度で評価する。 ・筆記試験は、知識・理解・思考を問う問題の正答率で達成度を評価する。 ・レポートは学習内容をもとに、自己の判断・思考を踏まえた記述で達成度を評価する。 ・受講態度は、グループワーク及びプレゼンテーションでの主体的な取り組み状況の達成度を評価する。 到達目標4)の達成度はレポート及び受講態度で評価する。 ・レポートは学習内容をもとに、自己の判断・思考を踏まえた記述で達成度を評価する。 ・受講態度は、グループワーク及びプレゼンテーションでの主体的な取り組み状況の達成度を評価する。
課題（レポート等）に対するフィードバック	第3.6.11.12回レポートのフィードバックは次の講義時に行う。 第13.14回レポートのフィードバックは、講義時間内に行う。

科目名 ナンバリングコード	小児生活支援論 NUS2146MN3	必修科目	2 年次 2 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 益守 かづき				
科目担当者	医学部看護学科 藤好 貴子、水落 裕美				
教員の実務経験	この科目は専門分野における子ども専門病院で看護師としての実務経験を有する教員が担当し、実務経験で得た知識・技術を教えている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 子どもと家族の健やかな生活、子どもの健康増進を支援する看護を学び、子どもの権利を擁護する小児看護の考え方を修得する。 2) 子どもの健康問題や子どもや家族を取り巻く社会や医療の現状を捉え、小児看護の課題についての理解を深める。 到達目標 1) 子どもや家族を取り巻く社会的状況の歴史的背景を基盤に、小児看護の理念と役割について説明できる。 2) 子どもの権利を擁護する小児看護の考え方を説明できる。 3) 子どもや家族の生活の発達段階別の特徴を説明できる。 4) 発達段階別に子どもの健康増進を支援する看護について説明できる。 5) 子どもや家族を取り巻く社会や医療の現状、小児看護の課題を説明できる。 6) 子どもや家族の生活を支援する関連法規を説明できる。				
授業概要	授業を通して、子どもを権利の主体者として捉え、子どもや家族の権利を擁護することについての理解を深める。また、授業と課題を通して、子どもと家族の健やかな生活、子どもや家族を取り巻く社会の現状や課題についての理解を深める。そして、子どもの健康増進を支援する看護の基礎的知識や技術を学ぶ。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	小児看護の歴史と小児看護の理念と役割 小児看護におけるヘルスアセスメント 乳児期の子どもと家族の生活 幼児期の子どもと家族の生活 「赤ちゃん先生」事前準備 子どもの栄養・食 子どもの事故と救急処置 8-A 赤ちゃん先生 A グループ 8-B 赤ちゃん先生 B グループ 赤ちゃん先生 学び発表会 乳幼児期の子どもの健康増進への支援 学校保健・予防接種 学童期思春期の子どもと家族の生活 学童期思春期の子どもの健康増進への支援 子どもや家族の生活を支援する関連法規 子どもの権利と看護	益守【講義】 水落【講義】 藤好【講義】 藤好【講義】 益守【講義】 水落【講義】 益守【講義】 益守・藤好・水落【演習】 益守・藤好・水落【演習】 藤好【講義】 水落【講義】 益守【講義】 益守【講義】 益守【講義】 益守【講義】	【予習】 各授業の前にその内容に関連する教科書を読む。 【復習】 各授業の配布資料、教科書を基に復習。授業内で提示した国家試験の振り返りを行う。	予習・復習 で 20 分程度。	
テキスト	中野綾美編集 ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学① メディカ出版 2025年 中野綾美編集 ナーシング・グラフィカ 小児看護技術 小児看護学② メディカ出版 2025年 中村友彦編集 ナーシング・グラフィカ 小児の疾患と看護 小児看護学③ メディカ出版 2025年				
参考書	講義の中で提示する。				

成績評価		
方法（割合）	基準	
筆記試験（50%） 課 題（50%）	・到達目標 1) ～ 6) においては、達成度を筆記試験の正答率で評価する。 ・到達目標 2)3)4)5 においては課題を提示し、子どもと家族の生活や健康問題の特徴を発達段階別に考察し、具体的な支援を提案できていること。 ＜課題①について＞ 乳児期 / 幼児期 / 学童期 / 思春期各期の子どもや家族についてのニュース過去 1 年間を検索し、子どもや家族に起こっていること（健康に関する事項）について考察する。 ・子どもや家族が体験していることを整理すること ・どうしてそのような体験をすることになったのかを分析的に論じること（分析時に過去に学習した発達理論や関連法規、統計などを参考にすること） ・子どもや家族が同様の出来事に直面しないような配慮や支援方法について論じていること（子どもや家族の権利を遵守する支援について考えること） ＜課題②について＞ 赤ちゃん先生（乳幼児期の子どもと母親）とのかかわりの中での学びより、乳幼児期の子どもの健康的な生活の質向上のための支援を考察し、発表する。	
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題は講義終了後採点し、返却する。	

科目名 ナンバリングコード	高齢者生活支援論 NUS2145MN3	必修科目	2 年次 2 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 古村 美津代				
科目担当者	医学部看護学科 草場 知子、新 裕紀子				
教員の実務経験	この科目は医療機関において看護師として老年看護の実務経験をもつ教員が担当し、実務経験に基づき講義・演習を行っている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の「看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力」の3「人々を生活者として全人的に捉える姿勢を備えている」ことを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 高齢者を取りまく社会の変化と高齢者の生活を理解し、高齢者とその家族が地域社会の中で健康に安心して暮らし続けるための看護について学ぶ。 到達目標 1) 高齢者を取りまく社会の変化と高齢者の生活について説明できる。 2) 高齢者の多角的・包括的アセスメントについて説明できる。 3) 高齢者の特性や生きてきた時代背景を理解し、高齢者とコミュニケーションをとることができる。 4) 高齢者の特性を理解し、老年看護について考察できる。 5) 高齢者のヘルスプロモーションについて説明できる。 6) 高齢者の暮らしを支える社会資源について説明できる。 7) 老年看護の倫理的課題について理解し、高齢者の権利を擁護する看護実践について考察できる。				
授業概要	少子高齢化の進展とともに高齢者の暮らしが多様化する中、高齢者とその家族が、地域社会の中で、健康に安心して暮らし続けられるように医療・保健・福祉・介護・権利擁護に関する制度や老年看護の役割について学ぶ。また、本授業では、地域高齢者との交流を通して高齢者の生きてきた時代や生き方、価値観を理解し、看護職者に求められる看護について学ぶ。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要 時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	高齢者を取りまく社会と高齢者の生活 高齢者の生きてきた時代背景と老年看護 高齢者の多角的・包括的健康アセスメント 高齢者とのコミュニケーション 高齢者の理解「地域高齢者との交流」 高齢者看護に関わる諸理論 高齢者を支える制度 医療保険制度 公的年金制度等 高齢者の暮らしを支えるヘルスケアシステム (介護保険) 地域包括ケアシステムとヘルスプロモーション 認知症施策の動向と予防 地域共生社会と高齢者の災害支援 高齢者の倫理的課題 (高齢者虐待・身体拘束) 高齢者ケアの倫理的課題と支援 (GW・発表) 高齢者のリスクマネジメント 高齢者看護におけるチームアプローチ・まとめ	古村【講義】 古村【講義】 新 【講義】 古村【講義】 全員【講義・演習】 新 【講義】 古村【講義】 草場【講義】 草場【講義】 古村【講義】 新 【講義】 古村【講義】 全員【演習】 草場【講義】 古村【講義】	第1回事前課題「老年観」 第2回課題「生きてきた時代背景」 レポート提出① 第3回高齢者のアセスメント 第4回高齢者の感覚機能の特徴 第5回課題「高齢者の理解と老年看護」レポート提出② 第6回看護理論について 第7・8・9回 地域包括ケアシステムの仕組み 第10回認知症の施策について 第11回高齢者の災害支援 第12・13回「高齢者の倫理的課題と対応」レポート提出③ 第14回リスクマネジメント 第15回チームアプローチ	予習 30分 復習 30分	
テキスト	水谷信子・水野敏子・高山成子ほか著：最新 老年看護学 第4版 2024 年版 日本看護協会出版会				
参考書	講義・資料等の中で提示する。				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
試験 (70%) レポート課題 (30%)	筆記試験：1)2)5)6)7) の達成度を筆記試験の正答率で評価する。(マークシート形式及び記述) レポート：3)4)7) はレポート作成を課題とし、テーマに沿って具体的に記述できているかについて評価する。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック		レポートの課題については採点后に返却、内容についてフィードバックする。			

科目名 ナンバリングコード	急性期看護論 NUS2243MN3	必修科目	2 年次 2 学期	講義・演習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 崎浜 智子				
科目担当者	医学部看護学科 孫田 千恵、石橋 秋奈、池上 明由美、専任教員 久留米大学病院臨床教員 真子 敬史、中小原 涼子				
教員の実務経験	急性期看護領域での看護師の実務経験を基盤とした授業・演習を展開している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 成人および高齢者の急変および急性増悪、周術期にある人および家族の特徴を理解し、生命維持、身体的リスクの低減と症状緩和、安全と安楽の保持等の回復に向けた看護実践を学ぶ。 到達目標 1) 急性期の健康レベルにおける病態や、心理・社会的特徴、および疾患や治療に応じた観察項目を理解し、優先順位を踏まえて、看護と根拠を説明できる。 2) 生命の危機状態を呈する成人および高齢者を対象として、病態および付随問題、倫理的課題を説明できる。 3) 成人および高齢者の周手術期の身体侵襲と生体反応を理解し、回復過程や退院に向けた援助を説明できる 4) 手術や治療、検査・処置を受ける人の必要性に応じて、理解と意思決定を支える看護を説明できる。 5) 心肺停止状態の負傷者をアセスメントし、CPR・AEDが実践できる。 6) クリティカル領域における職業感染予防策が実践できる。 7) 全身麻酔で手術を受けた紙上事例の術後1日目の看護援助を計画し、模擬実践できる。 8) チームで協力しながら、主体的に課題に取り組むことができる。				
授業概要	急激な健康状態の変化に伴う生体反応に関する既習の知識を基盤に、生命の危機状態にある対象（（成人・老年期））と家族を全人的に理解するため、各回予習・復習をして臨み、配布するエクササイズ（ワークシート）などを活用して、急性期看護に必要な客観的思考を主体的に学ぶよう努力すること。 手術が必要な健康障害が日常生活に及ぼす影響や、周手術期（術前、術中、術後）の特徴を理解したうえで、継続看護や多職種連携の視点も含め急性期看護の展開方法について演習を行う。演習は協働学習の手法を用いて、学生同士で看護者役、患者役、観察者の役割をグループで行いながら進める。互いの学びを共有する意義や、グループ学習をスムーズに進行するためのリーダー・メンバーシップを発揮し、チームで協力しながら、主体的に課題に取り組むことを期待する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要 時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7・8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回	<救急看護編> ガイダンス，我が国の救急医療体制 急性期の成人の身体・心理・社会的特徴 救急看護の実際①フライトナースの看護実践 心肺停止状態にある人のアセスメントと援助技術 急性期看護領域における感染予防・管理 救急看護の実際②ショック状態にある患者の看護 (心筋梗塞事例) 【演習】CPR・AED など 救急看護の実際④熱傷患者への援助と皮膚創傷ケア 救急医療体制と急性期看護に付随する倫理的問題 救急看護の実際③意識障害にある患者の看護 (くも膜下出血事例)	崎浜 【講義】 崎浜 【講義】 真子 【講義】 真子 【講義・デモスト】 崎浜 【講義】 孫田 【講義】 石橋・孫田・池上・崎浜【演習】 崎浜 【講義】 崎浜 【講義】 中小原【講義】	□各回の予習: テキストの 該当箇所の 熟読。 配布資料の 復習と、エク ササイズの 課題を課す	予習 各回 30～ 60分 程度 復習 各回 30分 程度	
第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回 第 16 回	<周手術期看護編> 周手術期看護概論 周手術期看護①：手術前の援助を組み立てる 周手術期看護②：手術中の援助を組み立てる 周手術期看護③：手術侵襲の影響を知る 周手術期のエビデンスに基づく感染予防・管理	崎浜 【講義】 崎浜 【講義】 石橋 【講義】 石橋 【講義】 崎浜 【講義】			

第17回 第18・19回 第20・21回 第22回 第23回	周手術期看護④：術後の援助を組み立てる 周手術期看護⑤：胃切除術を受ける人の看護 【演習】順調な回復の為の援助技術（術後1日目）： 呼吸・循環管理、深部静脈血栓予防、早期離床と転倒 予防、呼吸訓練など 手術後の継続看護・多職種間連携 総括	崎浜【講義】 孫田【講義・グループワーク】 孫田・池上・石橋・崎浜【演習】 崎浜【講義】 崎浜【講義】	□【17・18回】 事前課題 (GW):早期離 床の援助計 画立案提出	予習 各回 30～ 60分 程度 復習 各回 30分 程度
テキスト	1) 林直子、佐藤まゆみ（編）：急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 南江堂 改定第2版 2023年 2) 佐藤まゆみ、林直子（編）：急性期看護Ⅱ 救急看護 南江堂 改訂第2版 2023年 3) 中島恵美子、伊藤有美（監修）：これならわかる！術前・術後看護ケア ナツメ社 2019年			
参考書	1) 系統看護学講座成人看護学2 呼吸器 医学書院 2022年 2) 系統看護学講座成人看護学5 消化器 医学書院 2024年 3) 系統看護学講座成人看護学7 脳・神経 医学書院 2024年 4) 系統看護学講座成人看護学3 循環器 医学書院 2024年 5) 系統看護学講座成人看護学11 アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 2020年 6) 救急蘇生法の指針2022 医療従事者用、へるす出版社 2022年			
成績評価				
方法（割合）	基準			
筆記試験（70%） レポート（20%） 態 度（10%）	到達目標の達成度を、試験問題の正答率で評価する。 到達目標の達成度を、レポート（講義のエクササイズ課題、演習前・後レポート）の記載内容で評価する。 講義・演習などへの主体的学習態度を評価する。			
課題（レポート等）に対するフィードバック		レポートは講義・演習でフィードバックする。		

科目名 ナンバリングコード	慢性期・回復期看護論 NUS2244MN3	必修科目	2 年次 2 学期	講義・演習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 桐明 あゆみ				
科目担当者	医学部看護学科 草場 知子、河原田 康貴、姫野 深雪、孫田 千恵、池上 明由美、石橋 秋奈、松野 史				
教員の実務経験	本科目は慢性期病棟で 10 年実務経験を有する教員が担当し、臨床経験から得た知識、技術を教えている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 慢性疾患を有する成人期にある対象が、疾患および検査・治療により受けている影響を身体・心理・社会的側面から深く理解し、セルフマネジメントを支える看護について学ぶ。 到達目標 1) 慢性疾患の特徴と治療・療養環境の変化について説明できる。 2) 治療・療養行動にかかわる主要な概念・理論を説明できる。 3) 慢性疾患を有する人と家族を支える社会資源を説明できる。 4) 慢性疾患の病態生理をふまえ、その影響を身体・心理・社会的側面からアセスメントできる。 5) 慢性疾患を有する人の回復とセルフマネジメントを促進する看護を説明できる。 6) 慢性疾患を有する人の回復とセルフマネジメントを促す看護技術を手順に沿って実施できる。 7) 慢性疾患を有する人と家族の療養生活を支える保健・医療・福祉の連携の必要性を述べることができる。				
授業概要	治療・療養行動にかかわる概念・理論を学び、慢性疾患を有する人と家族を捉える長期的な視点を身に付けます。また、人体の機能別に代表的な慢性疾患を取り上げ、身体・心理・社会面への影響を学びます。さらに、疾病の経過に応じた回復とセルフマネジメントを促す看護について学びます。セルフマネジメントを促す看護技術についての演習では、グループワークを通して主体的に対象のセルフマネジメントを促す看護技術を習得します。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3・4 回 第 5・6 回 第 7・8 回 第 9・10 回 第 11・12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回 第 16・17 回 第 18 回 第 19 回 第 20・21 回 第 22 回 第 23 回	慢性疾患の特徴と経過、治療療養環境について 慢性疾患を有する人の治療・療養行動にかかわる主要な概念・理論 消化器系の障害を有する人と家族への看護（消化器疾患・肝疾患） 循環器系の障害を有する人と家族への看護（心不全） 腎・泌尿器系の障害を有する人と家族への看護（CKD と透析療法） 代謝・内分泌系の障害を有する人と家族への看護（糖尿病） 糖尿病患者のセルフマネジメントを促す援助技術（食事療法と血糖測定） 免疫系の障害を有する人と家族への看護（関節リウマチ） 呼吸器系の障害を有する人と家族への看護（慢性呼吸不全） 慢性呼吸不全患者の呼吸管理に関する看護技術（酸素療法） 呼吸機能改善のための援助技術（酸素吸入・在宅酸素療法・非侵襲的陽圧換気） 脳・神経系の障害を有する人と家族への看護（ALS） がん看護の基本 化学療法・放射線療法を受ける人と家族への看護 特別講義 がん治療中の患者と家族の心のケア ー希望を支える看護についてー 慢性期にある人の療養生活を支える看護 ー保健・医療・福祉の連携、家族の支援ー	桐明【講義】 桐明【講義】 桐明【講義】 河原田【講義】 河原田【講義】 河原田【講義】 担当者全員【演習】 草場【講義】 桐明【講義】 松野【講義】 担当者全員【演習】 桐明【講義】 桐明【講義】 姫野【講義】 特別講義講師【講義】 桐明【講義】	各回の予習については、①テキストの該当箇所の熟読と、②事前配布プリントにて課題を課す。 各回の復習については、配布資料の復習と、課題レポートを課す。	予習、復習については、各回 30 分～1 時間程度。	
テキスト	鈴木久美 旗持知恵子 佐藤直美：成人看護学 慢性期看護 改訂第 4 版 南江堂 2023 野崎真奈美ほか：成人看護技術 改訂 第 3 版 南江堂 2023 糖尿病食事療法のための食品交換表 日本糖尿病学会編第 7 版、文光堂 2013				
参考書	系統看護学講座成人看護学 [2] 呼吸器、系統看護学講座成人看護学 [3] 循環器、系統看護学講座成人看護学 [5] 消化器、系統看護学講座成人看護学 [6] 内分泌・代謝、系統看護学講座成人看護学 [8] 腎・泌尿器 以上全て 16 版、医学書院 2024 ナーシンググラフィカ成人看護学③ セルフマネジメント 第 4 版 2022				

成績評価	
方法（割合）	基準
筆記試験（85%） レポート（10%） 技 術（ 5%）	到達目標 1) 2) 3) 4) 5) 7) の達成度を、試験問題に対する正答率で評価する。 到達目標 5) 課題レポートで、アセスメントと看護の妥当性を評価する。 到達目標 6) 対象の特性に応じた正確な看護技術の実施を、チェックリストを用いて到達度を評価する。
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題（レポート）は、正答を示すと共に採点后、返却する。

科目名 ナンバリングコード	公衆衛生健康支援論 PHN2112MN3	必修科目	2 年次 2 学期	講義・演習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 徳澤 麻梨子				
科目責任者	医学部看護学科 小畠 一将				
教員の実務経験	学校保健の実務経験を活かして、対人支援に関する知識や技術に関する講義および演習を行う。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) ライフステージ（母子・成人・高齢者）における健康課題の特性に応じた公衆衛生看護活動を理解する。 2) 対象の特性をふまえた個別支援を展開するために必要な基本的知識と技術を理解する。 到達目標 1) ライフステージ特有の健康課題とその背景にある生活や環境、健康の社会的決定要因について説明できる。 2) ライフステージや健康レベルに応じて展開される公衆衛生看護活動の法的根拠と施策について説明できる。 3) 公衆衛生看護に活用される基本的な保健行動理論・モデルを説明できる。 4) 公衆衛生看護における支援技術の特徴を理解し、対人支援の目的と展開について説明できる。 5) 個人・家族の健康と生活および社会とを関連づけてアセスメントし、対象の特性をふまえた支援計画を立案することができる。				
授業概要	講義内で取り組む事例展開やグループワーク・発表を通して、主体的に学修できるようにする。講義の準備（予習・復習・課題）の詳細は、講義にて提示する。毎回、講義の理解度を自己評価し、自らの考えや質問を記載して提出する。講義のはじめに、前回の講義の感想や質問を取り上げコメントし、フィードバックを行う。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	母子（親子）保健活動：母子（親子）保健施策	徳澤【講義】	母子保健法、健やか親子21（第2次）	60 分	
第 2 回	母子（親子）保健活動：健康課題と支援	徳澤【講義】	育児不安・孤立、産後うつ、児童虐待	60 分	
第 3 回	成人保健活動：成人保健施策、健康課題と支援	徳澤【講義】	健康増進法、健康日本 21（第3次）、健康寿命、生活習慣病の予防、	60 分	
第 4 回	高齢者保健活動：高齢者保健施策、健康課題と支援	徳澤【講義】	介護保険法、地域包括ケア、一体的事業	60 分	
第 5 回	対人支援の基本①：公衆衛生看護における支援技術	徳澤【講義】	公衆衛生看護技術の特徴	90 分	
第 6 回	対人支援の基本②：保健行動理論	徳澤【講義】	保健行動、変化ステージ理論、HBM、ソーシャルサポート、ヘルスリテラシー	60 分	
第 7 回	対人支援の基本③：対人支援技術 [ロールプレイ]	徳澤【講義】	対象理解、対人支援過程、コーチング	60 分	
第 8・9 回	対人支援の展開①：新生児家庭訪問 [事例展開]	徳澤【講義】	家庭訪問の展開、レポート課題①	60 分	
第 10 回	対人支援の展開②：1 歳 6 か月児健康診査	徳澤【講義】	健康診査の展開、1 歳 6 か月児健診	90 分	
第 11・12 回	対人支援の展開③：特定保健指導 [事例展開]	徳澤【講義】	特定保健指導の展開、レポート課題②	60 分	
第 13 回	市町村における保健活動の実際	徳澤【演習】	居住自治体の保健事業の確認	60 分	
第 14 回	対人支援の実践：保健指導 [グループワーク・発表]	徳澤・小畠【演習】	家庭訪問または特定保健指導の実践	90 分	
第 15 回	対人支援の展開④：無関心層や孤立者への支援	徳澤【講義】	ナッジ、インセンティブ、環境づくり、PHR、アウトリーチ、居場所づくり	60 分	
テキスト	中村裕美子 他編 標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術 第 5 版 医学書院 2024 年 中谷芳美 他編 標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動 第 5 版 医学書院 2024 年				
参考書	医療情報学研究所 編集 公衆衛生がみえる 第 6 版（2024-2025）メディックメディア 2024 年				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（60%） レポート①（15%） レポート②（15%） 演習（10%）	到達目標 1) 2) 3) 4) の達成度を正答割合で評価する。 家庭訪問事例において、到達目標 4) 5) の達成度をループリックを活用して評価する。 特定保健指導事例において、到達目標 4) 5) の達成度をループリックを活用して評価する。 グループワークと演習において、到達目標 4) 5) の達成度と意欲をループリックを活用して評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		レポート①②は評価後に返却し、総評を行う。演習は総評を行う。			

科目名 ナンバリングコード	療養生活支援実習 NUS2429MN3	必修科目	2 年次 2 学期	実習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 加悦 美恵				
科目担当者	医学部看護学科 恒松 佳代子、前野 里子、三次 貴大、山田 泰子、谷口 慎一、その他実習指導者				
教員の実務経験	すべての担当教員が保健医療施設での臨床看護の実務経験を活用して実習指導を行っている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 患者・家族と意図的なコミュニケーションをはかり、信頼関係を築く。 2) 健康障害のある対象の生活状況、健康状態を理解する能力を身につける。 3) 対象の状態にあわせた生活支援を実践する一連の過程について学ぶ。 4) 自己の振り返り及び多様な人々との関わりを通して、看護職に求められる倫理的姿勢を身につける。 到達目標 1) 健康障害のある患者・家族と円滑に意図的なコミュニケーションをはかることができる。 2) 患者・家族のプライバシーに配慮した行動をとることができる。 3) 患者の生活背景、現病歴をもとに現在の生活状況、健康状態を説明できる。 4) 患者の状態に影響を与えている要因を分析して療養生活上の看護問題を特定できる。 5) 患者を主体にした目標を設定し具体的な援助計画を立案できる。 6) 計画に基づき、患者の安全、安楽に配慮して療養環境を整え、生活援助を実施できる。 7) 援助に対する患者の反応を観察・評価し、次の援助に活かすことができる。 8) 医療者と連携し、看護チームの一員として責任ある行動をとることができる。 9) 看護学生として必要な自己管理ができる。 10) 実習での学びと今後の課題を述べることができる。				
授業概要	本実習では、初めて患者を受け持ち、看護を実践する。これまで学習したすべての知識、技術、態度を活用するため、実習前に十分復習しておくことで安心して実習に臨むことができる。実習中は受け持ち患者の状態に応じ、常に学習、思考し、指導を受けながら学習目標の達成を目指す。看護学生としてふさわしい基本的な態度で、学生同士互いに向上できるよう取り組むことを求める。				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容	準備学習（予習・復習等）	必要時間		
実習期間： 2025年12月 8日(月)～ 12月19日(金) 2週間（90時間） 実習場所： ・久留米大学病院 ・久留米大学医療センター スケジュール： 1日目：病棟オリエンテーション 2・3日目：病棟実習 4日目：学内実習 5～9日目：病棟実習 10日目：実習まとめ	1) コミュニケーション技法を用いて患者と関わる。 2) 援助を行う際や会話時、電子カルテ閲覧時など、常にプライバシーに配慮し、個人情報の保護を行う。 3) ゴードンの「機能的健康パターン」に沿って受け持ち患者について情報収集・アセスメントを行う。 4) 受け持ち患者の健康状態、社会背景を含む生活状況を表す全体関連図を作成し看護問題を特定する。 5) 看護目標を挙げ、観察・ケア・教育プランを具体的かつ詳細に計画する。 6) 看護計画に基づいて毎日、行動計画を立案し、必要な援助を安全・安楽に実施する。バイタルサイン測定・環境整備は必ず行う。 7) 援助に対する患者の主観・客観的反応から評価し、次のケアにつなげる。 8) 実習指導者に計画を伝え、病棟スタッフに適宜、報告・連絡・相談し看護を実施する。 9) 実習前、実習中も看護実践に必要な知識・技術を学習して実習に臨む。 10) カンファレンスやまとめ、実習記録上で自分の考えを述べて学びを深め、自己の課題を見出す。	事前学習 1) 事前学習記録作成 2) 援助技術の練習 3) 関連科目の復習他 事前オリエンテーション 2回のオリエンテーションに必ず出席する。 実習中 1) 受け持ち患者の看護実践に必要な知識、技術の学習 2) データベース・アセスメント、全体関連図、看護問題、看護計画について指定された記録用紙に記載する。 3) 毎日の実施計画・実施後の評価を指定された記録用紙に記載する。 4) 受け持ち患者の看護のまとめを指定された記録用紙に記載する。 5) 指導内容に対し追加修正を行う。 6) 受け持ち患者に必要な看護技術を適宜、練習する。	90分 90分 90分 毎日 90分		

テキスト	なし
参考書	深井喜代子編：新体系看護学全書 基礎看護学②③ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ，メヂカルフレンド社、2021 上野栄一・西田直子編：看護診断の看護過程ガイド，中央法規，2022（いずれも購入済）
成績評価	
方法（割合）	基準
到達目標の達成度（100%）	実習場面および実習記録の記載内容からルーブリック評価表を用いて評価する。
課題（レポート等）に対するフィードバック	・実習記録物のうち、実習記録1～4は「関連図発表」「看護計画発表」のカンファレンスにおいて指導者よりコメントする。必要時個別の指導がある。実習記録5は日々フィードバックする。 ・事前学習記録以外、提出後は原則返却しない（一定期間保管後処分）。

科目名 ナンバリングコード	研究Ⅰ NUS4271MN3	必修科目	2 年次 1 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 加藤 陽子				
科目担当者	医学部看護学科 孫田 千恵				
教員の実務経験	総合周産期母子医療センターで助産師として実務した経験を活かし、看護における研究について講義している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の①既習の知識に新たな知識を取り入れ看護の現象を理解することを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 人々の生活の中での現象を客観的に捉え、その中にある疑問や問題を解決するための方法としての看護研究の必要性と意義を学ぶ。 2) 研究疑問を導くために必要である文献の意義を理解し、文献の整理、活用方法を学ぶ。 3) 研究をする上で必要とされる情報リテラシーを備えるための素地を養う。 到達目標 1) 看護における研究の必要性及び研究疑問を持つことの意義を説明できる。 2) 文献検索の意義と文献の活用方法を説明できる。 3) 情報リテラシーと文献検索のための具体的方法について説明できる。 4) 文献の構成及び文献を客観的に読む方法について理解し、文献を読み、文献カードに整理する方法を説明できる。 5) 看護に関連するテーマについて複数の文献を用いグループで意見をまとめ、複数の文献より考察する意味及びその方法を説明できる。				
授業概要	看護研究の必要性及び文献検索の意義を理解した上で、データベースを用い文献検索をし、文献の入手し、読み、文献カードに整理する。類似テーマである複数の文献を活用しグループでテーマについてまとめる。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第1回	看護研究の必要性と研究疑問	加藤【講義】	講義内容に関する復習	30 分	
第2・3回	文献検索の意義と文献の活用方法	加藤・孫田・医学図書館	データベースを用い文献検索を	30 分	
第4回	情報リテラシーと文献検索の基本 文献検索の実際（フィールドワーク） 文献の読み方 看護に関連するテーマの文献検索	職員【講義・演習】 加藤・孫田【講義・演習】	実践 提示した文献を読む データベースを用い文献検索、 入手、読む	30 分	
第5・6回	文献の整理方法（グループワーク）	加藤・孫田【講義・演習】	文献カード作成（レポート）	60 分	
第7・8回	複数の文献を活用した意見のまとめ （プレゼンテーション）	加藤・孫田【講義・演習】	グループで複数の文献の整理 グループワークでまとめた資料 を確認、修正（レポート）	60 分	
テキスト	南裕子，野嶋佐由美編：看護における研究 第2版 日本看護協会出版会 2017 年				
参考書	山崎茂明，六本木淑恵：看護研究のための文献検索ガイド 第4版増補版，日本看護協会出版会，2010				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（70%）	到達目標1)2)3)は知識・理解・思考の達成度を筆記試験の正答率で評価する。 到達目標4) 達成度はレポート及び受講態度で評価する。				
レポート（10%）	・レポートは文献カードで評価する。論文の構成に沿った要約、自己の考察などの記述内容で達成度を評価する。				
受講態度（20%）	・受講態度は、グループワークでの主体的な取り組み状況の達成度を評価する。				
	到達目標5)の達成度はレポート及び受講態度で評価する。 ・レポートはグループ単位での評価とする。複数の文献より、看護又は生活上の疑問に関する事柄のまとめ及びグループでの考察が記述されているかで達成度を評価する。 ・受講態度は、グループワーク及びプレゼンテーションでの主体的な取り組み状況の達成度を評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		講義の中での講評・レポートへのコメントを行います。			

科目名 ナンバリングコード	家族看護学 NUS3128MN3	必修科目	2 年次 2 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 桐明 あゆみ				
科目担当者	医学部看護学科 加藤 陽子、姫野 深雪、藤好 貴子、松野 史				
教員の実務経験	本科目は総合病院にて看護師として 13 年実務経験を有する教員が担当し、慢性期病棟、急性期病棟で家族に対する看護実践から得た知識や、技術を教えている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 家族看護の発展の歴史を理解し、家族看護における看護の役割、家族アセスメントの視点と家族の成長と発達を促す援助について学ぶ。 到達目標 1) 家族看護の定義と歴史を説明できる。 2) 家族の多様性について述べることができる。 3) 家族を捉える諸理論（家族発達理論 家族ストレス対処理論 家族看護理論）について説明できる。 4) カルガリー式家族看護モデルに基づく家族アセスメントの方法を述べることができる。 5) カルガリー式家族看護モデルに基づく家族支援の方法を述べることができる。 6) 各領域における家族看護の特徴を説明できる。 7) 健康問題をもつ家族の事例演習を通して、家族が抱える苦悩と家族員間の相互作用に気づくことができる。 8) 健康問題を持つ家族の事例演習を通して、家族に対する支援の方向性を考察できる。				
授業概要	システムとしての家族について理論的に学び、事例演習をとおして、健康問題を抱えた家族の状況を体験的に理解します。また支援の方法については、ロールプレイ演習の動画を基に多様な視点で検討します。これらによって、家族を支える看護について学びを深めることができます。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11・12 回 第 13・14 回 第 15 回	家族看護学 定義と変遷 家族ヘルスケア諸理論（家族発達理論と家族 ストレス対処理論） 家族システム理論（カルガリー式家族看護モデルについて） 家族アセスメントの視点（構造面のアセスメント / ジェノグラムとエコマップの作成） 家族アセスメントの視点（発達・機能面のアセスメント / 円環的コミュニケーションパターンについて） 健康問題をもつ「家族に対する介入（カルガリー式家族介入モデルについて）」 母性看護学における家族看護 小児看護学における家族看護 高齢者看護学における家族看護 健康問題をもつ家族の事例演習（オリエンテーションとテーマ決定） 健康問題をもつ家族の事例演習 健康問題をもつ家族の事例演習 プレゼンテーション まとめ及び事例演習のフィードバック	桐明【講義】 桐明【講義】 桐明【講義】 桐明【講義】 桐明【講義】 桐明【講義】 加藤【講義】 藤好【講義】 桐明【講義】 桐明・姫野・松野【演習】 桐明・姫野・松野【演習】 桐明・姫野・松野【演習】 桐明・姫野・松野【演習】 桐明・姫野・松野【講義】	第 1 ～ 第 4 回 の予習については、テキストの該当箇所を熟読してくること。 第 1 回から第 5 回の復習については、エクササイズを課す。期限までに提出すること。 第 10 回～第 14 回については、各回の到達目標を示す。時間内に達しない場合、各グループで自主的に時間を作り課題に取り組むこと。	予習、復習については、各回 30 分から 1 時間程度	
テキスト	小林奈美 グループワークで学ぶ家族看護理論 カルガリー式家族看護モデル実践へのファーストステップ 第 2 版 医歯薬出版 2011				
参考書	鈴木和子 渡辺裕子 佐藤律子 家族看護の理論と実践 第 5 版 日本看護協会出版会 2019				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（70%） 演習評価（30%）	到達目標 1) ～ 6) に対する達成度を、試験問題に対する正答率で評価する。 到達目標 7) の到達度を、システムとしての家族の理解や事例の妥当性、事例演習へ取り組む態度を得点化し、評価する。 到達目標 8) の到達度は、事例演習後の課題レポートの内容を得点化し、評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		課題（レポート）は、正答を示すと共に採点后、返却する。			

科目名 ナンバリングコード	災害看護学 NUS2142MN3	必修科目	2 年次 1 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 孫田 千恵				
科目担当任者	医学部看護学科 姫野 深雪、松野 史、池上 明由美、石橋 秋奈、山田 泰子 久留米大学病院看護部 真子 敬史				
教員の実務経験	この科目は、急性期病棟や慢性期病棟で看護師として実務経験を有する教員が担当し、看護師としての実務経験に基づく災害看護の基本的な知識・技術を教授する。また、災害 DMAT 活動の実務経験のある看護師や避難所におけるボランティア活動の経験がある教員が、それらの経験を講義や演習に活かしている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 国内外の災害の事例を踏まえ、災害の概念や災害時の健康障害、災害時の医療ニーズの変化に対応する看護職の役割と機能について学ぶ。 2) 災害後の危機的状況に対応するシステムと継続的な支援活動を維持するためのシステムを学ぶ。 3) 災害看護の実践に関して、倫理観に基づく看護師の役割と援助方法を学ぶ。 到達目標 1) 国内外で発生する災害の現状をふまえ災害の定義、災害看護活動内容を説明できる。 2) 災害看護活動に関連する法律について説明できる。 3) 災害サイクル各期における看護の意義と役割について説明できる。 4) 災害時における各種医療支援チーム、危機管理支援チームと看護の役割について説明できる。 5) 被災状況が及ぼす健康への影響を理解し、災害看護活動の場における生活への援助、身体的・精神的健康管理について述べることができる。 6) 災害時の被災者及び援助者の心理と援助について説明できる。 7) 避難所における被災者の特徴や要配慮者への看護、ボランティア活動について説明できる。 8) 限られた資材と人材で、適切なトリアージと救護処置、避難行動支援が実施できる。 9) 自己防災および地域防災の実践について述べることができる。				
授業概要	災害の概念や災害サイクル、災害に関する法律や制度、災害時における危機管理体制、災害が人々の心身の健康に及ぼす影響および看護師が果たす役割や支援活動を学ぶ。それらの知識を踏まえて、災害時に必要な援助技術（トリアージ、応急処置、搬送）、災害避難所における看護（難所設営図上シミュレーション、避難所の生活支援）を実施する。また、アクティブラーニングにて、地域のハザードマップや避難経路を調査し、自己防災および地域防災について検討する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	災害看護の基礎知識：災害の種類、災害の疾病構造、 災害看護の基礎知識：災害サイクル、災害における連携 災害に関する法律や制度、各機関の支援体制 災害サイクルと看護活動：超急性期～慢性期 被災者、救護者のストレスと心のケアについての理解 災害時における病院の危機管理体制、災害 DMAT 活動の実践 災害時に必要な技術①：応急処置・搬送法 災害時に必要な技術②：トリアージ・救護所への搬送 避難所、福祉避難所、地域の防災活動 災害避難所における看護①：避難所設営（図上シミュレーション） 災害避難所における看護②：避難所の生活支援 要配慮者への看護、ボランティア活動 地域の防災活動①：ハザードマップや避難経路の調査 地域の防災活動②：自己防災および地域防災の調査 災害看護における倫理、課題	孫田【講義】 孫田【講義】 山田【講義】 孫田【講義】 姫野【講義】 真子【講義】 孫田・全員【演習】 孫田・全員【演習】 孫田【講義】 孫田・全員【演習】 石橋・全員【演習】 池上【講義】 孫田【演習】 孫田【演習】 孫田【講義】	各回の配布資料や テキストで復習を すること。 第 10 回・第 11 回、 第 13・14 回は課題 を科す。	各回 30 分 程度	
テキスト	1) 酒井明子、増野園恵（編）：災害看護、南江堂、2023、改訂第 4 版				
参考書	1) 酒井明子、長田恵子、三澤寿美黒（編）：災害看護 第 5 版（ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践 3）、メディカ出版、2021 2) 庄野泰行、内木美恵、東智子（編）：看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学 第 5 版、医学書院、2024				

成績評価	
方法（割合）	基準
筆記試験（70%） 課題レポート（20%） 演習態度（10%）	到達目標 1) 2) 3) 4) 6) 7) の達成度は、試験問題の正答率で評価する。 到達目標 5) 9) は、課題レポートに対する内容を評価する。 到達目標 5) 8) 9) は、演習への取り組み（振り返りシート）の内容を評価する。
課題（レポート等）に対するフィードバック	フィードバックは講義の中で適宜行います。

科目名 ナンバリングコード	国際看護学 NUS3171MN4	選択科目	2 年次 1 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 桐明 あゆみ				
科目担当者	国際交流センター長 池口 守（文学部） 非常勤講師 小川 里美（日本赤十字九州国際看護大学） 医学部看護学科 石橋 秋奈				
教員の実務経験	国際 NGO、JICA における実務経験を持つ教員が担当しており、国際 NGO、JICA における実務経験に基づく講義や演習をしている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP6 の地域及び国際的視野で、社会に貢献することができる能力の②国内外で暮らす人々の健康・生活の質の向上に貢献する基礎力を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 看護職者として国際的視野をもって、世界の人々の健康問題とその保持・増進に向けて活動する国際機関・国際協力の仕組みについて学び、現状と課題について考察することができる能力を養う。 到達目標 1) 国際看護の位置づけについて国際保健との関連から説明できる。 2) 国際交流の実際を知り、異文化を理解することの意義を説明できる。 3) 世界における疾病構造・健康問題、関連する経済的な状況を述べることができる。 4) 国際看護活動と国際機関・国際協力の仕組みを説明できる。 5) ミレニアム開発目標、持続可能な開発目標について説明できる。 6) 世界の人々の健康問題に関心を持ち、看護職者が果たす役割について述べることができる。				
授業概要	国際社会の動向に関心を持ち、看護者として身近なところから国際社会への貢献を考えることができる力を培います。そのために、世界的な健康問題やその解決のための国際機関、国際協力の仕組みについて主体的に学び、国際的な課題と看護職者の役割について理解を深めます。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5・6 回 第 7・8 回	国際看護とは（国際看護の概念・歴史） 文化に対する理解と看護実践 異文化理解 久留米大学の国際交流事業 グローバルヘルス 世界の疾病構造、健康問題 国際看護活動と国際機関・国際協力の仕組み ミレニアム開発目標と持続可能な開発目標について 国際看護活動の実際 紛争や難民といった国際的な課題に対して看護が果たす役割について 国際看護活動の現状と課題（活動の実際を動画で学び、グループワーク、意見交換）	桐明【講義】 池口【講義】 桐明【講義】 石橋【講義】 小川【講義】 桐明・石橋【講義・演習】	各回に、課題レポートを課します。 報道を通して得られる国際社会の動向を良く把握して講義に臨んでください。	各回 40 分 程度	
テキスト	特定のテキストは使用しない。				
参考書	森 淑江他 編集 国際看護 国際社会の中で看護の力を発揮するために 初版 南江堂 2019 近藤 麻理 知って 考えて 実践する 国際看護 第 2 版 医学書院 2018				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（60％） レポート（40％）	到達目標 1）～ 4）は試験の問題に対する正答率で評価する。 到達目標 5）6）は、課題レポートを課し、その記述内容を点数化して評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		課題（レポート等）は評価後、返却する。			

科目名 ナンバリングコード	臨床心理学 CLP2211MN5	必修科目	3 年次 1 学期	講義	1 単位
科目責任者	非常勤講師 天満 翔				
教員の実務経験	この科目は臨床心理士及び公認心理師として病院等での実務経験を基盤とした講義を展開する。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 看護実践に資する臨床心理学の知見を活かし、多層的な対人理解や援助関係形成及び援助の方法等について基礎的知識と実践力を身につけている。 到達目標 1) 心理臨床の歴史と実践の概略を学ぶことで、多角的な人間理解の必要性を理解できる。 2) 主たる心理療法について理解し、心理的アセスメントの視点の基礎を身につけている。 3) 代表的な心理療法について、その考え方と技法を説明できる。 4) ウンセリングの基本的方法について説明し、実践出来る。				
授業概要	臨床心理学の概要と歴史、心理臨床の実践的知識や倫理、および実際に直面する諸問題について解説する。講義による授業形態を中心にしながら、受講生同士でのグループディスカッション、ワークも積極的に展開する。講義に必要な資料は適宜 Hondana 上に掲載するため、事前に各自で準備して講義に臨むこと。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	臨床心理学の概要と歴史 臨床心理学と心理アセスメント 心理検査① 質問紙法 心理検査② 投射法 心理検査③ 知能検査 模擬事例を通したグループディスカッション① 臨床心理学と発達の視点 知的障害と発達障害 臨床心理学と心理療法 心理療法① 精神分析 心理療法② 行動療法 心理療法③ クライエント中心療法 模擬事例を通したグループディスカッション② 臨床心理学と地域援助 まとめ	天満【講義】 天満【講義】 天満【講義】 天満【講義】 天満【講義】 天満【講義】 天満【講義】 天満【講義】 天満【講義】 天満【講義】 天満【講義】 天満【講義】 天満【講義】 天満【講義】 天満【講義】	・ 次回の講義内容や講義中に示した重要語（専門用語）について、文献ならびにインターネットを活用して十分に理解を深める。	各20分	
テキスト	資料配布。				
参考書	春日武彦、『援助者必携 はじめての精神科 第3版』医学書院 2020 丹野義彦、石垣琢磨、毛利伊吹ほか、『臨床心理学』有斐閣 2015				
成績評価					
方法（割合）	基準				
定期試験（60％） レポート（20％） 受講態度（20％）	講義内容をもとにした定期試験から到達目標の達成度を評価する。 講義内で提示するレポートをもとに到達目標の達成度を評価する。 講義やワークへの積極的な参加姿勢を評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		授業の中で全体フィードバックを行います。			

科目名 ナンバリングコード	保健医療統計学 SBM2112MN5	必修科目	3 年次 1 学期	講義	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 梶 勇三郎				
教員の実務経験	なし				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の①既習の知識に新たな知識を取り入れ看護の現象を理解することを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 保健医療情報の読み取り方や目的に応じたデータ解析の方法・結果の活用方法について修得し、地域や看護の問題解決に役立てられるようにする。 到達目標 1) 人口統計や保健統計調査の現状や動向を説明できる。 2) NDB や KDB 等のデータベースの特徴を説明できる。 3) 記述統計量（代表値、ばらつき）について説明できる。 4) データ解析目的に応じた推定や検定について説明できる。 5) データ解析で得られた結果について説明できる。				
授業概要	定期的に授業内容に関連した問題を掲示し、それに対し学生同士で検討する時間を設け授業の理解を深める。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	人口統計（静態統計・主な健康指標と動向）	梶【講義】	人口構造の変化	30 分	
第 2 回	人口統計（動態統計・疾病統計の動向）	梶【講義】	死因統計、年齢調整死亡率	30 分	
第 3 回	保健統計調査（基幹統計等の動向：患者調査）	梶【講義】	国民生活基礎調査	30 分	
第 4 回	保健統計調査（その他の統計調査の動向：感染症・食中毒統計、地域保健・健康増進事業報告、衛生行政報告等）	梶【講義】	国民健康・栄養調査	30 分	
第 5 回	保健統計調査（医療経済統計の動向、KDB、NDB）	梶【講義】	健康日本 21（第 3 次）	30 分	
第 6 回	保健統計調査（医療経済統計の動向、KDB、NDB）	梶【講義】	データベース	30 分	
第 7 回	記述統計量の特徴	梶【講義】	代表値と散布度	60 分	
第 8 回	カテゴリカルデータの分析	梶【講義】	カイ二乗検定	60 分	
第 9 回	連続データの分析	梶【講義】	分散分析、標準化差	60 分	
第 10 回	多群間の分析	梶【講義】	多重比較	60 分	
第 11 回	回帰分析	梶【講義】	相関、残差	60 分	
第 12 回	層別解析と多変量解析	梶【講義】	交絡因子	60 分	
第 13 回	多変量解析（線形性・正規・等分散の確認、非線形関係）	梶【講義】	ダミー変数、多重共線性	60 分	
第 14 回	多変量解析（効果修飾、変数選択、不均一分散）	梶【講義】	対数変換	60 分	
第 15 回	多変量解析（ロジスティック回帰分析）	梶【講義】	オッズ比	60 分	
第 15 回	多変量解析（多変量解析を組み合わせた分析）	梶【講義】	ロジスティック回帰分析	60 分	
テキスト	医療情報学研究所 編集 公衆衛生がみえる 2024-2025 第 6 版 MEDIC MEDIA 2024 年				
参考書	柳川 堯 他 新 看護・リハビリ・福祉のための統計学 近代科学社 2021年 内田 治 他 JMPによる医療・医薬系データ分析 第2版 東京図書 2021年 吉田 寛輝 JMPによる医療統計 アトムス 2022年 内田 治 他 JMPによる医療系のための多変量データ分析 東京図書 2024年				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（100%）	到達目標の達成度を正答割合で評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	レポート提出は求めない。				

科目名 ナンバリングコード	保健医療福祉行政論 SBM2213MN5		必修科目	3 年次 1 学期	講義	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 梶 勇三郎					
科目担当者	医学部看護学科 小畠 一将 非常勤講師 土井 巧（朝倉市役所）					
教員の実務経験	この科目は自治体における保健師業務経験を有する教員が担当している。また、自治体での業務経験を活かした実践的な講義をしている。					
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。					
教育目標 到達目標	教育目標 1) 我が国の財政状況や社会状況の変化を踏まえ、保健医療福祉行政のしくみや社会保障制度について理解を深め、地域で保健医療福祉活動を行う際に必要とされる知識や考え方を養う。 2) 地域の健康問題を解決するための考え方、事業化のプロセス、評価技術を学ぶ。 到達目標 1) 保健医療福祉行政における保健所や市町村等の機能について説明できる。 2) 財政のしくみや予算編成について説明できる。 3) 医療提供体制、医療保険、介護保険、年金・生活保護制度について説明できる。 4) 政策体系や保健医療福祉計画について説明できる。 5) 施策化や事業化の進め方、事業評価の観点について説明できる。					
授業概要	定期的に授業内容に関連した問題を掲示し、それに対し学生同士で検討する時間を設け授業の理解を深める。					
授業計画						
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）			必要時間
第 1 回	保健医療福祉行政のしくみと機能①	梶 【講義】	地方公共団体、地方分権、労働行政			60 分
第 2 回	保健医療福祉行政のしくみと機能②	小畠 【講義】	保健所、市町村、精神保健福祉センター			60 分
第 3 回	財政のしくみと予算	梶 【講義】	予算の原則、予算編成、財政指標			60 分
第 4 回	社会保障制度のしくみと財政	梶 【講義】	社会保障給付費、年金、生活保護			60 分
第 5 回	医療制度と医療費	梶 【講義】	保険の種類、公費医療、傷病別医療費			60 分
第 6 回	医療提供体制	梶 【講義】	医療法、医療計画、国際比較			60 分
第 7 回	介護保険制度のしくみ	梶 【講義】	要介護認定、サービスの種類、介護予防			60 分
第 8 回	持続可能な社会保障制度について	梶 【講義】	人口減少、家族と世帯、財政、経済状況			60 分
第 9 回	健康政策の進め方	梶 【講義】	健康日本 21（第 3 次）、健康格差			60 分
第 10 回	健康政策のアプローチ	梶 【講義】	ナッジ、HiAP、ライフコースアプローチ			60 分
第 11 回	政策体系と保健医療福祉計画	梶 【講義】	総合計画、法的根拠、アカウンタビリティ			60 分
第 12 回	事業の企画・立案・実施・評価の実際	土井 【講義】	法的根拠、予算、PDCA、議会			60 分
第 13 回	施策化・事業化の進め方	梶 【講義】	地域診断、予算、マンパワー、事業委託			60 分
第 14 回	事業評価	梶 【講義】	費用対効果、ストラクチャー・プロセス・アウトカム評価			60 分
第 15 回	事業化の意義と行政看護職の役割	梶 【講義】	保健師、スクラップ・アンド・ビルド			60 分
テキスト	医療情報学研究所 編集 公衆衛生がみえる 2024-2025 第 6 版 MEDIC MEDIA 2024 年					
参考書	棕野美智子 田中耕太郎 はじめての社会保障 第 22 版 有斐閣アルマ 2025 年 野村陽子／加藤典子 編 保健医療福祉行政論 メヂカルフレンド社 2022 年 藤内修二 著者代表 保健医療福祉行政論 第 6 版 医学書院 2025 年 近藤尚己 健康格差対策の進め方 医学書院 2016 年					
成績評価						
方法（割合）	基準					
筆記試験（100%）	到達目標の達成度を正答割合で評価する。					
課題（レポート等）に対するフィードバック		レポート提出は求めない。				

科目名 ナンバリングコード	健康教育方法論 NUS2239MN5	必修科目	3 年次 1 学期	講義・演習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 河原田 康貴				
科目担当者	医学部看護学科 益守 かづき、佐藤 祐佳、加藤 陽子、草場 知子、福浦 善友、松島 亜希子、松野 史				
教員の実務経験	この科目は看護師や保健師としての実務経験を有する教員が担当し、臨床で得た知識・技術を基に教えている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) ライフステージや健康レベルごとの健康問題や課題について学ぶ。 2) 健康問題をもつ個人や集団の特徴を捉えてアセスメントし、効果的な健康教育を実践するための技能を修得することができる。 到達目標 1) 健康教育の目的や、健康教育の対象となる人々の健康問題や課題について説明できる。 2) 健康教育の基盤となる諸理論、方法論について説明できる。 3) 健康教育の対象となる個人や集団の健康問題や課題をアセスメントし、行動変容に向けた健康教育の展開について説明することができる。 4) 演習ではグループメンバー同士で協力し、事例の特徴やニーズに沿った健康教育を企画・実施・評価することができる。				
授業概要	健康問題の解決のためには、人々が自らの健康上の問題や課題に意識を向け、必要な知識や技術を習得し、主体的に前向きに取り組むことが重要である。本科目では、そのプロセスを促す支援である健康教育について、講義で基本となる知識や技術を学び、演習では事例を設定し、健康教育の企画・実施・評価まで一連の展開を実践する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回	健康教育とは、健康教育の目的と対象	河原田【講義】	講義では復習を中心に、講義内容や配布資料を見直し、ポイントをノートにまとめる。 さらに文献や書籍などを活用して、理解を深める。 演習ではまず課題に沿った基礎学習を各自で行い、健康問題や課題について理解を深める。 さらにグループメンバー同士で協力して、発表に向けた準備を段階的に行う。	各回 30～ 60分	
第 2 回	健康教育のための理論、方法論①	河原田【講義】			
第 3 回	健康教育のための理論、方法論②	加藤 【講義】			
第 4 回	周産期における健康教育①	加藤 【講義】			
第 5 回	周産期における健康教育②	益守 【講義】			
第 6 回	小児期における健康教育①	益守 【講義】			
第 7 回	小児期における健康教育②	河原田【講義】			
第 8 回	成人期における健康教育①	河原田【講義】			
第 9 回	成人期における健康教育②	草場 【講義】			
第 10 回	老年期における健康教育①	草場 【講義】			
第 11 回	老年期における健康教育②	松島 【講義】			
第 12 回	精神科領域における健康教育①	松島・福浦【演習】			
第 13 回	精神科領域における健康教育②	佐藤 【講義】			
第 14 回	公衆衛生における健康教育①	佐藤 【講義】			
第 15 回	公衆衛生における健康教育②	河原田【講義】			
第 16・17 回	健康教育の企画・実施・評価	河原田【講義】			
第 16・17 回	健康教育演習：企画書、指導案の作成	河原田・佐藤・松野【演習】			
第 18・19 回	健康教育演習：シナリオ、媒体の作成	河原田・佐藤・松野【演習】			
第 20・21 回	健康教育演習：リハーサル、発表準備	河原田・佐藤・松野【演習】			
第 22・23 回	健康教育演習：発表	河原田・佐藤・加藤・草場・松野【演習】			
テキスト	必要な資料を適時配布する。				
参考書	講義の中で紹介する。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（40％）	定期試験によって、到達目標の達成度を評価する。				
演習評価（50％）	演習への取り組みや発表をポイント化し、評価する。				
受講態度（10％）	講義や演習へ積極的に参加する姿勢（意見、質問等）等をポイント化し、評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題やレポートの返却・フィードバックは、講義の中で適宜行う。				

科目名 ナンバリングコード	看護過程Ⅱ NUS2138MN5	必修科目	3 年次 1 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 姫野 深雪				
科目担当者	医学部看護学科 河原田 康貴、孫田 千恵、水落 裕美、新 裕紀子、松島 亜希子、森永 朗子、池上 明由美、石橋 秋奈、松野 史、松本 くらら、他専任教員				
教員の実務経験	がん専門病院等にて看護師としての実務経験を持ち、看護師として勤務して得た技術を教えている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の③人々を生活者として全人的に捉える姿勢を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 看護過程Ⅰの学習内容を基盤に、健康上の問題や障害をもつ人および家族の療養生活支援を対象とした看護過程の展開を通じて、個々の患者と家族に応じた看護実践を検討できる。 到達目標 1) 紙上事例において、患者理解のためゴードンの機能的健康パターンを活用し、系統的な情報収集・整理ができる。 2) 患者および家族の必要な情報から、疾患、治療、症状などの影響を踏まえて情報を解釈し、アセスメントを記述することができる。 3) 患者の疾患や治療を含む健康状態と生活行動との関連性を統合し、全体像を描くことができる。 4) 患者の看護問題を明確に示し、その優先順位を説明できる。 5) アセスメントに基づき、患者に応じた看護目標の設定と看護計画を立案できる。 6) 看護記録を用いて看護実践の実施・評価の記述することができる。 7) 紙上事例の一連のプロセスを通じて、看護過程の展開を説明できる。				
授業概要	看護過程Ⅰのクリニカルシンキングや問題解決法などによる思考過程を活用し、疾患を持つ患者・家族の療養生活支援に要である看護過程の展開方法を学ぶ。患者理解には、疾病治療論、臨床薬理、臨床栄養などディプロマポリシー DP3 ①に相当する既習を駆使して、学習に取り組む必要がある。紙上事例に学生が取り組む自習（課題）、講義、個別指導、グループワーク等を用いたアクティブラーニングで講義を展開する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	看護過程とゴードンの機能的健康パターン、演習オリエンテーション	姫野【講義】	看護過程Ⅰの復習、情報の整理	30 分	
第 2 回	アセスメント①機能的健康パターン 1～4（講義・グループワーク）	姫野【講義・演習】	課題（アセスメント）の実施	60 分	
第 3 回	アセスメント②機能的健康パターン 1～4（グループワーク・発表）	姫野【講義・演習】	課題（アセスメントの修正）の実施・提出	60 分	
第 4 回	アセスメント③機能的健康パターン 1～4（グループ指導）	担当者全員【演習】	課題（アセスメントの再修正）の実施	60 分	
第 5 回	アセスメント④機能的健康パターン 5～11（講義・グループワーク）	姫野【講義・演習】	課題（アセスメント）の実施	60 分	
第 6 回	アセスメント⑤機能的健康パターン 5～11（グループワーク・発表）	姫野【講義・演習】	課題（アセスメントの修正）の実施・提出	60 分	
第 7 回	アセスメント⑥機能的健康パターン 5～11（グループ指導）	担当者全員【演習】	課題（アセスメントの再修正）の実施	60 分	
第 8 回	関連図・全体像（講義・グループワーク）	姫野【講義・演習】	課題（関連図・全体像）の実施	60 分	
第 9 回	関連図・全体像（グループワーク・発表）	姫野【講義・演習】	課題（関連図・全体像）の修正の実施・提出	60 分	
第10回	関連図・全体像（グループ指導）	担当者全員【演習】	課題（関連図・全体像）の再修正の実施	60 分	
第11回	看護計画立案（講義・グループワーク）	姫野【講義・演習】	課題（看護問題リスト・看護計画）の実施	60 分	
第12回	看護記録（SOAP）と看護計画の評価・修正（講義・グループワーク）	姫野【講義・演習】	課題（看護計画の再修正と看護記録）の実施	60 分	
第13回	看護計画および看護記録（SOAP）の発表（グループワーク・発表）	姫野【講義・演習】	課題（看護計画の再々修正と看護記録の修正）の実施	60 分	
第14・15回	看護過程および看護記録（グループ指導）、まとめ	担当者全員【演習】	課題（看護過程）の再修正の実施・提出	60 分	

テキスト	上野栄一・西田直子編集，看護診断の看護過程ガイド，中央法規，2022（購入済み）	
参考書	看護過程Ⅰおよび本科目に関連する科目のテキストを活用する。 江川隆子編集：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断，ヌーヴェルヒロカワ，2019 永田明ら編集：看護がみえる vol.4 看護過程の展開 第1版，メディックメディア，2020	
成績評価		
方法（割合）	基準	
レポート（70%）	到達目標 1）～7）患者理解のための情報収集、アセスメント、関連図・全体像、看護計画及び看護記録の作成という看護過程のプロセスを辿ることができ、考察及び記載できているか評価する。	
受講態度（30%）	演習、課題提出状況および発表等取り組む姿勢等を総合的に評価する。	
課題（レポート等）に対するフィードバック	レポートは採点后に個人指導を行い返却する。	

科目名 ナンバリングコード	地域・在宅療養生活支援論 NUS3251MN5	必修科目	3 年次 1 学期	講義・演習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 渡邊 理恵				
科目担当者	医学部看護学科 山下 寛子 森永 朗子 非常勤講師 秋山 悠一（医療法人社団 秀和会）				
教員の実務経験	総合病院にて 5 年勤務、訪問看護ステーションにて（高齢者・小児）17 年勤務 病院での急性期の治療に伴う看護の経験と地域・在宅看護の経験を関連付けながら、講義を展開している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 在宅療養者とその家族に対する看護を展開するための基本的知識と支援方法について理解する。 2) 地域・在宅看護を展開するための社会制度の活用及び多職種連携の基本的知識について理解する。 到達目標 1) 在宅療養者を支える社会制度の活用の必要性とその方法について説明できる。 2) 在宅における日常生活援助方法・医療処置管理のあり方を理解し、在宅特有の注意点や配慮する点について述べるができる。 3) 在宅療養者の終末期看護や意思決定の支援のあり方について関心を持ち学習し、自分の考えを述べることができる。 4) 在宅療養児の健康支援と成長発達に伴う医療・福祉・保育・教育・行政などの多職種連携支援の現状と課題について説明できる。 5) 事例の看護過程展開を通して疾病が生活にどのように影響を与えているか在宅看護特有の看護問題を整理できる。 6) チーム医療及び多職種の連携・協働における在宅看護師の役割について体験学習を通してチームの意見を取り入れ自分の考えを述べるができる。				
授業概要	在宅療養者とその家族に対する看護の展開方法を理解し、その人らしい療養生活を支えるための個別性のある援助技術の在り方とその応用について学ぶ。本講義を通して 1 事例に関する看護を思考させ、アセスメントに基づいた看護実践を演習で体験することで、在宅看護のイメージ化を促し実践力を養うことを目指す。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回	地域療養を支える制度とその活用 - 協同学習 - 在宅療養を支える基本的な技術① 在宅療養を支える基本的な技術② 在宅における看護過程展開① （事例と演習課題の提示・記録用紙の配布）	渡邊【講義】 森永【講義】 山下【講義】 渡邊【講義】	【予習】 毎回提示された講義内容のテキストの範囲を読んで質問したい内容を明確にして講義に臨む	毎回予習と復習で各 30 分～ 60 分	
第 5 回 第 6・7 回	在宅における日常生活支援の実際 事例を使った日常生活援助の実際 （日用品を使った洗髪・清拭・部分浴）等	森永【講義】 渡邊・山下・森永【演習】	第 6・7 回の演習は第 5 回のオリエンテーションを参考に「日常生活援助技術」を復習して臨む		
第 8 回	地域包括ケアシステム構築における現状と課題 - 医師の立場から看護師に期待すること -	特別講義講師【講義】			
第 9 回 第 10・11 回	在宅における医療的ケアの実際 在宅における医療機器の特徴と管理 （人工呼吸器・自動注入ポンプ・酸素濃縮器 医療的ケア児モデル人形等）	山下【講義】 渡邊・山下・森永【演習】	第 9・10 回の演習は第 8 回のオリエンテーションを参考に「診療の補助」の講義を復習して臨む		
第 12 回	在宅における看護過程展開② -IW と発表 - （演習課題：情報の整理とアセスメント）	渡邊・山下・森永【演習】			
第 13 回 第 14 回	在宅における小児障害児の看護の実際 在宅における看護過程展開③ -IW と発表 - （関連図から看護問題抽出）	渡邊【講義】 渡邊・山下・森永【演習】	第 11 回の看護過程は情報の整理とアセスメントを記述して臨む		
第 15 回 第 16・17 回	在宅における終末期看護 在宅療養における ACP と意思決定支援 （もしバナゲームを活用した体験学習）	小野【講義】 渡邊・山下・森永【演習】	第 16 回は ACP について自ら参考文献を検索し自己学習して臨む		
第 18 回	訪問歯科診療と多職種連携の実際 （歯科医から看護師に期待する連携のあり方）	秋山【講義】			

第19回 第20・21回 第22回 第23回	多職種連携の実際 在宅ケアにおける多職種の連携・協働 (事例のサービス担当者会議のロールプレイ) 在宅における看護過程展開④ (これまでの演習のまとめ) まとめ 実習に向けて	- 共同学習・RP・発表 - - GW と発表 - 	渡邊【講義】 渡邊・山下・森永 【演習】 渡邊・山下・森永 【演習】 渡邊【講義】	第20回はサービス担当者 会議についてテキストで予 習して臨む 第22回の看護過程は関連 図と看護問題の記述をして 臨む 【復習】 テキスト・講義資料と自分 のノートを振り返り理解を 深める。さらに疑問などが あれば、次回の講義か直接 教員に質問して明確にする。	毎回予習 と復習で 各 30 分 ～ 60 分
テキスト	・ 臺 有桂 他 編 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①② (2022 年版) (購入済み)				
参考書	①日本在宅ケア学会 在宅ケア学第1巻～第6巻 株式会社ワールドプランニング 2015 年 ②押川真喜子 監修 写真でわかる訪問看護 アドバンス初版 (株)インターメディカ 2016 年				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
筆記試験 (70%) レポート (15%) 受講態度 (15%)	筆記試験：到達目標 1) 2) 3) 4) 6) の達成度を正答率で評価する。 レポート：到達目標 5) の達成度を在宅療養者の生活を支える視点で身体・心理・環境・家族の状況を関連付 けて看護問題を抽出しているか看護過程演習課題を5項目各3点で評価する。 意欲・関心：到達目標 1) ～ 6) について各講義内容の中から自分が特に関心を持った内容を引用し具体的に 感想・質問及び自分の考えが記述されているか毎回0～2点で評価する。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック		講義の中で解説する。採点后実習初日に返却する。			

科目名 ナンバリングコード	母子健康支援論 NUS2155MN5	必修科目	3 年次 1 学期	講義・演習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 永田 真理子				
科目担当者	医学部看護学科 田中 佳代、加藤 陽子、岡村 光子、竹藤 徳子、松本 くらら				
教員の実務経験	担当教員は産科病棟での助産師実務経験を基盤とした授業を展開している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 妊婦・産婦・褥婦及び新生児とその家族の身体・心理・社会的特徴に関する理解を深め、対象に応じたアセスメント及び看護実践を検討できる。 到達目標 1) 子どもを産み育て、親になることを意味することを理解し、子どもを産み育てることに関する看護を学ぶ意味を説明できる。 2) 妊娠・分娩・産褥の生理、各時期の身体的特徴及び変化と新生児の発育と生理について説明できる。 3) 妊産褥婦の心理・社会的特徴及び各時期における家族の新しい役割に関する課題について説明できる。 4) 妊娠・分娩・産褥経過及び各時期の身体・心理・社会的特徴をふまえた、妊産褥婦、新生児とその家族のアセスメントを説明できる。 5) 妊産褥婦、新生児とその家族の身体・心理・社会的側面における健康の保持・増進のための具体的な看護実践が説明できる。 6) 妊娠・分娩・産褥経過中にみられる異常、妊産褥婦及び新生児におこる問題とそれらに対する看護実践を説明できる。 7) 母子及び家族の健康の保持・増進のために必要とされる看護過程の特徴を説明できる。				
授業概要	妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の経過順に授業を進め、各時期の最終授業にて授業内容に関する問題を作成することにより、各時期の生理、特徴を理解し、アセスメント及び看護実践を思考する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	子どもを産み育てることとその看護	永田【講義】	子どもを産み育てることを支援することに関するレポート	15分	
第 2 回	妊娠期の生理と経過、身体的特徴	永田【講義】	妊娠期の身体的特徴の復習	30分	
第 3 回	妊娠期の心理・社会的特徴	永田【講義】	妊娠期の心理・社会的特徴を復習	30分	
第 4 回	妊婦のアセスメントと看護	永田【講義】	妊娠のアセスメントを復習	30分	
第 5 回	妊婦と家族への看護（グループワーク）	担当者全員【演習】	第7回授業のプレゼンテーションの準備	60分	
第 6 回	胎児・家族のアセスメントと看護	永田【講義】	胎児・家族のアセスメントを復習	30分	
第 7 回	妊婦と家族への看護（プレゼンテーション）	担当者全員【演習】	プレゼンテーション資料の見直し	30分	
第 8 回	妊娠期の異常と看護	永田【講義】	妊娠期に関する作問及びその解説のレポート	30分	
第 9 回	分娩の生理と経過、身体・心理的特徴	加藤/松本【講義】	分娩経過の復習	30分	
第 10 回	産婦・胎児、家族のアセスメント	加藤【講義】	分娩期のアセスメントの復習	30分	
第 11 回	産婦と家族の看護	加藤【講義】	分娩期の看護実践内容の復習	30分	
第 12 回	分娩期の異常と看護	加藤【講義】	分娩期に関する作問及びその解説のレポート	30分	
第 13 回	産褥期の生理と経過、身体・心理・社会的特徴	永田【講義】	産褥経過の復習	30分	
第 14 回	産褥期の退行性変化のアセスメントと看護	永田【講義】	子宮復古のアセスメントを復習	30分	
第 15 回	褥婦・家族の心理・社会的アセスメントと看護	永田【講義】	親役割に関するアセスメントを復習	30分	
第 16 回	産褥期の進行性変化のアセスメントと看護	永田【講義】	乳房の変化・母乳哺育の復習	30分	
第 17 回	産褥期の異常と看護	竹藤【講義】	産褥期に関する作問及びその解説のレポート	30分	
第 18 回	新生児の生理と経過、身体的特徴	岡村【講義】	新生児の身体的特徴を復習	30分	
第 19 回	新生児のアセスメント	岡村【講義】	新生児のアセスメントを復習	30分	
第 20 回	新生児の看護	岡村【講義】	新生児の看護実践内容を復習	30分	
第 21 回	ハイリスク新生児とその家族への看護	岡村【講義】	新生児期に関する作問及びその解説のレポート	30分	
第 22 回	看護過程（産褥期の退行性変化）	担当者全員【講義】	看護過程の見直し	30分	
第 23 回	看護過程（産褥期の進行性変化と母親役割）	担当者全員【講義】	看護過程の見直し	30分	

テキスト	森恵美：系統看護学講座 専門分野 母性看護学〔2〕 母性看護学各論 第14版、医学書院、2024 医療情報科学研究所：病気が見える vol.10 産科、メディックメディア、2018		
参考書	授業中に適宜紹介する		
成績評価			
方法（割合）	基準		
筆記試験（80％） レポート（20％）	到達目標2) 3) 4) 5) 6) 7) の達成度を正答率で評価する。 到達目標1) の達成度は以下で評価する。 (5%) 子どもを産み子どもを産み育てることを支援する意味が含まれているかを評価する。 到達目標2) 5) の達成度は(15%) 各時期の生理、特徴又は看護実践に関する問題及び解説を作成し、内容によって評価する。		
課題（レポート等）に対するフィードバック		課題に関しては必要時、記述又は口頭でフィードバックを行う。	

科目名 ナンバリングコード	終末期・緩和ケア看護論 NUS2252MN5	必修科目	3 年次 1 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 姫野 深雪				
科目担当者	医学部看護学科 桐明 あゆみ、河原田 康貴、孫田 千恵、松野 史、池上 明由美、石橋 秋奈 大学病院看護部 松尾 光代、中島 菜穂子				
教員の実務経験	がん専門病院等にて看護師としての実務経験を持ち、看護師として勤務して得た技術を教えている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 終末期にある人とその家族に対して、人間としての尊厳を保ちつつ、穏やかな人生の終焉を支える全人的ケアについて学ぶ。 2) 緩和ケアの基盤となる症状マネジメントの考え方と具体的な援助方法について学ぶ。 到達目標 1) 人生の最後のときを迎える終末期にある人と家族の状況および特徴について説明できる。 2) 様々な死生観を共有し、看護職としてのあり方を感じることができる。 3) WHO の緩和ケアの基盤となる考え方について説明できる。 4) 基本的緩和ケアにおける対象理解（アセスメント）、症状マネジメントと援助について説明できる。 5) 高度実践看護師による専門的緩和ケアの実践について説明できる。 6) 家族看護（グリーフケアについてなど）の必要性について説明できる。 7) 緩和ケアを受ける患者との関わりについて、看護師としての姿勢やコミュニケーションについて計画することができる。 8) 7)の演習後、自己の振り返り（自己評価）、グループでの討議や教員からのフィードバックを統合し、緩和ケアのコミュニケーションについて気づいたことや再考したことを記述することができる。 9) 緩和ケアを受ける患者および家族の意思を尊重する支援には、多様な場における多職種連携が必要であることが説明できる。				
授業概要	この授業は、人がより良く生きること何かを探求しつつ、その人らしい人生の終焉を支援することを前提に、対象となる人や家族を全人的に理解し、基本的緩和ケアの基盤となる考え方、「苦痛の緩和」の看護実践、家族への支援（グリーフケア含む）、具体的なコミュニケーションの取り方について熟考することを重視しながら進める。人が生きることと死に対するイメージ・考え・体験を共有する中で自身の感性を磨き、学生自身がより良く生きる意味を考え、看護職者としての死生観を育む機会にして欲しい。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	緩和ケアとは 基本的緩和ケアと専門的緩和ケア 症状マネジメント①全人的苦痛と疼痛 症状マネジメント②疼痛 症状マネジメント③全身倦怠感 症状マネジメント④呼吸困難 症状マネジメント⑤抑うつとせん妄 終末期における家族・社会的苦痛と支援 基本的緩和ケア：スピリチュアルケア 専門的緩和ケアの実践①がん患者の緩和ケア 専門的緩和ケアの実践②心不全患者の緩和ケア 基本的緩和ケア：コミュニケーション 症状マネジメントとコミュニケーション (グループワーク) 緩和ケアのコミュニケーション① 緩和ケアのコミュニケーション②・まとめ (ロールプレイ)	姫野【講義】 松野【講義】 姫野【講義】 姫野【講義】 松野【講義】 姫野【講義】 松野【講義】 桐明【講義】 松野【講義】 松尾【講義】 中島【講義】 姫野【講義】 姫野・松野【演習】 桐明・河原田・姫野・ 松野・池上・石橋 【演習】	□各回予習：テキストの 該当箇所の熟読 第 1 回 p1-26 第 2 回 p28-54 第 3 回 p58-62 第 4 回 p62-89 第 5 回 p91-95 第 6 回 p114-122 第 7 回 p175-186 第 8 回 p302-311 第 9 回 p220-229 第 11 回 p318-322 第 12-15 回 p234-246 コミュニケーション計画 立案および事後課題レポート	予習 各回 30 ～ 60 分 程度 復習 各回 30 分 程度	
テキスト	宮下光令（編）：ナースング・グラフィカ 成人看護学 (6) 緩和ケア 第 3 版, MC メディカ, 2022 年				
参考書	①鈴木志津枝・内布敦子：成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論 第 2 版, ヌーヴェルヒロカワ, 2022 年 ②恒藤暁・田村恵子編集：系統看護学講座 別巻、緩和ケア 第 3 版、医学書院、2020 年				

成績評価	
方法（割合）	基準
筆記試験（60%） レポート（30%） 受講態度（10%）	到達目標の達成度を、試験問題の正答率で評価する。 到達目標の達成度を、レポート（講義・演習の前・後レポートなど）の記載内容で評価する。 講義・演習などへの主体的学習態度を評価する。
課題（レポート等）に対するフィードバック	授業中にフィードバックし、各自での振り返りを行う。

科目名 ナンバリングコード	高齢者療養生活支援論 NUS2153MN5	必修科目	3 年次 1 学期	講義・演習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 草場 知子				
科目担当者	医学部看護学科 古村 美津代、新 裕紀子				
教員の実務経験	この科目は医療機関で看護師として老年看護の実践経験をもつ教員が担当し、それらの経験を授業に活かしている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の下位目標②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 加齢による心身の変化や健康障害が日常生活に及ぼす影響を理解し、老年期にある対象とその家族に対する看護の実践方法について学ぶ。 到達目標 1) 老年期に起こりやすい健康障害や特徴的な症状について理解し、アセスメントと看護について説明できる。 2) 高齢者がその人らしく生活するために、健康状態の保持・増進、予防に向けた看護援助について説明できる。 3) 認知症高齢者及び家族への支援について理解し、基本的な援助技術について説明できる。 4) 人生の最終段階における高齢者とその家族の意思決定や尊厳を守る支援について考察することができる。 5) 高齢者と家族の生活を支えるための他職種との連携・協働、看護職の役割について説明できる。 6) 事例をもとに高齢者のアクティビティケアや看護計画の立案の視点を理解し、説明できる。				
授業概要	この授業では、老年期にある人の加齢による変化や疾患により生じた健康課題について理解し、高齢者が最期までその人らしく生活できるよう、本人とその家族のもつ力を活かすことのできる看護の方法について学ぶ。さらに、高齢者を支える家族への支援、地域包括ケアシステムにおける保健医療福祉の連携やさまざまな看護の場における看護の果たす役割について学ぶ。授業・演習は、講義資料（印刷配布物）と視聴覚メディアなどを活用し、事例をもとにグループワークや発表を行う。第 14 回では介護経験のある家族を招聘することで、家族支援についてより具体的に学ぶ。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要 時間	
第 1 回	高齢者の清潔・整容・衣生活を支える看護	草場【講義】	・2 年次の生涯発達看護概論及び高齢者生活支援論で学習した内容を踏まえて授業に臨む	各 30分 ～ 60分	
第 2 回	高齢者の褥瘡予防とスキンケア	新 【講義】			
第 3 回	高齢者の排泄を支える看護	新 【講義・演習】			
第 4 回	高齢者の活動と休息を支える看護 1) 睡眠・休息、生活リズム	草場【講義】			
第 5 回	高齢者の活動と休息を支える看護 2) アクティビティケア	草場【講義・演習】			
第 6 回	高齢者の活動と休息を支える看護 3) 歩行・移動の援助、補助具	草場【講義・演習】			
第 7 回	高齢者の食生活を支える看護 1) 脱水・低栄養・摂食嚥下障害	草場【講義】			
第 8 回	高齢者の食生活を支える看護 2) 食事援助の実践	全員【演習】			
第 9 回	高齢者の感染症対策	新 【講義】			
第 10 回	認知症をもつ高齢者の看護	古村【講義】			
第 11 回	1) 認知症看護の基本：アセスメントとケア、コミュニケーション	古村【講義】	・テキストの関連ページを読み、該当項目について予習する		
第 12 回	2) 活用される用法：ユマニチュード・回想法・ライフレビュー	古村【講義】			
第 13 回	3) 認知症高齢者と家族への支援	草場【講義・演習】			
第 14 回	高齢者とその家族の看護 1) 介護家族の理解とアセスメント	草場【講義】			
第 15 回	高齢者とその家族の看護 2) 家族支援	新 【講義】			
第 16 回	高齢者の療養生活の支援	草場【講義】			
第 17 回	1) 薬物療法を受ける高齢者の看護	草場【講義】	・実施した講義・演習内容についてテキストや配布資料で復習する		
第 18 回	2) 外来受診、検査・診察を受ける高齢者の看護	草場【講義】			
第 19 回	3) 入院・手術を受ける高齢者の看護：せん妄の予防と看護	草場【講義】			
第 20 回	4) リハビリテーションを受ける高齢者の看護、退院支援	草場【講義】			
第 21 回	5) 介護保険施設に入居している高齢者の看護、居宅サービスを利用している高齢者の看護	草場【講義】	・第 5・8・14・22 は課題を課す		
第 22 回	高齢者のエンドオブライフケア：意思決定支援、看取りの看護	新 【講義】			
第 23 回	事例：生活・療養の場における高齢者の看護	草場【講義・演習】			
第 24 回	事例：生活・療養の場における高齢者の看護	全員【演習】			
第 25 回	高齢者ケアにおける他職種連携と看護職の役割、まとめ	草場【講義】			

テキスト	堀内ふき，諏訪さゆり，山本恵子：ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害，メディカ出版，2025 堀内ふき，諏訪さゆり，山本恵子：ナーシンググラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践，メディカ出版，2025 水谷信子，水野敏子，高山成子他：最新老年看護学 第3版，日本看護協会出版会，2024（2年次購入）	
参考書	講義の中で紹介する	
成績評価		
方法（割合）	基準	
筆記試験（80%） レポート（20%）	・筆記試験：到達目標1）～5）の達成度を正答率で評価する。 ・レポート：到達目標1）3）6）の達成度を課題の内容について整理し、理解できているか評価する。	
課題（レポート等）に対するフィードバック		レポートは採点後に返却する。

科目名 ナンバリングコード	精神療養生活支援論 NUS2156MN5	必修科目	3 年次 1 学期	講義・演習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 福浦 善友				
科目担当者	医学部看護学科 松島 亜希子 大学病院看護部 山下 真範 大学病院精神神経診療科 坂本 賢治、轟久 裕貴				
教員の実務経験	この科目は精神科の分野における実務経験を有する教員および臨床スタッフが担当し、精神科における実務経験に基づく講義や演習をしている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 精神を病む人および精神的困難を抱える人の特性を身体的・心理的・社会的観点から理解し、対象の立場に立った生活上の問題をとらえ、地域在宅・病院施設等の場に応じたリカバリー、成長、社会的自立を促進するために必要な支援方法について学ぶ。 到達目標 1) 精神科領域における法律や制度が、精神を病む人および精神的困難を抱える人に適用されることの意味について説明できる。 2) 精神を病む人および精神的困難を抱える人の権利および権利擁護を理解し、安全な治療的環境・安全管理について説明できる。 3) 精神疾患の症状、経過について身体的・心理的・社会的観点を踏まえて説明できる。 4) 精神科領域の代表的な治療的アプローチ（薬物療法・精神療法・作業療法・m-ECT 等）が理解でき、看護師の役割について説明できる。 5) 精神を病む人および精神的困難を抱える人の回復過程に応じた看護について説明できる。 6) 精神を病む人および精神的困難を抱える人が活用できる社会資源や多職種連携について説明できる。 7) 精神を病む人および精神的困難を抱える人の家族をアセスメントし、家族支援について説明できる。 8) 精神を病む人および精神的困難を抱える人のセルフケア能力をアセスメントできる。 9) 精神を病む人および精神的困難を抱える人の身体的・心理的・社会的要因の関連を分析し、対象特性を踏まえて対象の気持ちを推察し、看護上の問題とリカバリー・成長・社会的自立を促す支援を説明できる。				
授業概要	テキスト・ビデオ・事例等を使いながら講義を行い、また臨地実習を想定して、事例の対象特性の把握と支援方法について少人数でのグループ学習を取り入れた授業を行う。 授業の理解を確認するため、講義終了時に、講義内容に関する問題を課す。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要 時間	
第 1 回	権利擁護と処遇・安全管理	福浦【講義】	人権擁護と治療的環境	各回 30分	
第 2 回	精神保健福祉法,障害者総合支援法,医療観察法等	福浦【講義】	法律の違いを整理		
第 3 回	精神を病む人および精神的困難を抱える人の症状	福浦【講義】	精神症状と精神疾患		
第 4 回	薬物療法と看護	福浦【講義】	薬物療法		
第 5 回	精神療法と看護	山下【講義】	精神療法		
第 6 回	作業療法	坂本【講義】	作業療法・レクリエーション		
第 7 回	総合失調症患者の看護	福浦【講義】	統合失調症		
第 8 回	睡眠障害と概日リズム	福浦【講義】	睡眠・覚醒		
第 9 回	物質関連障害(アルコール・薬物依存症など)患者の看護	松島【講義】	アルコール・薬物依存		
第 10 回	気分障害(抑うつ障害群・双極性障害等)患者の看護	松島【講義】	気分障害		
第 11 回	強迫性障害患者およびてんかん患者の看護	松島【講義】	強迫性障害・てんかん		
第 12 回	解離性障害患者およびパーソナリティ障害患者の看護	松島【講義】	解離性障害・人格障害		
第 13 回	身体症状症および関連症(変換症等)患者の看護・前半のまとめ	福浦【講義】	身体症状症		
第 14 回	不安障害(社交不安障害・パニック障害等)患者の看護	松島【講義】	不安障害・パニック		
第 15 回	児童・思春期患者の看護	福浦【講義】	発達障害 (ASD・ADHD・SLD)		
第 16 回	特別講義	特別講義講師【講義】			
第 17 回	家族システム・家族療法等	福浦【講義】	家族		
第 18 回	精神保健医療福祉に関する社会資源の活用	轟久【講義】	精神保健福祉士 MHSW		
第 19 回	摂食障害患者の看護	松島【講義】	摂食障害		
第 20 回	リエゾン精神看護	山下【講義】	リエゾン		

第 21・22 回	事例:統合失調症患者の対象特性、セルフケアについて把握、対象の気持ちの推察、看護問題の抽出 精神を病む人および精神的困難を抱える人のリカバリ、ストレングス等の支援	福浦・松島【演習】	社会資源、退院支援、多職種連携、ケアマネジメント 第 1 回～第 7 回、第 17 回、20,21 回で使用した資料、テキストを復習しておく。	各回 30分
第 23 回	ケアマネジメント、社会復帰・社会参加への支援(退院支援)・多職種連携と看護の役割 まとめ	福浦【講義】		
テキスト	遠藤淑美，末安民生編：新版精神看護学、2020、中央法規			
参考書	必要時資料配布 服部祥子：生涯人間発達論第 3 版，医学書院，2021（購入済）			
成績評価				
方法（割合）	基準			
筆記試験（90%） レポート（10%）	到達目標の達成度を正答率で評価する。 対象特性および対象の気持ちを発達段階、健康、生活過程との関連で論述しているのかを評価する。			
課題（レポート等）に対するフィードバック		課題（レポート等）は評価コメントを講義時間内に行う。		

科目名 ナンバリングコード	小児療養生活支援論 NUS2154MN5	必修科目	3 年次 1 学期	講義・演習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 藤好 貴子				
科目担当者	医学部看護学科 益守 かづき、水落 裕美 大学病院看護部 坂田 理絵（新生児集中ケア認定看護師）				
教員の実務経験	この科目は大学病院小児科病棟で看護師として実務経験がある教員が担当し、小児科病棟で看護師として勤務して得た知識・技術を教えている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 子どもの健康問題・障害を理解し、子どもと家族に対する看護援助を実践するための知識と技術を学ぶ。 到達目標 1) 健康問題がある子どもの看護の基本となる概念について説明することができる。 2) 健康問題が子どもと家族に及ぼす影響とその支援について説明することができる。 3) 子どもの安全なケア環境を整えるための支援を説明することができる。 4) 小児看護を実践する際に必要な技術の原理・原則を説明することができる。 5) 子どもの健康状態、成長発達に応じた看護技術実施時の注意事項を説明することができる。 6) 子どもの健康状態、成長発達に応じた家族支援を考察できる。 7) 健康問題をもつ子どもの事例より、子どもの健康状態と背景を分析し、家族を含めた看護計画を立案できる。				
授業概要	授業と授業内のワークを通して、子どもの健康問題と支援の理解を深める。演習においては、子どもとの触れ合いを通して子供の成長発達と家族の生活を分析し、小児看護技術の実践や家族支援の理解へと繋げる。また、事例を基にグループディスカッションを行い、小児の看護計画立案の理解を深める。				
授業計画					
授業回数	授業の内容		担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要 時間
第 1 回	健康障害を持つ子どもの看護		藤好【講義】	【予習】 各授業の前にその内容に関連する教科書を読む。 【復習】 各授業の配布資料、教科書を基に復習。授業内で提示した国家試験の振り返りを行う。 【課題】 第1回（課題①・第17回（課題②）、第19・20回（課題③）で課題を提示する。	課題 予習・復習で 20 分程度。 ① 1 時間、課題② 1 時間、課題③ 2 時間程度の予定。
第 2 回	慢性期にある子どもと家族の看護（循環器疾患：エンパワメント）		益守【講義】		
第 3 回	慢性期にある子どもと家族の看護（免疫・アレルギー疾患：乳幼児期のケア）		藤好【講義】		
第 4 回	慢性期にある子どもと家族の看護（呼吸器疾患：学童期のセルフケア）		藤好【講義】		
第 5 回	地域で生活している健康問題を抱える子どもと家族の看護（外来看護）		益守【講義】		
第 6 回	小児看護技術①（バイタルサイン測定、身体計測）		水落【講義】		
第 7 回	隔離・活動制限が必要な子どもと家族の看護（感染症・腎疾患）		藤好【講義】		
第 8 回	先天的な問題を持つ子どもと家族の看護（染色体異常、代謝・内分泌）		藤好【講義】		
第 9 回	長期療養が必要な子どもと家族の看護（小児がん：薬物療法）		水落【講義】		
第 10 回	小児看護技術②（検査・処置時の看護：検体採取・固定・抑制・鎮静）		水落【講義】		
第 11 回	検査や入院における子どもの力を引き出す支援 （療養環境における遊び・ホスピタルプレイスペシャリストとの協働）		藤好【講義】		
第 12 回	救急処置が必要な子どもと家族への看護（外傷・応急処置：ホームケア）		藤好【講義】		
第 13 回	小児看護技術③ 乳幼児との触れ合い・小児看護技術		藤好・益守・水落【演習】		
第 14 回	低出生体重児の看護		坂田【講義】		
第 15 回	心身障害のある子どもと家族の看護		益守【講義】		
第 16 回	痛みのある子どもと家族の看護（消化器疾患）		藤好【講義】		
第 17 回	周手術期における子どもと家族の看護		水落【講義】		
第 18 回	災害時における子どもと家族の看護、リスクマネジメント		益守【講義】		
第 19 回	事例を活用しての子どもの看護計画の展開（情報収集・アセスメント）		藤好【演習】		
第 20 回	事例を活用しての子どもの看護計画の展開（関連図グループワーク・計画）		藤好・水落【演習】		
第 21 回	エンド オブ ライフケアにおける子どもと家族へのかかわり		藤好【講義】		
第 22 回	子どもと家族の倫理的問題		益守【講義】		
第 23 回	まとめ（乳幼児との触れ合い・看護計画の演習を基にした振り返り）		藤好【講義】		
テキスト	中野綾美編集 ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 中野綾美編集 ナーシング・グラフィカ 小児看護技術 中村友彦編集 ナーシング・グラフィカ 小児の疾患と看護	小児看護学① 小児看護学② 小児看護学③	メディカ出版 メディカ出版 メディカ出版	2024 年 2024 年 2024 年	購入済 購入済 購入済
参考書	講義の中で提示する。				

成績評価	
方法（割合）	基準
筆記試験（80%） 課題（20%）	・到達目標 1 ～ 5 においては、達成度を筆記試験の正答率で評価する。 ・到達目標 2 においては課題①を提示し、子どもと家族の体験や状況が明文化され、考察できていること。 ・到達目標 5・6 においては、課題②を提示し、対象の子どもの発達段階の評価の基、子どもの健康状態・発達段階に応じたかかわり、家族支援について考察ができていること。 ・到達目標 7 においては課題③を提示し、病気の子どもの特性に合わせた、情報収集とアセスメント、看護計画が具体的に提案されていること。問題の抽出においては、グループワークの成果物を評価対象とする。
課題（レポート等）に対するフィードバック	課題は講義終了後採点し、返却する。

科目名 ナンバリングコード	公衆衛生看護活動論 PHN2113MN5	必修科目	3 年次 1 学期	講義・演習	3 単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 佐藤 祐佳				
科目担当者	医学部看護学科 徳澤 麻梨子、小島 一将				
教員の実務経験	企業に保健師として実務に従事し、個人・集団への健康課題に対する支援を通して得た知識・技術を基に、対象（個人・集団）に対する保健活動について教えている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 地域の健康課題を明らかにする方法を理解し、地域の健康課題を抽出し、対象の特性に合わせた保健活動を検討できる。 到達目標 1) 地域の健康課題を明らかにする具体的な方法を説明できる。 2) シュミレーションデータから地域で生活する人の健康、対象者の特性及び環境を情報収集できる。 3) 人々の生活と健康及び地域環境との関連を説明し、課題を整理できる。 4) 精神障害者・障害者と難病患者の特性を踏まえた保健活動について説明できる。 5) 学校保健・産業保健の環境を理解し、対象の特性を踏まえた保健活動について説明できる。				
授業概要	地域看護診断の演習では、実存する市の現状をアセスメントし、地域の健康課題を明らかにする過程を学ぶ。講義終了時に講義内容についての確認テストを行い、確認問題の解説を通して講義の理解を深める。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	地域看護診断の意義・目的	佐藤【講義】	シラバスの確認	15分	
第 2 回	地域看護診断の方法	佐藤【講義】	地域看護診断の目的の復習	15分	
第 3 回	地域看護診断の実際 1；対象の捉え方	佐藤【講義】	地域看護診断の方法の復習	15分	
第 4 回	地域看護診断の実際 2；情報収集	佐藤【講義・演習】	演習内容の確認	15分	
第 5 回	地域看護診断の実際 3；情報収集	佐藤・徳澤・小島 【講義・演習】	実習地の情報収集	30分	
第 6 回	地域看護診断の実際 4；情報の分析（アセスメント）	佐藤・徳澤・小島 【講義・演習】	第 5 回まで完成させる	60分	
第 7 回	地域看護診断の実際 5；情報の分析（アセスメント）	佐藤・徳澤・小島 【講義・演習】	情報の分析を行う	30分	
第 8 回	地域看護診断の実際 6；健康課題抽出	佐藤・徳澤・小島 【講義・演習】	第 7 回まで完成させる	60分	
第 9 回	地域看護診断の実際 7；健康課題の発表と討議	佐藤・徳澤・小島 【講義・演習】	発表のための準備	60分	
第 10 回	地域保健活動の目的，地域組織育成・支援	佐藤【講義】	地域組織育成	20分	
第 11 回	精神保健の課題と支援	小島【講義】	精神保健医療福祉の動向	20分	
第 12 回	精神保健活動の実際；社会復帰に向けた支援	小島【講義】	社会復帰支援	20分	
第 13 回	障害者（児）の健康課題と支援	佐藤【講義】	障害者保健医療福祉の動向	20分	
第 14 回	難病患者の健康課題と支援	佐藤【講義】	難病対策の動向	20分	
第 15 回	児童生徒の発育発達と学校保健	徳澤【講義】	児童生徒の健康課題	20分	
第 16 回	学校保健活動の展開	徳澤【講義】	学校保健活動	20分	
第 17 回	養護教諭の活動の実際 1；健康診断、健康相談、保健指導、感染症予防	徳澤【講義】	健康診断・健康相談	20分	
第 18 回	養護教諭の活動の実際 2；事故防止、保健学習、学校保健委員会、地域の関係機関との連携	徳澤【講義】	学校保健委員会	20分	
第 19 回	産業保健の労働衛生管理体制	佐藤【講義】	労働衛生管理体制	20分	
第 20 回	産業保健活動の健康課題 1；職業性疾病、作業関連疾患	佐藤【講義】	職業性疾病・作業関連疾患	20分	
第 21 回	産業保健活動の健康課題 2；健康管理、メンタルヘルス	佐藤【講義】	健康管理・メンタルヘルス	20分	
第 22 回	産業保健活動の健康課題 3；過重労働、地域連携	佐藤【講義】	地域連携	20分	
第 23 回	特別講義	特別講義講師 【講義】			

テキスト	中谷芳美 他編 標準保健師講座 3 公衆衛生看護活動 第 5 版 医学書院 2024（2 年次購入済）	
参考書	上野昌江 和泉京子 編 公衆衛生看護学 第 4 版 中央法規 2025 佐伯和子 編 地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド 第 2 版 医歯薬出版株式会社 2018	
成績評価		
方法（割合）	基準	
筆記試験（70％） レポート（30％）	到達目標 1) 4) 5) の達成度を正答率で評価する。 到達目標 2) 3) 地域看護診断の情報を収集し健康に関連する要因を整理し、対象の特性を考察できているか評価する。	
課題（レポート等）に対するフィードバック		レポートは、採点后返却を行い講義時間内にて解説を行う。

科目名 ナンバリングコード	地域・在宅療養生活支援実習 NUS3461MN5	必修科目	3 年次 2 学期	実習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 渡邊 理恵				
科目担当者	医学部看護学科 山下 寛子、森永 朗子、その他実習指導者				
教員の実務経験	総合病院にて 5 年勤務、訪問看護ステーションにて（高齢者・小児）1 7 年勤務 病院での急性期の治療に伴う看護の経験と地域・在宅看護の経験を関連付けながら、実習指導を行っている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の②看護の現象に関心を持ち解決に向けて取り組むことを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 地域で健康障害をもちながら生活する人々および家族を理解し、対象者への在宅看護活動展開に関する基本的な知識、技術、態度を習得する。 2) 地域・在宅看護の支援の実際と社会制度を関連づけて理解し、地域包括ケアシステムにおける訪問看護ステーション及び看護職の役割について理解することができる。 到達目標 1) 在宅療養者の健康問題と生活および療養環境を関連づけてとらえ、実際の援助活動を通して看護の役割について述べるができる。 2) 在宅療養者の健康問題を総合的にとらえ、行われている個別性に応じた具体的な援助方法の根拠を説明し、一部実施することができる。 3) 訪問看護ステーションの運営・機能・役割および在宅療養を支えるための社会制度とその活用方法について説明することができる。 4) 地域包括ケアシステムにおける関連機関・関連職種との連携の実際を学び、連携の必要性および看護師の果たす役割について説明することができる。 5) 看護実践の場が、療養者と家族の「生活の場」であることを認識して、身だしなみを整え、礼儀をわきまえ、誠実な態度で実習に臨むことができる。				
授業概要	看護の対象を生活者として捉え、一人の受け持ち療養者に対して個別性のある在宅の看護過程を展開する。さらに複数の在宅療養者の訪問看護に同行し、対象者の多様性に合わせた多様な支援のあり方について理解を深める。これらの体験を通して学んだ多職種連携のあり方、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割について言語化し発表することで、多様な施設における体験に裏付けられた学びを共有する。				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容		準備学習（予習・復習等）		必要時間
2025年9月～ 2026年3月 2週間(90時間) /1グループ 訪問看護 ステーション	1) 実習初日；オリエンテーション、実習目標の確認、事前学習（GW） 2) 施設実習 期間：6～7 日間（実習初日・最終日及び祭日を除く） 時間：8：30～16：00（実習施設により異なる） 〔内容〕 初日：施設オリエンテーション、訪問看護師同行開始 ①受け持ち療養者の看護過程の展開 ②訪問看護師の療養者に関する支援（訪問、連絡調整、ケア会議等）の見学 ③訪問看護ステーションの管理・運営・役割に関する調査 ④訪問看護師からの実務者の指導助言 3) 実習最終日 ①発表会：実習施設の特性・地域包括ケアシステムにおける看護職の役割・行った看護の振り返りについて発表する。 ②まとめ：記録整理・課題レポート作成 指示された実習終了時間に記録物一式提出		①これまでの地域・在宅看護に関する講義の内容を復習し、在宅療養を支える法律や制度について理解して臨む。 ②講義で事例で展開した看護過程の演習課題を持参し、在宅の看護過程について理解して臨む。 ③さらに受け持ち療養者の疾患に関する必要な日常生活援助、診療の補助に関して予習して実践のイメージをして臨む		実習事例の訪問前の計画、訪問後の記録など1日2時間程度
テキスト	なし				
参考書	押川真喜子 監修 写真でわかる訪問看護 アドバンス初版 （株）インターメディカ 2016 年 正野逸子・本田彰子 編 関連図で理解する 在宅看護課程 第1版 （株）メヂカルフレンド社 2015 年				
成績評価					
方法（割合）	基準				
実習内容（70％） 実習態度（30％）	到達目標1) 2) 3) 4) の達成度の評価：実習記録（様式3～14）を評価項目5点で評価する 到達目標2) 5) の達成度の評価：看護計画に基づいた看護の一部実施、看護学生としての態度、実習における学ぶ姿勢、体験した現象に対してさらに深く理解しようとする意欲を示し文献学習するなどの意欲を15項目各2点で、臨床指導者と教員の協議の上で評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		実習中に事前学習の理解を事例を通して確認する。			

科目名 ナンバリングコード	クリティカルケア実習 NUS3462MN5	必修科目	3 年次 2 学期	実習	3 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 崎浜 智子				
科目担当者	医学部看護学科 孫田 千恵、池上 明由美、石橋 秋奈、専任教員、その他実習指導者				
教員の実務経験	急性期病棟での看護師の実務経験を基盤とした実習指導を展開している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の②看護の現象に関心を持ち解決に向けて取り組むことを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目的 急性の経過をたどる対象を全人的に理解し、生命の危機状態から回復に向けた生活を支援するための看護実践能力を修得する。 到達目標 1) 生命の危機状態にある人（成人・老年期）や家族へのケアに必要な態度を身につけることができる。 2) 対象（成人・老年期）の発達課題をふまえた急激な健康状態の悪化について説明することができる。 ①ゴードンのデータベース（11 項目）を用いて情報収集とアセスメントが記述できる。 ②関連図と看護問題を描写できる。 ③②を用いてチームカンファレンスでより良い看護展開について検討できる。 ④受け持ち患者の個別性を考慮した看護計画（OP/CP/EP）を立案できる。 3) 急激な健康状態の悪化による生体反応を理解し、回復に向けた看護を実践・評価・修正できる。 4) 対象（成人・老年期）と家族がどのように危機的状態について受け止めているかを理解し、不安の緩和に向けた援助を実践・評価・修正することができる。 5) 身体機能の変化や喪失が生活様式に及ぼす影響について理解し、対象（成人・老年期）および家族が受容するための方策を検討できる。 6) 危機的状況にある対象（成人・老年期）へのチーム医療と保健医療福祉の連携について説明できる。				
授業概要	久留米大学病院のクリティカルケア領域（SICU、高度救命救急センター、手術室、中央滅菌材料部、周手術期病棟など）において、3 週間の臨地実習を行う。生命の危機状態にある人や家族（主に周術期）を対象に手術を受ける患者を受け持ち、看護過程を用いて看護を展開する病棟やSICUでの実習（6－7 日）を中心に、指導看護師と共に高度救命救急センターにおける看護実践（2 日）を経験するほか、手術室（1 日）や中央滅菌材料室（半日）の見学実習を取り入れている。臨床指導者とともに急性期看護論およびその他既習の知識や理論を用いて患者を全人的に捉え、頭におよび潜在する問題に対して予測的な視点と科学的根拠に基づいた看護を実践し、評価・修正を経験することで客観的思考を育む。また、看護学生は、看護チームの一員として責任を持った行動が求められる。				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容 ※詳細は「臨地実習要項」「クリティカルケア実習要項」参照		準備学習（予習・復習等）	必要時間	
2025年9月～ 2026年3月 3週間(135時間) /1グループ 久留米大学病院 ・急性期病棟 ・サージカルICU ・手術室 ・中央滅菌材料部 ・救命救急センター	1. 実習スケジュール 1日目:実習オリエンテーション、病棟オリエンテーション 2日目以降:病棟または救命センターでの実習 2. 実習方法 1) 原則として患者 1 名を受け持ち、看護師や教員、実務者である看護師からの指導を受け看護過程を展開する。 2) 立案した計画の中で学生が行える看護を明確にし、看護師および教員の指導を受けながら実践する。 3) チームケアに参画し、必要な支援を得ながら看護を実施し、適切に報告・連絡・相談する。 4) 日々の実習を振り返るカンファレンスでは、指導看護師などに同席して頂き、積極的に自身の意見を発言し、メンバーの意見を聴き問題解決を行う。 5) 実務者が行っているカンファレンスに参加し、チーム医療の在り方について学ぶ。		1) 生活援助技術Ⅰ、Ⅱ、診療に伴う援助技術の既習の学習内容を復習し、学内において看護技術を積極的に習熟して臨むこと。 2) 受け持ち患者に対する経過記録を毎日記載し、翌日の計画を立案して臨むこと。	□毎日の経過記録60分程度 □翌日の計画立案30分程度 □必要に応じて、受け持ち患者ケアに付随する病態生理、看護技術の学習、あるいは看護過程の展開作成に60分程度	
テキスト	1) 林直子、佐藤まゆみ（編）：急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 南江堂 改定第4版 2023 年 2) 佐藤まゆみ、林直子（編）：急性期看護Ⅱ 救急看護 南江堂 改訂第4版 2023 年 3) 野崎真奈美 他（編）：成人看護技術 南江堂 2022 年 4) 医療情報科学研究所：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア 2021 年				
参考書	系統看護学講座 成人看護学 2呼吸器、3循環器、5消化器、7脳・神経、11アレルギー・膠原病・感染症、医学書院 購入済				

成績評価	
方法（割合）	基準
総括評価	1) 日々の学習（実習）活動や実習記録・レポートなどのポートフォリオ、カンファレンスなどを通して総括評価とする。 2) 実習目標（内容）に対する到達度評価とする。
課題（記録物等）に対するフィードバック 実習評価票に対するフィードバック 隣地実習ポートフォリオに対するフィードバック	・原則日々の実習記録を確認し時期を得たフィードバックを行う。 ・必要に応じて看護過程の展開方法や記録について個別指導を行う。 ・実習評価票に基づき中間・最終評価についてフィードバックする。 ・隣地実習ポートフォリオに基づき、看護技術の習得状況と学生の強みと弱み（課題）を明確化し、キャリア支援につなげる。

科目名 ナンバリングコード	慢性期・回復期支援実習 NUS3463MN5	必修科目	3 年次 2 学期	実習	4 単位	
科目責任者	医学部看護学科 教授 桐明 あゆみ					
科目担当者	医学部看護学科 河原田 康貴、姫野 深雪、松野 史、その他実習指導者					
教員の実務経験	本科目は総合病院、がん専門病院、大学病院で実務経験を有する教員が担当しており、慢性期病棟で看護師として勤務して得た知識や技術を教えている。					
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の②看護の現象に関心を持ち解決に向けて取り組むことを目指している。					
教育目標 到達目標	教育目標 慢性疾患をもつ対象を全人的に理解し、対象の回復とセルフマネジメントを促進する看護実践に必要な知識・技術・態度を習得する。 到達目標 1) 慢性疾患を持つ対象の身体・心理・社会的側面について全人的にアセスメントできる。 2) 看護上の問題に対し、個別的な看護目標・計画を立案できる。 3) 対象および家族の価値観を尊重し、協同関係を築くことができる。 4) 慢性疾患を持つ対象の自己管理を促す援助が実践できる。 5) 慢性疾患を持つ対象の生活の再構築に向けた援助が実践できる。 6) 保健医療福祉の連携と社会資源活用の必要性について述べられる。 7) 看護に対する自己の考えを明確にすることができる。					
授業概要	久留米大学医療センターと久留米大学病院で、慢性疾患の治療・診断期から、病状が安定し自宅を含む次の療養の場への移行期にある対象に看護過程を展開します。対象の自己管理や生活の再構築を目指した看護実践に取り組み、自己の看護に対する考えを深めましょう。また、対象者を取り巻く社会資源にも目を向け、保健・医療・福祉の連携について学び、広い視野を身に付けます。					
授業計画						
実習期間・場所		実習内容		準備学習（予習・復習等）		必要時間
2025年9月～ 2026年3月 4週間（180時間） /1グループ ・久留米大学 医療センター ・久留米大学病院 慢性期病棟 ・外来 ・医療連携センター		1. 実習スケジュール 1 日目：実習オリエンテーション 2 日目に降：第1週目は久留米大学医療センター、第2・3 週目は久留米大学病院で病棟実習、第4 週目は久留米大学病院医療連携センターと外来で実習を行い、最後の2 日で報告会の準備と発表、実習のまとめを行う。 2. 実習方法 1) 原則として患者1 名を受け持ち、看護師や教員の指導のもと、看護過程を展開する。 2) 医療連携実習では、医療連携センターのスタッフをシャドーイングする。また、退院後の生活を見据えた支援の事例発表を行う。 3) 外来実習では、外来の看護師のシャドーイング、または外来患者との関わりを持ち、外来看護の役割を学ぶ。 4) 各自で事例に対する看護実践を振り返りレポートを記述し、自己の看護に対する考えを明確にする。 5) 実習まとめの報告会では、慢性期看護の学びを共有し検討する。		1) クリティカルケア看護論、慢性期・回復期看護論、終末期・緩和ケア看護論、回復期援助技術、フィジカルアセスメント技術、看護過程Ⅰ、Ⅱ、健康教育方法論、家族看護論の学習内容を十分に復習して臨んで下さい。 2) 生活援助技術Ⅰ、Ⅱ、診療に伴う援助技術の既修の学習内容を復習し、学内において看護技術を積極的に習熟して臨んで下さい。 3) 配置病棟ごとに具体的な事前課題を課しますので、事前学習をしたうえで実習に臨んでください。		毎日の経過記録60分程度 翌日の看護計画30分程度
テキスト		鈴木久美、簗持知恵子、佐藤直美：慢性期看護、改訂第4 版、南江堂 2023 年 購入済 酒井郁子、金城利雄、深堀浩樹：リハビリテーション看護改訂第3 版 南江堂 2021 年 購入済 宮下光令 ナーシンググラフィカ成人看護学 緩和ケア 第3 版 メディカ出版 2022 年 購入済 野崎真奈美ほか：成人看護学 成人看護技術、改訂第3 版、南江堂 2023 年 購入済				
参考書		鈴木志津枝・内布敦子：成人看護学、緩和・ターミナルケア看護論、第2 版 ノーヴェルヒロカワ				
成績評価						
方法（割合）		基準				
実習内容（80％） 実習態度（20％）		1) 実習目標（内容）に対する到達度を、実習記録などから評価とする。到達度は、自己評価をふまえて評価する。 2) 看護学生としての態度、実習における学ぶ姿勢などにより評価する。 ＊ただし、出席3／4以上に満たないものは評価対象とならない。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		提出された実習記録は、各担当教員が添削後フィードバックする。				

科目名 ナンバリングコード	精神療養生活支援実習 NUS3467MN5	必修科目	3 年次 2 学期	実習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 福浦 善友				
科目担当者	医学部看護学科 松島 亜希子、その他実習指導者				
教員の実務経験	この科目は専門分野における臨床での実務経験を有する教員が担当している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の②看護の現象に関心を持ち解決に向けて取り組むことを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 精神療養生活支援論で学習した知識・技術・態度を統合して、精神に障害のある人および家族を理解し個別的な看護が実践できる能力を身につける。 到達目標 1) 精神の障害をもつことについて述べるができる。 2) 対人関係の重要性を認識し、自己理解を深めることができる。 3) 受け持ち患者の看護過程が展開できる。 4) 主な精神科治療とその目的が説明でき、看護師の役割・機能について説明できる。 5) 精神科での事故防止の対策について説明できる。 6) 精神科外来を受診する患者の特殊性を述べるができる。 7) デイケアでのスタッフの役割と機能がについて説明できる。				
授業概要	受け持ち患者の看護過程を展開する。外来やデイケア、精神科におけるさまざまな治療法に参加し、看護師の役割について考える。				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容		準備学習（予習・復習等）		必要時間
2025年9月8日～ 2026年2月27日 2週間(90時間) /1グループ ・久留米大学病院 ・のぞえの丘病院	1) 事例を受け持ち、看護過程を展開する。 2) 1 週目は看護計画立案、2 週目は実施・評価し、修正する。 3) 日常生活の援助プログラムの他、各種ミーティングに参加する。 4) プロセスレコードにより、看護場面を再構成し、評価する。 5) 外来実習では、通院患者の状況を査定し、看護師の役割を理解する。 6) デイケアでは、プログラムに参加し、メンバーとの交流をもち、援助について考える。 7) 実習先で実務者の指導を得る。		実習1～2日目:情報収集 アセスメント 実習 3日目:問題関連図 実習 5日目:看護計画 実習 6日目:プロセスレコード 実習10日目:実習記録まとめ 授業の資料から統合失調症、うつ病の症状や治療、薬物療養、精神療法、作業療法、退院支援、精神保健福祉法における看護師の役割について復習しておく。		毎日 2時間 程度
テキスト	こころの生涯発達(1年次)、精神療養生活支援論で使用したテキスト、プリント類				
参考書	1) 武田克彦・山下光 編；神経心理検査ベーシック改訂 2 版 中外医学社 2023 2) 姫井昭男著；精神科の薬がわかる本第 5 版 医学書院 2024				
成績評価					
方法（割合）	基準				
実習内容（80%） 実習態度（20%）	情報収集・アセスメント、問題関連図、看護計画、毎日の計画、経過記録、プロセスレコード、外来・デイケア実習、治療と看護、患者との関わりに関して、実践力を総合的に評価する。 時間・規則の厳守、言葉づかい、身だしなみ、提出物の期限の厳守、自主性、報告・連絡・相談、カンファレンスに臨む態度から評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	実習課題 提出された課題に対しては、個別指導を行っている。				

科目名 ナンバリングコード	母子健康支援実習 NUS3466MN5	必修科目	3 年次 2 学期	実習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 田中 佳代				
科目担当者	医学部看護学科 加藤 陽子、永田 真理子、岡村 光子、竹藤 徳子、松本 くらら、その他実習指導者				
教員の実務経験	総合周産期母子医療センターで助産師として実務した経験を活かし、実習に関わる教育を実施している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の②看護の現象に関心を持ち解決に向けて取り組むことを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 妊娠・分娩・産褥期および新生児期にある母子とその家族の身体的、心理・社会的特性を理解し、健康の保持増進と役割の獲得ができるための看護実践能力を修得する。 到達目標 1) 妊娠・分娩・産褥期および新生児期における対象を全人的にとらえ、その特性を説明できる。 2) Wellness の視点から対象の看護上の問題を把握・アセスメントし、問題解決のための援助方法を考え、実践に向けて取り組むことができる。 3) 母子とその家族に対する保健医療福祉活動チームの中での看護の役割を認識し、連携及び調整のあり方を説明できる。 4) 自己の看護実践や体験した看護の実際をとおして、母子とその家族に対する看護のあり方について考察し、説明できる。				
授業概要	外来での妊婦健診、新生児のケア、産褥期の母子の観察とケアをとおして、妊娠・分娩・産褥期および新生児期における対象を全人的にとらえ、その特性を理解する。母子とその家族に対する看護実践は、主に褥婦に対する一連の看護過程の展開を通して取り組む。ハイリスク妊娠・分娩が多くを占める総合周産期母子医療センターでの実習を通して、NICU や地域連携の必要性やあり方を学ぶ。さらに週に 1 回、実習で遭遇した母子とその家族の看護に関わるテーマでのカンファレンスを、事前準備を行ったうえでグループメンバーと討議し、周産期における母性看護のあり方について考察を深める。				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容		準備学習（予習・復習等）		必要時間
2025年9月～ 2026年3月 2週間（90時間） /1グループ 久留米大学病院 ・総合周産期母子医療センター産科・不妊部門 ・産科外来	1. 実習スケジュール 1 日目：実習オリエンテーション、看護技術演習 2 日目以降：A・B グループに分かれて、褥室と新生児室 / 外来に分かれて実習する。実習期間中に分娩があった場合は、見学を実施する。 2. 実習方法 久留米大学病院総合周産期母子医療センター産科・不妊部門、産科外来で、実務者の指導を得て 2 週間の実習を行う。 1) 妊産褥婦を対象に、学生 2 名で 1 事例を 1 週間程度受け持ち、看護過程を展開し、看護実践を行う。 2) 新生児を対象に、1 週間程度、新生児の胎外生活適応・生理的变化に関わる観察・看護実践（清潔ケアや哺乳など）を行う。 3) 産科外来において 1 日、妊婦健診・保健指導の見学・実践、妊婦との関わりをとおして、妊婦の状況を把握し、看護上の問題点を考える。 4) 分娩見学または DVD 学習によって、その産婦及び家族にとっての分娩の意味を考える。 5) 実習で遭遇した母子とその家族の看護に関わるテーマでのカンファレンスを、事前準備を行い、グループメンバーと討議し、周産期における母性看護のあり方について考察を深める。		1) 妊産褥婦、新生児の身体的・心理社会的特性について、講義資料を基に予習を行い、実習に臨む。 2) 実習で実践する看護技術を技術チェックリストで確認し、予習を行い、実習に臨む。 3) 受け持ち事例への毎日の看護目標・計画、新生児・妊婦に対する毎日の学習目標を立案し、それを基に実践した看護を毎日記載し、翌日の目標設定に繋げる。		毎日の記録60分程度 翌日の看護計画に30分程度 必要に応じて、受け持ち患者ケアに付随する病態生理看護技術の学習、看護過程の展開作成に60分程度
テキスト	森恵美他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論、医学書院、2021（母子健康支援論でも使用）				
参考書	医療情報科学研究所編：病気がみえる V01.10 産科 第4版、メディックメディア、2018 北川眞理子編：看護実践のための根拠がわかる 母性看護技術 第3版、メヂカルフレンド社、2022				
成績評価					
方法（割合）	基準				
実習内容（80%） 実習態度（20%）	到達目標の達成度の評価について、日々の看護の実施状況、実習記録等により評価する。 看護学生としての態度、実習における学ぶ姿勢等により評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		提出された記録・課題に対して、個別指導を行う。			

科目名 ナンバリングコード	小児療養生活支援実習 NUS3465MN5		必修科目	3 年次 2 学期	実習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 益守 かづき					
科目担当者	医学部看護学科 藤好 貴子、水落 裕美、その他実習指導者					
教員の実務経験	この科目は専門分野における子ども専門病院での看護師としての実務経験を有する教員が担当し、病棟・外来看護師として勤務した中で得た知識、技術を教えている。					
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の②看護の現象に関心を持ち解決に向けて取り組むことができることを目指している。					
教育目標 到達目標	教育目標 発達過程にある子どもをひとりの人間として統合的にとらえ、社会の一員としての子どもと家族の健康ニーズを把握し、健康レベルに応じた最善な看護を実施するために、必要な知識・技術・態度を修得する。 到達目標 1) 成長発達の視点から子どもをアセスメントできる。 2) 健康問題を抱える子どもの全体像（病態生理、身体的精神的社会的問題、治療などを含む）を説明できる。 3) 健康問題を抱える子どもの看護上の問題点、問題解決のための援助方法を説明できる。 4) 様々な状況下にいる子どもの健康レベルに応じた支援、子どもの発達やセルフケア向上のための支援を説明できる。 5) 子どもの権利を尊重した看護、小児看護の役割を説明できる。 6) 小児看護における倫理的問題について倫理原則などを活用して検討することができる。					
授業概要	保健所、外来、NICU/GCU、病棟での実習を通して、様々な健康レベルにある子どもと関わり、対象理解を深める。病棟では一人の子どもを担当し、講義で学習したことを参考にしながら、子どもや家族への看護を考え、看護師とともに実践を行う。					
授業計画						
実習期間・場所		実習内容			準備学習(予習・復習等)	必要時間
2025年9月～ 2026年3月 2週間(90時間) /1グループ ・久留米大学病院 小児科病棟 小児科外来 NICU/GCU ・わんぱく保育園		1. 実習スケジュール 1日目 実習オリエンテーション、病棟オリエンテーション、看護技術演習 2日目～A・Bグループに分かれて、病棟とNICU/GCU・外来・保育園で実習する 2. 実習方法 1) 病棟実習：1名の子どもを受け持ち、看護師の指導のもと看護過程を展開する。 ・入院加療が必要な子どもの特性や家族の状況をアセスメントし、看護上の問題点を抽出する。 ・セルフケアの向上や発達への支援を基盤に看護介入を実施する。 2) 保育所実習：保育士の指導のもと、1日子どもの保育に関わる。 3) NICU・GCU 実習：先天性疾患を抱える児への看護、低出生体重児への看護の実際を見学するとともに、看護師の指導のもとGCUで子どもへの看護（哺乳や清潔ケアなど）を実施する。 4) 小児科外来実習：処置や診察場面などでの看護の実際を見学するとともに、看護師の指導のもと計測・処置場面での子どもへの看護を実施する。 5) 実習最終日：学内にて「子どもの権利を尊重する看護」について討議する。小児看護の役割について記述する。			1) 実習を通して、子どもの最善の利益、子どもの権利を遵守する看護とは何かを考えること 2) 病気の子どもの体験していることを考えること 3) 子どもや家族が医療に参加する（セルフケア、自律尊重、意思決定）とはどのようなことなのかを考えること 4) 自分の体調管理を行いながら、実習に関する予習復習をすること。 5) 看護技術に関する予習は必須とする。	実習後 4時間 /日程度 週末・祝日 5時間 /日程度
テキスト	中野綾美編集 ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学① メディカ出版 2024 年 購入済 中野綾美編集 ナーシング・グラフィカ 小児看護技術 小児看護学② メディカ出版 2024 年 購入済 中村友彦編集 ナーシング・グラフィカ 小児の疾患と看護 小児看護学③ メディカ出版 2024 年 購入済 「こころの生涯発達」「生涯発達看護概論」「疾病治療論小児疾患」等で使用したテキスト、配布資料					
参考書	医療情報科学研究所編：病気がみえる VOL.10 産科、医学書院 購入済					
成績評価						
方法（割合）		基準				
到達目標への達成度（80%） 実習への取り組み・態度（20%）		・到達目標を査定するための評価票（ルーブリック評価）を活用し、ポイント化し評価する。（病棟実習、保育所実習・NICU/GCU・外来実習、学内日の課題） ・日々の記録物や実習場所ごとの提出物より、実習内容が具体的に目的に沿って明文化されているか、対象理解や状況理解を深め、看護が検討されているかなどを評価する。 ・課題への取り組み状況、カンファレンスへの参加状況を参考に、取り組みや態度を評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック			記録へのコメント、実習最終日に個別指導を行う。			

科目名 ナンバリングコード	地域・高齢者生活支援実習 NUS3464MN5	必修科目	3 年次 2 学期	実習	3 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 古村 美津代				
科目担当者	医学部看護学科 草場 知子、新 裕紀子、その他実習指導者				
教員の実務経験	この科目は医療機関において看護師として老年看護の実務経験をもつ教員が担当し、実務経験に基づき老年看護の知識・技術を教授している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP5 の他職種と連携・協働し、看護の役割を発展させることが出来る能力の 2 多様なニーズに対応するために看護職及び多職種と連携協働する必要性が分かることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 老年期にある対象の特性を理解し、高齢者とその家族のその人らしい生活の実現に向けた看護を実践するための基礎的能力を養う。 到達目標 1) 介護保険施設で生活している高齢者及び家族の健康課題や生活機能をとらえ、個別性に応じた看護を展開できる。 2) 高齢者及びその家族の支援に向けた多職種連携・協働について理解し、看護の役割について説明できる。 3) 高齢者との関わりを通し倫理的課題について考え、基本的態度を身につけることができる。 4) 豊かな人生を経てきた高齢者とのかかわりを通して、自己の老年観を説明することができる。 5) 地域で生活する高齢者とその家族の健康課題に応じた地域包括ケアについて説明できる。				
授業概要	高齢者の暮らしが多様化する中、高齢者一人一人の人生を受け止め、高齢者とその家族が、健康を維持・回復・増進し、最期までその人らしくよりよく生きる・生活する支援について学ぶ。さらに実習の中で高齢者の倫理的課題について考察し、看護職者として高齢者の尊厳を守る老年看護について学ぶ。				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容		準備学習（予習・復習等）	必要時間	
2025年9月～ 2026年3月 3週間（135時間） ・介護老人保健施設 または介護老人福祉施設 ・デイケアまたは デイサービスセンター ・生涯学習センター ・地域包括支援センター	1. スケジュール 1 日目～学内演習 オリエンテーション 2 日目～介護老人福祉施設または介護老人保健施設の施設実習（デイケア又はデイサービス実習 2 日、生涯学習センター 1 日、地域包括支援センター 1 日の実習を含む） 最終日 学内演習 実習のまとめ 2. 実習方法 1) 施設実習では 1 名の高齢者を受け持ち、教員・看護師の指導のもと情報収集、情報の整理・分析より健康課題を明らかにする。健康課題に対して、強みを活かしその人らしく生活できる看護を展開する。 2) 看護技術の習得の学習は、原則として事前学習を行い看護師が実践している場面を見学から始め、その後、水準レベルに応じて技術の習得していく。（予定外の看護技術の見学については、見学後に自己学習を行う） 3) デイケアまたはデイサービス実習では、在宅療養中の要支援・要介護者の支援について学ぶ。 4) 日々のカンファレンスでは、施設指導者に同席してもらい、助言をいただく。 5) 生涯学習センターの実習では、サークル活動に参加して地域の高齢者との交流を通し、高齢者の社会参加について学ぶ。 6) 地域包括ケアシステムにおける地域包括支援センターの役割及び各専門職の役割について学ぶ。 7) 最終日は学内でまとめを実施する。実習グループごとに学修成果（3 週間の学び・高齢者の尊厳を守るケア・老年観等）を発表し、全体討議を行う。		・老年期の発達課題、高齢者の身体・心理・社会的特徴、認知機能の障害と行動心理症状および認知症高齢者の看護、介護保険の仕組みとサービス、高齢者の生活援助技術、アクティビティケアの意義、自己の老年観について予習を行い実習に臨む。 ・受け持ち高齢者に対する経過記録を毎日記録し、翌日の計画を立案して臨む。 ・受け持ち高齢者の病態生理、看護技術の事前学習及び復習	毎日の経過記録60分程度、翌日の計画立案30分程度。 受け持ち高齢者の病態生理、看護技術の事前学習各60分程度。	
テキスト	これまでの講義で使用したテキスト・資料および参考書を十分に活用する。				
参考書	新たな課題・学習内容については、文献等を活用すること。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
実習内容（80％）	実習内容：看護の実践状況、記録より評価する。				
実習態度（20％）	実習態度：カンファレンスの参加状況、実習に対する積極性、連絡・報告・相談の状況等を評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		提出された実習記録は添削後、フィードバックする。			

科目名 ナンバリングコード	研究Ⅱ NUS2182MN5	必修科目	3 年次 1 学期	講義	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 益守 かづき				
科目担当者	医学部看護学科 梶 勇三郎				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験（大学にて研究活動）を有する教員が担当し、研究活動で得た知識、技術を教えている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の②看護の現象に関心を持ち解決に向けて取り組むことができることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 看護における研究の位置づけを理解し、実践の問題を解決する基礎的研究能力を養う。 2) 看護研究における倫理を理解し、看護研究のプロセスに関する知識を習得する。 3) 既存の研究論文を分析的に読み、批判的に思考する方法を習得する。 到達目標 1) 看護における研究の位置づけが説明できる。 2) 看護研究プロセスを説明できる。 3) 看護研究における倫理について説明できる。 4) 看護研究の代表的なデザインを説明できる。 5) データ分析方法を説明できる。 6) 批判的に文献を検討する方法を説明できる。				
授業概要	授業と授業内のワークを通して、看護研究の意味や研究方法の概論、研究倫理についての理解を深める。授業内のワークを通して、看護研究のプロセスを理解し、研究Ⅲの学習に繋げる。また、研究論文を分析的に読み、研究の内容について検討し、臨地での疑問の解決への活用を考察する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	看護研究とは 看護研究の動向・研究と実践の関係 看護研究プロセス 看護研究における倫理 質的研究方法の概要 質的研究の論文を読む 質的研究：研究方法（対象者の選定、面接方法、依頼方法など） 質的研究：データ分析、結果の公表 量的研究方法の概要 量的研究の論文を読む 量的研究:研究方法（対象者の選定、尺度検討、調査項目検討など）、分析方法、結果の公表 質的研究の論文を批判的に読む 量的研究の論文を批判的に読む 研究計画書作成の基礎知識 研究計画書作成（1） 研究計画書作成（2）	益守【講義】 益守【講義】 益守【講義】 益守【講義】 益守【講義】 益守【講義】 益守【講義】 梶【講義】 益守【講義】 梶【講義】 益守【講義】 益守【講義】 益守【講義】 益守【講義】 益守【講義】	【復習】 各授業の配布資料、教科書を基に復習。 【課題】 課題1は第2回 課題2は第4～7回11回、課題3は第9・10回12回、課題4は第14・15回に取り組む	復習で 20分程度 課題1 1時間程度、 課題2～4は 講義時間内に実施	
テキスト	南裕子編集：看護における研究 第2版 日本看護協会出版会 2016年				
参考書	講義の中で提示する				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（60%） 課題（40%）	・到達目標1）～5）においては、達成度を筆記試験の正答率で評価する。 ・到達目標2）～5）においては課題1～3を提示する。課題への取り組み状況をポイント化して評価する。 課題1：提示した方法を用いて関心領域の原著または研究論文を選択する。 課題2/3：論文（質的研究・量的研究）を読み、文献カードとしてまとめ、批判的に分析する（論理性、一貫性、独自性、研究の意義との関連性などの視点で考察すること）。 ・到達目標6）においては、課題4を提示し、作成された研究計画書（研究背景、研究目的、研究意義、研究方法）を評価対象とする。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		課題は講義終了後採点し、返却する。			

科目名 ナンバリングコード	看護学概論Ⅱ NUS3175MN7	必修科目	4 年次 1 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 講師 前野 里子				
科目担当者	医学部看護学科 加悦 美恵、恒松 佳代子				
教員の実務経験	本科目を担当する教員は、大学病院や一般総合病院で看護師として実務経験があり、看護の理論的および実践的アプローチや看護師に求められる役割について教授する。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の②看護の現象に関心を持ち解決に向けて取り組むことを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 臨地実習で得た経験と学んだ看護理論を総合的に理解し、看護の独自性および専門性を踏まえ、複雑な看護現象に対して理論的かつ実践的なアプローチを主体的に探求する力を育成する。 2) 保健医療福祉分野における社会的課題を多角的に探究し、それが患者および地域社会の健康に与える影響を理解することで、看護師としての役割と自己の課題を明確にし、社会に貢献する姿勢を育てる。 到達目標 1) 主要な看護理論（ペプロウ、オレム、ワトソン、レイニンガー、ニューマン、ベナーなど）の概念とその背景を理解し説明できる。 2) 看護理論を具体的な看護場面に適用し、実際の看護にどのように活かせるかを論理的に分析できる。 3) 各看護理論を批判的に評価し、理論が看護実践に与える影響や活用について考察し、自分の意見を述べるができる。 4) 現代社会における社会的課題（高齢化、格差社会、医療費の増大など）が保健医療福祉分野にどのように影響を与えるかについて、具体例を挙げて説明できる。 5) 社会的課題に対応する看護師の役割について理解し、自己の成長に向けた課題を明確にすることができる。				
授業概要	本科目では、臨地実習の経験や看護理論をもとにグループで課題に取り組み、発表会を行う。看護理論の応用に加え、社会的課題が保健医療福祉に与える影響や看護師の役割についてもグループで課題に取り組む。発表後は、他者の発表内容を踏まえてディスカッションを行い、学んだことを反映したレポートを作成する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容		担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間
第1回	看護メタパラダイム、看護の問題解決に向けた探求方法		前野【講義】	看護理論の概要 初回提示される学習 課題に取り組みグ ループで学習できる よう準備して参加する。	60 分
第2回	看護理論の歴史と動向、諸理論の概要、理論の分析方法		前野【演習】		60 分
第3回	看護実践の考察		前野【演習】		60 分
第4・5回	看護実践の考察		全員【演習】		60 分
第6回	全体発表会		前野【演習】		60 分
第7・8回	社会的課題の考察		全員【演習】		60 分
第7・8回	全体発表会		全員【演習】		60 分
テキスト	その都度、資料を配布する。				
参考書	F・ナイチンゲール著、湯楨ます他訳：看護覚え書、現代社（購入済） V・ヘンダーソン著、湯楨ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会（購入済） 簡美 真優美 編：看護理論家の業績と理論評価、医学書院、2 版、2020				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（50%） レポート（50%）	到達目標1)の達成度を正答率で評価する。 到達目標2)～5)について、レポートにて評価する。評価の基準は別に示す(ルーブリック評価表)。				
課題（レポート等）に対するフィードバック			提出された課題は評価後に返却する。		

科目名 ナンバリングコード	公衆衛生看護技術演習 PHN3214MN8	選択科目	4 年次 1 学期	講義・演習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 佐藤 祐佳				
科目担当者	医学部看護学科 重松 由佳子、梶 勇三郎、徳澤 麻梨子、小島 一将				
教員の実務経験	企業・医療機関に保健師・看護師として実務に従事し、個人・集団への健康課題に対する支援を通して得た知識・技術を基に、対象に対する支援技術を教えている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 健康教育・保健指導のグループ演習で、健康に影響する諸要因を情報収集・分析し、看護の立場から健康課題や問題を抽出し、解決方法を考え、対象の特性を踏まえた支援を実践できる。 到達目標 1) 健康教育事例の地域及び対象の特性をふまえた健康教育計画を立案できる。 2) 健康教育事例の健康教育計画をふまえ、対象の反応に合わせて健康教育を実施できる。 3) 保健指導事例の生活背景と健康状態の関連を分析し、事例の特性を踏まえた支援計画を立案できる。 4) 保健指導事例の支援計画をふまえ、対象のニーズを判断しながら支援できる。 5) 実践した保健指導・健康教育について、支援場面を振り返り、目標を評価できる。 6) 対象の特性に応じた保健指導・健康教育の教材をパソコンで作成できる。 7) グループ学習を通して、多様な意見を取り入れ、対象者のニーズに合った支援を他者と検討できる。				
授業概要	グループ学習を中心として、自己評価・他者評価を活用して、主体的に学びあえる授業形態としている。演習の目標については、事前にルーブリック評価を提示することで求められていることを明確にしている。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回 第 16 回 第 17 回 第 18 回 第 19 回 第 20 回 第 21 回 第 22 回 第 23 回	健康教育1；対象集団の理解 健康教育2；テーマに関連する社会的・医学的根拠の理解 健康教育3；企画書・実施案の立案 健康教育4；企画書・実施案の立案 健康教育5；シナリオおよび媒体の作成 健康教育6；シナリオおよび媒体の作成 健康教育7；プレリハーサルの実施 健康教育8；デモストレーションの実施（発表） 健康教育9；デモストレーションの実施（発表） 特定保健指導1；対象の分析 特定保健指導2；保健指導計画の立案 特定保健指導3；保健指導計画の立案 特定保健指導4；保健指導計画の立案 特定保健指導5；保健指導ロールプレイ（発表） 特定保健指導6；保健指導ロールプレイ（発表） 特定保健指導7；保健指導ロールプレイ（発表） 乳児保健指導（訪問）1；対象の分析 乳児保健指導（訪問）2；保健指導計画の立案 乳児保健指導（訪問）3；保健指導計画の立案 乳児保健指導（訪問）4；保健指導計画の立案 乳児保健指導（訪問）5；保健指導ロールプレイ（発表） 乳児保健指導（訪問）6；保健指導ロールプレイ（発表） 乳児保健指導（訪問）7；保健指導ロールプレイ（発表）	科目責任者・ 科目担当者全員 【講義・演習】	第1～9回 対象に健康教育の実施を行うために個人・グループにて予習を行う 第10～23回 対象の状況を検討し理解を深めるために個人・グループにて予習を行う	各30分 ただし 発表前 は90分	
テキスト	保健指導で高血圧パラドックスの解消へ 東京医学社 2020 年， 地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド 第2版 医歯薬出版株式会社 2018				
参考書	こどもノート・からだノート ウェルクル				
成績評価					
方法（割合）	基準				
発表内容（50%） レポート（30%） 学習態度（20%）	到達目標1）～6）の達成度を初回に提示した健康教育・保健指導のルーブリックを活用して評価を行う。 達成目標7）の達成度は、自己評価・学生同士での他者評価・教員評価をあわせて評価を行う。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		課題（レポート等）は、コメントを講義時間内に返却する。			

科目名 ナンバリングコード	公衆衛生看護管理演習 PHN3216MN8	選択科目	4 年次 1 学期	講義・演習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 重松 由佳子				
科目担当者	医学部看護学科 佐藤 祐佳、梶 勇三郎、徳澤 麻梨子、小畠 一将				
教員の実務経験	行政保健師として地域の特性に応じた保健活動・保健事業の計画立案に従事した教員が担当し、公衆衛生看護管理の視点での支援を教授する。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP5 の他職種と連携・協働し、看護の役割を発展させることができる能力の①看護職および他職種の機能・役割及び関係を構築する方法を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 地域で生活する人々の健康と生活を維持・向上するために保健師が担う公衆衛生看護管理の視点で支援を検討できる。 2) 地域看護診断を通して、健康に影響する諸要因を情報収集・分析し、看護の立場から健康課題を抽出し、健康課題の背景や地域に及ぼす影響を予測する能力を身につけ、地区管理の実際を学ぶ。 到達目標 1) 地域ケアシステムを担う地域組織の育成に向けた保健師の役割を説明できる。 2) 健康危機管理体制の整備や、健康危機の発生時・回復期における保健師の役割を説明できる。 3) 既存の資料や地区踏査から地域の健康課題の分析に必要な情報を収集できる。 4) 地域の健康に影響を与えている要因と要因間の関連及び導き出した地域の健康課題を説明できる。 5) 健康課題の優先性を考え、抽出した健康課題の背景や対処力の分析、地域へ及ぼす影響の予測ができる。 6) 地域看護診断を適切な資料を用いて、わかりやすくプレゼンテーションすることができる。				
授業概要	グループ学習を中心として、自己評価・他者評価を活用して、主体的に学びあえる学習形態としている。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回 第 16 回 第 17 回 第 18 回 第 19 回 第 20 回 第 21 回 第 22 回 第 23 回	地域組織の育成 1；事例検討 地域組織の育成 2；発表 健康危機管理 1；事例検討 健康危機管理 2；発表 実習地の地域看護診断 1；地域の情報整理 実習地の地域看護診断 2；地域の情報整理 実習地の地域看護診断 3；情報の統合と分析 実習地の地域看護診断 4；情報の統合と分析 実習地の地域看護診断 5；健康課題の把握 実習地の地域看護診断 6；健康課題の把握 実習地の地域看護診断 7；地区踏査 実習地の地域看護診断 8；地区踏査 実習地の地域看護診断 9；地区踏査 実習地の地域看護診断 10；地区踏査 実習地の地域看護診断 11；地区踏査 実習地の地域看護診断 12；健康課題の抽出・分析 実習地の地域看護診断 13；健康課題の抽出・分析 実習地の地域看護診断 14；健康課題の構造化 実習地の地域看護診断 15；健康課題の構造化 実習地の地域看護診断 16；プレゼンテーション資料作成 実習地の地域看護診断 17；プレゼンテーション資料作成 実習地の地域看護診断 18；地域看護診断発表会 準備 実習地の地域看護診断 19；地域看護診断発表会	科目責任者・ 科目担当者全員 【講義・演習】	第 1・2 回 地域組織育成の意義・目的 第 3・4 回 防災・災害時の保健師活動 第 5～23 回 地域看護診断の意義・目的・手順 実習地の現状を理解するために個人・グループにて予習を行う。	各 60 分 発表前 は 90 分	
テキスト	地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド 第 2 版 医歯薬出版株式会社 2018				
参考書	平野かよ子編：最新保健学講座 5 公衆衛生看護管理論 メヂカルフレンド社 2011				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
事例検討レポート (10%) 地域診断レポート (40%) 発表内容 (30%) 学習態度 (20%)	到達目標 1)・2) はレポートや発表内容を踏まえて評価を行う。 到達目標 3)～6) の達成度を地域看護診断のルーブリックを活用して評価を行う。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック		課題 (レポート等) は、コメントを講義時間内に返却する。			

科目名 ナンバリングコード	保健医療福祉政策演習 PHN3217MN8	選択科目	4 年次 1 学期	演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 梶 勇三郎				
科目担当者	医学部看護学科 重松 由佳子、佐藤 祐佳、徳澤 麻梨子、小島 一将				
教員の実務経験	この科目は公衆衛生の業務経験を有する教員が担当している。また、公衆衛生の業務経験を活かした実践的な演習をしている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP5 の他職種と連携・協働し、看護の役割を発展させることができる能力の①看護職及び他職種の機能・役割及び関係を構築する方法を理解することができることを目指している。また、DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の①既習の知識に新たな知識を取り入れ看護の現象を理解することを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 地域の健康課題に対する国や県の取り組んでいる方向性、そして各実習先市町村の方針・施策・既存事業を確認し必要と考えられる事業が提言できる。また、事業提言を通して、プレゼンテーション能力およびコメント等への対応能力を高める。 到達目標 1) 健康課題に対する国や県の方針が説明できる。 2) 健康課題に対する実習先市町村の方針・施策・既存事業について説明できる。 3) 健康課題に関連した必要な事業の企画検討ができる。 4) プレゼンテーションは論理的な順序や説得力のある内容・スライドで構成され、聴衆は発表内容を容易に理解できる。 5) プレゼンテーションには信頼性のある根拠のある資料を正しく引用できる。 6) プレゼンテーションでは聴衆の反応を見ながら、適切な声量やスピードで発表できる。 7) プレゼンテーションに対する質問の意味を正確に把握して、質問者や聴衆にわかりやすくて的確に応答できる。 8) 1) ～ 7) の到達目標達成に向けてグループメンバーは意見交換やディスカッションを行い公平に役割分担し、互いに敬意を払い尊重し助け合うことができる。				
授業概要	公衆衛生看護管理演習で取り組んだ実習先市町村の健康課題に対して、グループワークを取り入れ、課題に関するプレゼンテーションを行う。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回	健康課題に対する国や県の方針、市町村の総合計画の確認	全員【演習】	健康日本 21 等	60分	
第 2 回	健康課題に関連した個別計画の確認	全員【演習】	データヘルス計画等	60分	
第 3 回	地区踏査を通した健康課題の検討	全員【演習】	地区踏査、ヒアリング結果	60分	
第 4 回	健康課題に関連した既存事業の内容や進捗・成果の確認	全員【演習】	行政評価等	60分	
第 5 回	健康課題に関連した必要な事業の企画検討	全員【演習】	健康づくり取組の好事例	60分	
第 6 回	プレゼンテーションの準備	全員【演習】	スライド資料の作り方 発表練習	60分	
第 7 回	事業提言のプレゼンテーション	全員【演習】	想定問答の準備	60分	
テキスト	なし				
参考書	厚生労働省 国民健康保険における予防・健康づくりに関する調査分析事業 予防・健康づくりの取組の好事例集 各自治体の行政評価およびデータヘルス計画、健康増進計画、介護保険事業計画等の各種計画				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
発表内容 (70%) 学習態度 (30%)	到達目標の1)～8)について、発表内容、学習態度をルーブリックで評価を行う。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック		質問やプレゼンテーションに関しては講義時間内にコメントする。			

科目名 ナンバリングコード	看護統合実習 NUS4468MN7	必修科目	4年次 1学期	実習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 加藤 陽子				
科目担当者	医学部看護学科 佐藤 祐佳、柊 勇三郎、恒松 佳代子、草場 知子、河原田 康貴、姫野 深雪、福浦 善友、渡邊 理恵、藤好 貴子、孫田 千恵、徳澤 麻梨子、前野 里子、水落 裕美、三次 貴大、永田 真理子、新 裕紀子、岡村 光子、松島 亜希子、山下 寛子、池上 明由美、山田 泰子、石橋 秋奈、小島 一将、森永 朗子、竹藤 徳子、松野 史、松本 くらら、専任教員、その他実習指導者				
教員の実務経験	この科目は、専門分野における看護師としての実務経験を有する教員が担当し、実務経験に基づき実習指導を行っている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の②看護の現象に関心を持ち解決に向けて取り組むことを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 複数の患者を受け持ち、看護チームの一員として看護師が果たす役割を実践し、保健・医療・福祉活動における看護師の役割や、看護マネジメントについて学ぶ。 到達目標 1) 看護体制を理解し、看護チームの一員としての看護を実践できる。 2) 看護倫理に基づき患者や家族のニーズに応じた看護を実践できる。 3) 看護実践における記録の重要性を理解し、記述できる。 4) 臨床における医療安全管理と看護管理について説明できる。 5) 保健医療福祉活動チームにおける、健康上の問題解決のための包括的アプローチとサポートシステムについて説明できる。 6) 看護者としての自己の課題を明確にし、記述できる。				
授業概要	2週間の実習を通し、複数の患者を受け持ち、看護チームの一員として役割をとりながら、管理者（師長・主任）の役割や他職種との連携についても主体的に学習する。				
授業計画					
実習期間・場所		実習内容	準備学習（予習・復習等）		必要時間
2025年6月9日（月）～ 2025年6月20日（金） 2週間（90時間） 久留米大学病院 久留米大学医療センター		1) 病棟の指導者と病棟管理者にアポイントを取り、実習内容について計画する。 2) 複数の患者を受け持ち、看護を実践する。 3) 管理者（師長・主任）について医療安全管理や看護管理について学習する。 4) 保健医療福祉のチームカンファレンスなどに参加し、看護師の役割について学習する。 5) ポートフォリオの4年間の記録をまとめ、自己の成長と課題を記述する。	1) 総合実習は、4年間のまとめとしての実習になる。3年次までのポートフォリオを振り返り、自己の課題を明らかにして、課題克服のため積極的かつ主体的に実習に臨む。 2) 看護管理実習における貴重な体験が、より効果的な学習につながるよう、看護管理の科目を選択し、事前学習を深める。 3) 学生生活最終の実習がより充実した実習になるように総合実習の目的・目標を熟読し、準備学習、既習の看護技術の復習を行い臨む。 4) 実習病棟の指導看護師との事前打ち合わせによって明らかになった課題に取り組んでおく。		毎日の経過記録60分程度 翌日の計画立案30分程度 受け持ち患者の病態、治療、看護計画立案、看護技術の学習を含め60分程度
テキスト	指定したテキストなし				
参考書	実習内容を充実させるために、今まで活用した教科書や講義時の配布資料などを活用すること。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
実習内容（80%） 実習態度（20%）	教育目標／到達目標への到達度をポイント化し、評価する。 実習中の態度、カンファレンスへの参加度などにより評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック			記録物は返却しないが、学生と実習内容を振り返る。		

科目名 ナンバリングコード	公衆衛生看護実習 PHN3418MN8	選択科目	4 年次	実習	5 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 重松 由佳子				
科目担当者	医学部看護学科 佐藤 祐佳、梶 勇三郎、徳澤 麻梨子、小畠 一将、その他実習指導者				
教員の実務経験	行政機関・企業・学校で公衆衛生看護活動に従事している保健師、および行政保健師として保健活動・関係者との協働・保健事業の計画立案、産業保健師として産業保健活動、養護教諭として学校保健に従事した教員が担当し、実践的な公衆衛生看護活動について指導助言し実践力を培う。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP5 の他職種と連携・協働し、看護の役割を発展させることができる能力の②多様なニーズに対応するために看護職及び多職種と連携協働する必要性が分かることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 地域（職域、学校含む）で生活する人々（個人・家族・集団・組織・地域）への公衆衛生看護活動を通して、地域の関係者と連携協働して公衆衛生看護活動を担っている保健師の役割・機能について考察する。 2) 公衆衛生看護活動を展開するための基本的な知識、技術、態度を習得する。 到達目標 1) 公衆衛生看護活動が展開される場（行政、職域、学校等）の特性を把握し、行政機関・法人・民間施設の位置づけ、役割、機能について説明できる。 2) 各事業（活動）について、事業の意義および、企画から評価までの過程を説明できる。 3) 健康問題の解決にむけた仕組みを理解し、社会資源の活用・開発、システム化・事業化・施策化の具体的な展開とその展開における保健師の役割について説明できる。 4) 人々の健康に影響している要因を分析し、潜在的・顕在的健康課題を抽出し、地域の特性をいかした保健活動を提案できる。 5) 生活する対象（個人・集団）を統合的に理解し、対象の健康に影響を与えている要因を分析し保健指導を実施できる。 6) 地域の健康増進能力の向上にむけて、保健師が地域の人々や関係者・関係機関等と協働する意義と活動、及び協働における保健師の役割について説明できる。 7) 地域の健康危機管理体制の整備及び健康危機発生時・回復期の保健師の活動について説明できる。 8) 常に実習態度を自己洞察・評価し、その評価をいかした行動ができる。				
授業概要	保健所と市町村、学校、企業にて、グループ単位で実習し、対象や各組織の特性をふまえた保健師活動について学ぶ。なお、実習内容に応じて、個人とグループでのワークを組み合わせ、学習効果を高める。				
授業計画					
実習期間	実習内容		準備学習（予習・復習等）	必要時間	
2025年6月～11月 5週間（225時間）	実習展開方法：人数：1施設2～4名 1) 実習施設 ①保健所、市町村 ②上記①以外の施設；企業・学校等。 2) 学内実習 ①施設実習前：学内オリエンテーション、健康教育指導案作成、地区踏査、地域看護診断、事業の事前学習 ②実習最終日：総括（グループワーク・プレゼンテーション） 3) 実習施設実習内容 ①対象の健康課題の調査・分析（地域看護診断） ②動への参加・理解 ③保健活動の実施（保健指導・家庭訪問・健康教育等） ④健康をまもるしくみづくり・協働活動への参加・理解 実務者からの指導助言を含む 4) 実習時間：原則、当該実習施設の執務時間に準ずる。		実習計画表に基づき、日々の保健事業について事前学習をして臨む。 毎日の具体的目標を前日に記録に記載して実習に臨む。日々のカンファレンスで課題になったことはその日の内に復習する。	その日のうちに問題解決できるよう予習・復習合わせて毎日1時間程度行う。	
テキスト	こどもノート・からだノート ウェルクル 2025				
参考書	1・2・3・4年次に地域看護関連科目で使用したテキスト				
成績評価					
方法（割合）	基準				
実習到達度（100%）	到達目標1)～7)について実習記録様式1～13、健康教育フォーム、地域看護診断関連資料からルーブリック評価を行う(60%) 実習目標について実習態度からルーブリック評価を行う(40%)				
課題（レポート等）に対するフィードバック		記録物は施設実習の作成経過時にその都度フィードバックする。 記録提出後は原則返却しない（大学側で焼却）。			

科目名 ナンバリングコード	研究Ⅲ THE4791MN7	必修科目	4 年次 1 学期・2 学期	講義・演習	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 田中 佳代				
科目担当者	医学部看護学科 重松 由佳子、古村 美津代、嵯峨 堅、加悦 美恵、崎浜 智子、桐明 あゆみ、佐藤 祐佳、梶 勇三郎、加藤 陽子、恒松 佳代子、松本 悠貴、草場 知子、河原田 康貴、姫野 深雪、福浦 善友、渡邊 理恵、藤好 貴子、孫田 千恵、前野 里子、徳澤 麻梨子、水落 裕美、三次 貴大、永田 真理子、新 裕紀子				
教員の実務経験	この科目は医療職者として実務した経験、研究実践を踏まえ、看護研究における一連のプロセスを指導している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の③看護の本質に向けて問題を解決しようとする態度を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 看護現象の振り返り・文献検討から、研究課題及び研究意義を検討する。 2) 研究プロセスを通して、科学的思考力や分析力を養い、問題解決能力を習得する。 3) 看護研究を実施することで倫理的な配慮の具体的方法について理解する。 4) 看護研究の成果発表により、研究成果の看護実践への反映を考える。 到達目標 1) 看護現象・先行文献から研究テーマを焦点化し、研究目的とその意義を明確化することができる。 2) 研究目的を明らかにできる研究計画を立てることができる。 3) 研究計画に基づき、倫理的配慮を行い、データを収集することができる。 4) 得られたデータを分析し、研究目的に沿って結果をまとめることができる。 5) 結果に基づき、既存の文献を活用して論理的に考察できる。 6) 研究論文としてまとめ、成果をどのように看護に反映していくかも踏まえて発表することができる。				
授業概要	研究Ⅰ、研究Ⅱで学んだ知識を基に、自らの研究テーマに関わる学習、文献講読を十分行ったうえで解決すべき看護上の問題を見出し、研究テーマを焦点化する。研究テーマにおける研究の意義・目的を明確化し、それを明らかにできる研究対象・方法を含んだ研究計画書を指導教員の支援を受けて作成し、計画書に沿って一連の研究を実践する。得られたデータは量的・質的分析を行い、文献を活用して考察を深め、論文にまとめ、研究成果を効果的にプレゼンテーションする。研究Ⅲのまとめでは、一連の研究プロセスを振り返り、看護の発展に向けて、今回の学びをどのように反映させることができるか考える。				
授業計画					
授業の内容		担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
1. ガイダンス 研究Ⅲの取り組みについて説明（研究テーマ・希望教員の提出） 2. 指導教員決定・研究Ⅲ要項配布 3. 指導教員による指導 研究テーマに関わる学習・文献講読を行い、テーマを焦点化する 指導教員と連絡を密にとり、日時を調整し、ゼミ形式や個別指導等で、一連の研究プロセスについての指導を受ける 4. 論文作成・発表・論文提出 1) 論文作成に関する説明 2) 卒業論文発表会に関する説明 論文題目の提出 抄録の印刷と提出 3) 卒業論文発表会 パワーポイントを用い、口演発表 4) 論文提出 5. 研究Ⅲの振り返り・まとめ		田中【講義】 田中【講義】 担当者全員【演習】 田中【講義】 田中【講義】 担当者全員【演習】 田中【講義】	研究Ⅰ、研究Ⅱを十分に復習し、研究テーマに関わる学習、文献検索・講読を行い、取り組む。	自分自身の理解度に応じて必要十分な時間をとること。	
テキスト	必要時、資料を配布する。各指導教員の紹介によるテキストを適宜、活用すること。				
参考書	南裕子編集：看護における研究，第2版，日本看護協会出版会，2017（研究Ⅰにて購入済） 横山美江編：よくわかる看護研究の進め方・まとめ方 第3版 医歯薬出版株式会社，2017				
成績評価					
方法（割合）		基準			
研究計画（40%） 研究論文（20%） 研究発表（20%） 態度（研究計画書作成、データ収集等の積極性など）（20%）		到達目標の達成度の評価：評価方法（割合）を基準に研究プロセスを通して総合的に評価する。 態度：一連の研究プロセスに対する積極的な態度、学ぶ姿勢、期限の遵守等により評価する。			
課題（レポート等）に対するフィードバック		研究プロセスにおいて指導教員より個々にコメントを行う。			

科目名 ナンバリングコード	看護管理 NUS3172MN7	必修科目	4 年次 1 学期	講義	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 崎浜 智子				
科目担当者	大学病院看護部 山本 都江（臨床看護教授）、川野 佐由里、四方田 暁美（臨床看護講師） 大学病院医療安全管理部 林 ゆかり				
教員の実務経験	本科目は大学病院での看護管理者の実務経験を基盤とした授業を展開している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の①看護を実践する基本的な知識を身につけることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 看護の対象となる人々に安全で良質な医療・看護サービスを効率的・効果的に提供するために必要な看護管理の基本的考え方と、看護組織と管理や医療・看護分野におけるマネジメントの実践について学ぶ。自律し協働する専門職の看護をマネジメントする基礎的能力を養う。 到達目標 1) 看護管理を学ぶ意義と看護管理学の基本的考え方について説明できる。 2) マネジメントの基本的考え方とマネジメントプロセスについて説明できる。 3) 看護組織と管理の実践について説明できる。 4) 医療関連施設における医療安全管理や感染予防管理の実践について説明できる。 5) 看護管理と関連する医療政策および関連法規について説明できる。 6) これからの医療・看護を担う自律した専門職としてのマネジメントのあり方と役割について考察できる。				
授業概要	看護サービスへの多方面からのニーズは多様化・複雑化しており、看護職への期待と社会的役割は拡大している。この科目では、看護を取り巻く諸制度や施策を理解し、看護の対象となる人々に安全で良質な看護サービスを効率的・効果的に提供するために看護組織が担う役割や看護管理システムについて理解する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要 時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回	1) 看護管理の基礎 2) 看護職のキャリア開発と自己管理 3) 看護管理の実際①『看護組織における看護管理』 組織・人材資源管理・リーダーシップ、医療経済と看護サービス管理、労務管理、情報管理、看護倫理、 4) 看護管理の実際②『病棟における看護管理』 医療チームと看護の役割、目標管理、業務改善、物品管理、人財育成 5) 看護管理の実際③『医療安全と看護管理』 インシデントレポートと事故防止対策、ヒューマンエラーの対策、多職種連携による組織的な取り組み事例 6) 看護管理の実際④『感染予防・管理と看護管理』 7) 医療政策および関連法規と看護管理 8) マネジメント	崎浜 【講義】 崎浜 【講義】 山本 【講義】 四方田【講義】 林 【講義】 川野 【講義】 崎浜 【講義】 崎浜 【講義】	事前学習として、「Key ワード検索」のエクササイズ（事前課題）を 5 回提示する。	毎回：予習 45分・復習 15分	
テキスト	手島恵／藤本幸三編集：看護管理学、改訂第 3 版、南江堂、2023				
参考書	必要時紹介する。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
試験（60%） レポート（30%） 態度（10%）	・到達目標 1) 2) 3) 4) 5) 達成度を定期試験の正答率で評価する ・到達目標 6) レポートをポイント化して評価する（20%） 事前課題（準備学習）をポイント化して評価する（10%） ・講義への主体的学習態度を評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		事前課題は対象の講義開始前に返却する。			

科目名 ナンバリングコード	看護総合演習 NUS1287MN7	必修科目	4 年次 2 学期	演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 古村 美津代				
科目担当者	医学部看護学科 崎浜 智子、桐明 あゆみ、佐藤 祐佳、梶 勇三郎、加藤 陽子、恒松 佳代子、草場 知子、河原田 康貴、姫野 深雪、福浦 善友、渡邊 理恵、藤好 貴子、孫田 千恵、徳澤 麻梨子、前野 里子、水落 裕美、三次 貴大、永田 真理子、新 裕紀子、岡村 光子、松島 亜希子、山下 寛子、山田 泰子、池上 亜由美、森永 朗子、石橋 秋奈、小島 一将、竹藤 徳子、松野 史、松本 くらら、谷口 慎一、その他演習指導者				
教員の実務経験	この科目は専門分野における実務経験を有する教員が担当し、実務経験に基づき演習指導を行っている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の②看護の現象に関心を持ち解決に向けて取り組むことを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 これまでの学習を統合し、自己の看護実践力の向上に向けて取り組む。 到達目標 1) 侵襲を伴う看護技術について、根拠に基づき安全かつ正確に実施できる。 2) 患者の状態をアセスメントし、状態に応じて判断し行動できる。 3) 看護実践力の自己の課題を考察できる。				
授業概要	看護技術は、実際の医療現場に近い環境を準備し、タスクトレーニングを行う。シミュレーション教育ではチームで事例について事前学習をし、課題について考え、実践し、振り返り、臨床判断能力を育成する。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	1. 内容 1) 看護技術 (2 日間) 2 人ペアになり実践する 採血、注射 (静脈注射・筋肉内注射、皮下注射、点滴の作成、接続、点滴ポンプの管理、酸素療法、吸引、排尿留置カテーテルの管理など) 2) シミュレーション教育 (2 日間) 看護チーム (6 人 1 組) で取り組む ①周手術期患者の看護 事例：胃切術後患者の看護 ②慢性期・回復期患者の看護 事例：うつ血性心不全患者の看護と退院時指導 3) 試験 (半日) 個人でのシミュレーションを実施し、評価を受ける	専任教員 久留米大学病院 看護部 【演習】	1) 看護技術の手技を Nursing Skillsの視聴し確認する。 2) 技術項目に関する学習および技術練習を行う。 (実習室を利用できる) 3) シミュレーションの事前学習：事前に配布された事例を読み、病態、治療、求められる看護ケアについて考える。 4) 振り返り：毎回、実施した技術内容の振り返りをレポートし、ポートフォリオに綴じていく。	演習前後 60 分	
テキスト	これまで学習したテキスト、資料を用いる。参考資料を配布する。				
参考書	ナーシングスキル (Web) : https://nursingskills.jp/				
成績評価					
方法 (割合)	基準				
演習への参加 (50%) レポート (20%) 試験 (30%)	レポート、試験 (演習) の点数で評価する。演習における学ぶ姿勢等により評価する。				
課題 (レポート等) に対するフィードバック		課題や技術内容に関しては、毎回フィードバックを行う。			

科目名 ナンバリングコード	がん看護学 NUS3173MN8	選択科目	4 年次 1 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 桐明 あゆみ				
科目担当者	医学部看護学科 姫野 深雪、松野 史 大学病院看護部 副枝 恵美（臨床看護講師・がん看護専門看護師） 大学病院看護部 原 美穂（がん看護専門看護師）				
教員の実務経験	科目担当者は、がん看護専門看護師としての経験を有し、がん看護専門看護師としての経験を基に高度な知識、技術を教えている。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP3 の看護学の専門的知識・技術・態度を身につけ、実践することができる能力の②必要な技術を判断し、実践・評価するための思考力を備えることを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 1) 最新のがん治療と看護について学習し、がん患者と家族に対する理解を深め、心身の苦痛や苦悩に対する援助方法について学ぶ。 2) がん患者の看護における倫理的課題と看護師の果たす役割について学ぶ。 到達目標 1) がん看護に関する概念・理論について説明できる。 2) がん治療を受ける患者の看護について、具体的な援助方法を述べるができる。 3) 発達段階におけるがん患者の特徴と援助について述べるができる。 4) がん看護における倫理的課題を考察できる。 5) 倫理的課題の解決のための看護師の役割について述べるができる。				
授業概要	最新のがん治療とがん看護について、文献や講義で学びます。また、がん医療における倫理的課題と看護師の果たす役割について、グループワークをします。これらを通して、がんの療養の過程に沿って生じる困難な状況に寄り添い、解決するがん看護実践力の基礎を身に付けます。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習 (予習・復習等)	必要時間	
第 1 回	がん看護の概念 がんの病態とがん医療の動向、がん患者の特徴、がん看護に適用される理論とモデル（自己効力 症状マネジメント）	桐明【講義】	1) 予習 テキストの該当箇所を熟読する。第 7 回と第 8 回は、事例を示すので各自で倫理的課題を分析してから演習に参加する。 2) 復習 講義資料の振り返り	毎回 30 分	
第 2 回	最新のがん治療と症状マネジメント 1 薬物療法（分子標的薬治療含む）	姫野【講義】			
第 3 回	最新のがん治療と症状マネジメント 2 放射線療法（粒子線治療含む）	副枝【講義】			
第 4 回	発達段階におけるがん看護 1 AYA 世代の特徴と援助、多職種によるチームアプローチと家族支援	姫野【講義】			
第 5 回	発達段階におけるがん看護 2 成人期がん患者と老年期がん患者の特徴と援助、就労支援、療養の場の移行支援 家族支援	桐明【講義】			
第 6 回	がん看護における倫理的課題と看護師の役割	原 【講義】			
第 7・8 回	倫理カンファレンス演習 事例に対する倫理的課題の分析と支援方法の検討	桐明・姫野・松野【演習】			
テキスト	特定のテキストは使用しない。				
参考書	小松浩子、中根 実 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 2022				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（80％） 演習評価（20％）	到達目標 1) ～ 3) への達成度は、試験問題に対する正答率で評価する。 到達目標 4) 5) の達成度は、演習における発表内容と課題レポートの記述内容を得点化し、評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		課題レポートについては、評価後にコメントを付記してフィードバックする。			

科目名 ナンバリングコード	多職種連携教育 NUS3276MN7		必修科目	4 年次 1 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 古村 美津代					
科目担当者	医学部看護学科 姫野 深雪、渡邊 理恵、藤好 貴子、新 裕紀子、松島 亜希子 がん集学治療センター 長主 祥子 医療センター医療連携推進室 丸山 紀子 大学病院看護部 物部 千穂、西村 知子、平塚 奈希 大学病院精神神経診療科 轟久 裕貴					
教員の実務経験	この科目は医療機関において多職種連携における実務経験を有する教員が担当し、実務経験に基づき講義や演習を行っている。					
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP5 の他職種と連携・協働し、看護の役割を発展させることが出来る能力の下位目標 1「看護職及び他職種の機能・役割及び関係を構築する方法を理解することができる」ことを目指している。					
教育目標 到達目標	教育目標 1) 保健・医療・福祉の動向を踏まえ、多職種連携の重要性と看護職の果たす役割について学ぶ。 2) 多職種連携に必要なコンピテンシーについて理解する。 到達目標 1) 多職種連携の現状と課題について考察できる。 2) 保健・医療・福祉の動向を踏まえ多職種連携の重要性を説明できる。 3) 多職種連携における専門職それぞれの役割と看護職の役割について記述できる。 4) 多職種連携において必要なコンピテンシーについて説明できる。					
授業概要	少子高齢化、在院日数の短縮などにより地域包括ケアシステムが進む中、様々な専門職がそれぞれの専門性を活かし、対象者の共有した目標に向けて連携・協働する多職種連携が重要である。多職種連携を進めていくには、自らと異なる専門職の専門性を理解し、お互いに尊重し合い連携・協働することが求められる。本授業では、事例のグループワークによる協同学習で様々な専門職の役割の理解とともに看護職者が果たす役割について考えていく。					
授業計画						
授業回数	授業の内容		担当者等	準備学習（予習・復習等）		必要時間
第 1 回	多職種連携の現状と課題(協同学習) GW・発表		古村・姫野・藤好・新・松島 【演習】	第 1 回：臨地実習を振り返り、多職種連携の現状と課題 レポート提出①		毎回 予習 60 分
第 2 回 第 3 回	地域社会の動向と多職種連携の重要性 医看合同グループワーク(協同学習)		古村【講義】 古村・姫野・藤好・新・松島 【演習】	第 2 回：他職種の役割 第 3 回：事例について病態生理や退院調整に関連する社会資源について予習する。		
第 4 回	多職種連携において必要なコンピテンシー		古村【講義】	第 4 回：職種連携において必要なコンピテンシーについて		
第 5・6 回	第 5・6 回事例(成人・老人・精神・小児)についてグループワーク(協同学習)		古村・姫野・藤好・新・松島 【演習】	第 5・6 回：事例の情報の分析、他職種の役割、看護師の役割情報分析用紙は授業終了後提出②		
第 7・8 回	発表とまとめ(各事例)		長主・丸山・西村・物部・平塚・栗屋昌樹(久留米地域支援センター)・轟久・渡邊(訪問看護師の立場)・姫野・渡邊・藤好・新・松島・古村【演習】	第 8 回：「多職種の連携と看護職の役割」レポート提出		
テキスト	必要時、資料を配布する。事例検討の際、必要な教科書・参考書、資料・文献等を持参し参考にする。					
参考書	篠田道子：多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル 医学書院 2022					
成績評価						
方法（割合）		基準				
筆記試験（70%） 受講態度・レポート（30%）		筆記試験：到達目標の達成度を筆記試験の正答率で評価する。 レポート：提出されたレポートについて、その記述内容の評価を行う。				
課題（レポート等）に対するフィードバック			レポートは採点し返却する。課題内容についてフィードバックする。			

科目名 ナンバリングコード	最先端の医療と看護 NUS3174MN8	選択科目	4 年次 1 学期	講義・演習	1 単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 加藤 陽子				
科目担当者	医学部看護学科 松本 悠貴 先進漢方治療センター 恵紙 英昭 医学部産婦人科学講座 津田 尚武 医学部医療検査学科 棚町 千代子 大学病院看護部 杉島 寛（臨床看護講師）、三重野 智志、平塚 奈希				
教員の実務経験	総合周産期母子医療センターに助産師として実務経験を基盤とした授業を展開している。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP4 の看護の現象を自ら探求し、問題を解決することができる能力の①既習の知識に新たな知識を取り入れ看護の現象を理解することを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 医療・看護・検査技術の新しい知見を得ることにより、先端医療及び医療・看護・検査技術が発展していく中で自らが看護師としての果たすべき役割とは何かを探求し続ける能力を備えるための素地を養う。 到達目標 1) 医療、看護及び検査分野における新しい知見、技術、取り組み等の概要を説明できる。 2) 先端医療及び新しい看護技術、取り組み等に関する文献から得た知見を説明し、看護の目指すべき方向性を思考、グループで共有、プレゼンテーションをすることができる。				
授業概要	各専門分野の教員によるオムニバス形式で行う。 まとめとして医療・看護が発達していく中での看護師の役割に関するグループワーク、プレゼンを行う。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	検査機器、検査技術の開発	棚町・加藤【講義】	検査機械・検査技術の復習	15分	
第 2 回	ロボット支援手術の実際	三重野・加藤 【講義・演習】	ロボット支援手術における看護の復習	15分	
第 3 回	先進漢方治療と看護	恵紙・加藤【講義】	先進漢方治療における看護の復習	15分	
第 4 回	特定行為研修修了者の看護実践	杉島・加藤【講義】	様々な特定行為における看護実践の復習	15分	
第 5 回	個からチームとしての成長へ 「振り返りの会～ワンくる」	津田・加藤【講義】	「ワンくる」の取り組みの復習	15分	
第 6 回	子どもの発達段階に合わせた プレパレーション	平塚・加藤【講義】	子どもの発達段階に合わせた看護の復習 先端医療又は看護の新しい取り組み等の 文献検索、入手し、次回授業時に持参	60分	
第 7・8 回	医療・看護・検査技術が発達していく中での看護師の役割 (グループワーク) (プレゼンテーション)	加藤・松本【演習】	授業時に使用したプレゼンテーション資料を修正する	60分	
テキスト	必要時、資料を配布する。				
参考書	特になし				
成績評価					
方法（割合）	基準				
筆記試験（60%） レポート（40%）	到達目標 1) の達成度は正答率で評価する。 到達目標 2) の達成度はグループ単位での評価とする。先端医療又は看護技術や取り組み等の中での目指すべき看護師の役割を文献及びグループでのディスカッションを元にまとめられているかを評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		採点后、必要に応じてフィードバックする。			

科目名 ナンバリングコード	公衆衛生看護管理論 PHN3115MN8	選択科目	4 年次 1 学期	講義	2 単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 重松 由佳子				
科目担当者	医学部看護学科 小島 一将				
教員の実務経験	行政保健師として地域の特性に応じた保健活動・保健事業の計画立案に従事した教員が担当し、具体的な活動を踏まえ公衆衛生看護管理の機能について教授する。				
ディプロマポリシーとの関連	本科目は、ディプロマポリシー DP5 の他職種と連携・協働し、看護の役割を発展させることができる能力の①看護職及び他職種の機能・役割及び関係を構築する方法を理解することを目指している。				
教育目標 到達目標	教育目標 地域で生活している人々の健康と生活をよりよい状態に維持・向上するために、地域のニーズや特性に合わせて、地域の人々や関係者と協働して行う地域保健活動を効果的かつ円滑に遂行するために行う管理機能を学ぶ。 到達目標 1) 公衆衛生看護管理の理念、目的、対象と方法、看護管理の機能について説明することができる。 2) 健康危機管理時に必要な公衆衛生看護管理について説明することができる。 3) 地域ケアの質の保証のための地域の人々や関係者の役割機能について説明できる。 4) 地域ケアシステムと地域ケアコーディネートの必要性と構築活動について事例を踏まえて説明することができる。				
授業概要	講義とグループ演習（健康危機時の対策や保健活動の検討、支援事例や地区活動の実際の取り組みの評価）を行う。				
授業計画					
授業回数	授業の内容	担当者等	準備学習（予習・復習等）	必要時間	
第 1 回	公衆衛生看護管理の理念・目的・機能，保健師の役割，統括保健師，マネジメント，リーダーシップ	重松【講義】	シラバスを確認	終了後…に15分～20分用語の復習をして知識を確実にし、講義前にテキストを読み（20～30分）、疑問点を明確にし臨む。	
第 2 回	地区管理・情報管理・組織運営管理・事業業務管理	重松【講義】	公衆衛生看護管理構成要素		
第 3 回	事例管理、予算編成・予算管理、人事管理人材育成	重松【講義】	公衆衛生看護管理構成要素		
第 4 回	健康危機管理・リスクコミュニケーション	重松【講義】	防災・災害時の保健活動		
第 5 回	災害事例管理の実際	重松【講義】			
第 6 回	児童虐待のリスクマネジメント	重松【講義】	児童虐待防止		
第 7 回	児童虐待事例管理の実際	重松【講義】			
第 8 回	感染症のリスクマネジメント	小島【講義】	感染症・結核予防対策		
第 9 回	感染症事例管理の実際	小島【講義】			
第 10 回	精神障害者のリスクマネジメント	小島【講義】	精神障害者への地域支援		
第 11 回	精神障害者事例管理の実際	小島【講義】			
第 12 回	地域の特性をいかした保健活動 1	重松【講義】	事例検討		
第 13 回	地域の特性をいかした保健活動 2	重松【講義】	事例検討		
第 14 回	地域の特性をいかした保健活動 3	重松【講義】	事例検討		
第 15 回	地域の特性をいかした保健活動 4	重松【講義】	事例検討		
テキスト	なし				
参考書	標準保健師講座① 公衆衛生看護学概論 医学書院 2024 年 平野かよ子 編：最新保健学講座 5 公衆衛生看護管理論，メヂカルフレンド社 2011 年 井伊久美子 編：保健師業務要覧：日本看護協会出版会，最新版 2024 年 岡本玲子 編：公衆衛生看護テキスト 公衆衛生看護活動 I 医歯薬出版株式会社 2022 年 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 2024 年 岡本玲子 編：地域の強みを高める公衆衛生看護技術 医歯薬出版株式会社 2020 年				
成績評価					
方法（割合）	基準				
レポート（50%） 受講態度（50%）	到達目標 1) 2) の到達度を正答率と筆記で評価する。 到達目標 2) 3) 4) の到達度を、健康危機時の状況、取り組みを行う関係者の役割機能、管轄地域の特性をふまえた管理について検討できているか評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック		第 15 回にレポートの全体的な講評を行い、返却はしない。			